

演劇会議

■ ソ連邦の解体と社会主義リアリズム……………大橋喜一…1	「ガリンコ演劇祭」に参加して……………萩坂桃彦…12
□ 純粋TV世代の演劇……………栗原省…16	第5回全演(東)「作家会議」について……………栗木英章…24
西会議「演劇ワークショップ」から……………三浦義夫・梨子田一夫…25	■ 劇団通信……………27
地方都市に根づく劇団はぐるま……………こばやしひろし…50	ドラマを楽しくするために ―これからの方言指導―……………大原稷子…56
ロシア観劇、ありのまま〈モスクワ・レポート13〉……………桜井郁子…59	■ 劇評……………
「ナツヤスミ語辞典」(関芸スタジオ公演)……………阿部好一…62	『亜也子』(劇団大阪)……………栗田備右…64
'92大阪新劇フェスティバルの4劇団……………今泉おさむ…68	『わか街・大阪一ひがし』(劇団未来)……………長谷川伸二…71
『公園物語』(ルクト舎)・『ジャンプ』(麦の会)……………福島重雄…73	『グッド・モーニング・ショーン』(シアターII)……………宮津泰子…75
中部B92年11月～93年3月の上演から……………丸子礼二…77	はぐるま・文化座・演劇アンサンブル・東芸・銅鑼・埼芸……………萩坂桃彦…80
□ 戯曲……………	神男(しんおとこ) ―儀儀請負人―……………東川宗彦…86

——ふたたび、夏にもえる
あの、三重の「演劇フェスティバル」
がやって来た——

日時 1993年8月20日(金)～22日(日) 3日間
会場 三重県員弁郡大安町文化会館
参加賞 1万5千円 (宿泊・湯の山温泉・希望荘)

内容 交換上演・シンポジウム・歓迎レセプション
〈記念講演〉 木津川 計氏 (立命館大学教授)

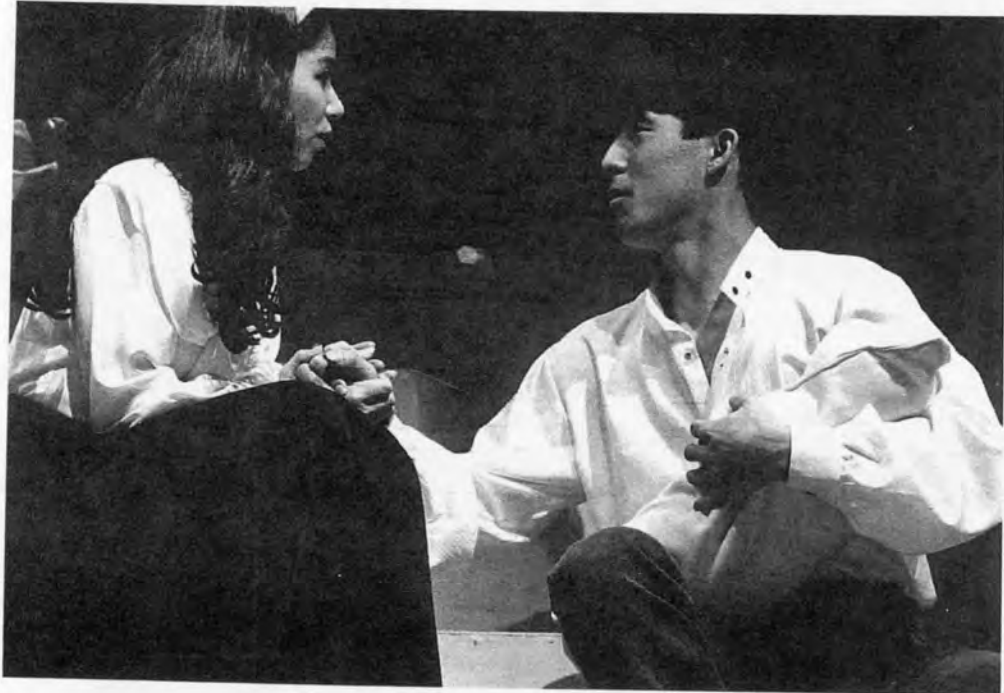
〈出場劇団〉
劇団支木(青森)川村光夫・作『がんとり』
劇団埼芸(大宮)田宮虎彦原作・平石耕一脚色『花』
劇団四紀会(神戸)モリエール作『スカパンの悪だくみ』
劇団演劇街(山口)井上ひさし作『雪やこんこん』
劇団たけぶえ(福井)宮本研作『人を食った話』
このほかに三重県下の高校演劇の上演があります

主催 大安町教育委員会・全日本演劇フェスティバル
交流実行委員会

主管 三重県高校演劇連盟・三重地域劇団協議会

後援 文化庁・全日本リアリズム演劇会議・日本アマチュア演劇連
盟・員弁郡教職員組合

〈現時点での問合せは全演事務局・劇団はぐるまへ〉



■青年劇場 『アダム星』 作・演出・ジェームス三木 左・佐藤尚子 右・田中慶太

■福岡市劇団協議会合同公演 『路上』 作・チエホフ 演出・高尾 豊



感動をつくり、感動を語る

世界劇場会議 '93

期 日 1993年7月14日(水)～17日(土)

会 場 愛知芸術文化センター・名古屋市芸術創造センター

<概要紹介>

●主催構成団体は——愛知県・名古屋市をはじめとして県・市下の文化振興事業団・日本舞台美術家協会および演出・俳優・照明・音楽にわたって、20ほどの諸団体。

●後援も50団体ほどで——文化庁を筆頭に、岐阜・三重県・名古屋市教育委員会、中部地方都心の商工団体、放送、テレビ、新聞の各社が名をつらねており、わが全日本リアリズム演劇会議もその一員であります。

●会議の規模は——海外13ヶ国24人の招待者や日本国内から劇場プロデューサー、舞台芸術家、演出家、俳優、舞台技術者、文化行政担当者、建築家、文化経済学者などによびかけ期間中5000人の参加を目論むものです。

●開催運営には——委員のメンバーに、園良昭、土方与平、ふじたあさや、舟木淳、内山千吉、宇都宮吉輝、木崎裕次、北村想、しかたしん、久保田明、こばやしひろしなどの各氏の名前を見え、一本のねじ、くぎとしてはたらいに見えるのがわかりました。

●会議は各分野のセッション、フォーラム型式でもたれるようです。参加費は6000円が基礎になっているようですが、参加希望の際は問合わせの必要があるでしょう。

事務局は 464-01 名古屋市千種区不老町

名古屋大学工学部建築学科清水研究所内

「世界劇場会議」事務局です。

(萩坂桃彦・記)



■演劇集団土くれ
『11ぴきのネコ』
作・井上ひさし
演出・福田悦雄



■劇団はぐるま
第25期研究生卒業公演
『ブンナよ木からおりてこい』
原作・水上 勉 脚色・小松幹生
演出・服部みつまさ



■劇団やませ
『海を越えたかった男』
作・榎谷伸夫
演出・栗谷川 洋



■劇団支木
『きみうたえたまゆらのとき』
作・演出・篠崎淳之介



■テアトル・ハカタ
『おこんの初恋』
作・北条秀司
演出・野尻敏彦



■劇団あしぶえ
『おこんの初恋』
作・北条秀司
演出・團山士筆



◀名古屋演集
『ジブシイ』
作・横内謙介
演出・浦はじめ

▼劇団潮流
『恋歌がきこえる』
作・小池倫代
演出・藤本栄治



■劇団湖
『わが町・三笠』
作・高坂純
演出・加藤元 飯田信之



■神戸職演連
『ママの貯金』
作・J・レドルウデン
訳・倉橋健
演出・菊地照一



■テアトル・ハカタ
『つりしのぶ』
作・山本周五郎 脚色・鶴岡高
演出・野尻敏彦



■劇団名芸
『夢芝居』
作・栗木英章
演出・片野耕治
(名古屋市民芸術祭賞)



■劇団湖 『わが町・三笠』 作・高坂純 演出・加藤元 飯田信之

■劇団大阪 『亜也子』 作・岡部耕大 演出・熊本一



■劇団埼玉
『花』
原作・田宮虎彦
脚色・平石耕一
演出・由布木一平



■演劇集団石るつ
『11ぴきのネコ』
作・井上ひさし
演出・福田悦雄





■劇団大阪新人公演 『戦 い』 作・ハイナ・ミュラー 訳・市川 明 演出・堀江ひろゆき



◀名古屋反核舞台人の集い'93
『紅い花』
作・栗木英章
演出・木崎裕次
(演劇人冒険舎)

おことわり・おくれてこの頁に間に合わなかった写真、やむを得ず、通信の記事なかにはさみました。関芸・京浜・河童のみなさんです。

<はぎ>

ソ連邦の解体と社会主義リアリズム

大橋 喜一

はじめに

二年前、ソ連邦解体という世界的にドエライ事態がおきました。だからわたしもドエライ衝撃をうけました。全リ演の人々にとってもドエライことだったと思います。だからこそ、「演劇会議」七九号で議長団発言が特集されたでしょう。これは時宜をえたことで、流石さすがだわいとわたしは感動してしまいました。

だが、それらの多くを読んでみて、正直いってわたしは淋しかった。結論的に言ってみますと、みなさんほとんど思考停止であること告白されている、そう思えました。(この言葉ゴーマンなりと怒ってくださってけっとう)その後の「演劇会議」をみても、このドエライ衝撃への反響は皆無にひとしい。とい

うことは、衝撃を感じたのはヒト握りの議長団くらいのものだったのか? (とすれば、なにを可言わん) あるいは、衝撃はあっても文章にまとめたくとも、まとめようがなかったのか。(後者であってほしいとひそかに思っています)

走り書きと独断へのおことわり

ところで、わたしはかねがね「リアリズム」について発言したいとの、勇み足的な気持をもっていました。それは、ソ連邦の芸術とくに「社会主義リアリズム」についてのもの、半分はオッカナビックリの思いでした。で、その気持を萩坂さんの諒解というよりゲキレイを(わたしの主観)うけて筆をとりま

した。

ところが、わたしはいま、とてもむずかしい戯曲にとりつかれていて、青息吐息のありさまなのです。いささか軽卒にすぎたかな…と後悔しながらも、萩坂さんの期待に応えなければと、ともかく、走り書きであっても書こうと決心しました。それも 独断と偏見を交えたままの文章になってしまおうということ、諒解していただきます。それというのは、いわゆる「リアリズム」とよばれる代物は、歴史的にとっても面倒な事情を引きずっていますからなるべく誤解されないように述べようとすると、わたしの文章能力では(というより学識程度)独断を重ねなければ、とてもまとまりがつかなくなる、という悲しい自覚があるからであります。

以下は、その大雑把な項目です。

一、リアリズムの文学的な概念と近代劇運動。

二、マルクス、エンゲルスのリアリズムなる芸術についての発言。

三、ソビエト革命後の、社会主義リアリズムの成立と、その政治的な作用。

四、それを、天皇制下の資本主義国である日本への移入に伴う、もろもろの論争。

五、戦後日本の新劇運動と労働者演劇（自立演劇）の流れ。それらの全体としてのリアリズム観の固定化。理念の喪失。

六、地域演劇の発展。西リ演・東リ演の結成。リアリズム演劇会議なる名称の生れた経緯。（わたしはいろいろな疑点を感じています。）

七、今日の演劇状況と全リ演の活動。

八、今日にふれてゆくとなりますと、それらを飛び石傳的に述べてもたいへんなスペースが要りますので、独断、偏見のまじった走り書きになるのを、どうかお許しねがいたいと、述べる次第です。

などにふれてゆくとなりますと、それらを飛び石傳的に述べてもたいへんなスペースが要りますので、独断、偏見のまじった走り書きになるのを、どうかお許しねがいたいと、述べる次第です。

社会主義リアリズムなるものの歴史

一、リアリズムなる芸術概念は十九世紀の後半、文芸創作上の思想として、はじめてヨーロッパに生れたといわれます。（ゴンクール兄弟、フローベル、ゾラ、ディケンズ、など）それは自然主義・写実主義にもとづく芸術的な方法意識で、政治的な理念をふくむものではなかった。それまで芸術上ではリアリズムという概念は使われなかったといわれています。いわゆる古典的リアリズム（ギリシャ悲劇やシェークスピアについて言われる）は、後世にあつてつけられた、というのは確からしいようです。

二、演劇におけるリアリズムの傾向は、ほぼ同じ時期に生まれていますが、通常はリアリズムとはよばれないで、《近代劇運動》とよばれています。（イブセン、ストリンダベリ、チェホフ、ハウプトマン、アイランド劇、など）そして、日本の新劇運動は、この近代劇運動の移入としては認められました。

三、そのころ、経済学者としてのマルクス、エンゲルスは、文学や戯曲についてもさまざまな手記や書簡を書いていました。それらは断片的なものです。後年集められて、いわゆる「マルクス、エンゲルスの芸術論」

とされています。（有名なのは、マルクスの「ジッキンゲン論争」。エンゲルスの「カウツキー夫人への手紙」など。）それがさらに後年まとめられて、それらの要約と圧縮と、さらに政治的解釈を加えての発展？の上に、いわゆる《社会主義リアリズム》の核心的思想ができていきました。（これはわたしの独断的解釈です。）

四、ソビエト革命が成功します。一国社会主義革命を世界に社会主義革命の砦とする。つまりコミンテルンの活動に結びついて、《社会主義リアリズム》なる概念がつくられます。（一九三二年、ソビエト作家同盟大会）。やがて、その社会主義リアリズムは、後年演劇運動の上にあつては、多分に文化政策上の理念として、アヴァンギャルド芸術批判、形式主義批判などの思想的根拠となつて、結果的にメイエルホリドが処刑された演劇家のワフタンゴフやタイロフが追放されたりしました。そして、ソビエト演劇の主流としては、スタニスラフスキーやダンチェンコの方法がとられました。

さらに社会主義リアリズムは、文学や音楽や美術にあつても、それぞれのジャンル

に於じての、批判・抑圧・追放などの芸術行政の先用を發揮しました。作曲家ショスタコーヴィチは形式主義批判で苦しめられ、ドストエフスキーの作品に至つては長い間発禁状態におかれてました。それは芸術上のテーゼというよりは、ソビエト共産党の文化政策での、政治による芸術支配力としてのすさまじい威力を發揮しようです。

五、ソビエト革命の成功は、日本の芸術家、とくに文学や演劇に大きな影響をもたらしました。だが、その移入にはたくさんさんの混乱がともなつてきました。はじめは、唯物弁証法的創作方法といって、芸術家が唯物論的哲学的思考方法を学べば、そこから自然的に芸術が生れてくるというような、科学的思考と芸術創造とをいっしょくたにした、デタラメな移入意識もありましたが、それに代るものとして、この社会主義リアリズムがもち込まれたものらしいといわれています。

しかし、ソビエトの新しい現実に応じて生れた社会主義での、表記理念にもとづいた創造方法が、天皇制下の資本主義国である日本で、そのままに適用されるわけはありません。

社会主義なる言葉を使うことすらが、弾圧の対象になりかねない日本での、その適用はさまざまな論議をよびました。（久保栄、村山知義、森山啓、中野重治、蔵原惟人など）そして、プロレタリアリズム、反資本主義リアリズム、革命的リアリズム、発展的リアリズム、などの、概念上の論争をよびおこしました。久保栄の「火山灰地」はこうした論争のはての、実証的な創作として生れています。

しかし、日本は間もなく戦争に突入して、革新的演劇はほとんど弾圧され、暗黒時代をむかえます。（このあとに演劇人の転向問題がおこりますが、わたしはそれをよく知りません）

六、敗戦後、新劇運動は復活しました。敗戦直後の占領軍の性格は、天皇制の強圧のもとにあつた日本人にはおどろくほどリベラルに感じられました。かつての社会主義リアリズムの理論は、先進的な演劇人の創造意識の支えとなりました。それらの運動意識として、専門劇団を中央にして、労働者階級による全国的な自立演劇運動（工場を拠点にした労働者演劇）でそれを支え、社会主義革命をめざす文化運動として、（全

国的な高まりを示しはじめました。しかし、大陸において中国革命が成功しますと、日本占領のアメリカ軍の性格はガラリと変わり、日本をアジアの反共基地にするという方針をとりました。官庁や工場におけるレッド・パージの強行、日本共産党の影響力の経営からの追放という政策をおしつけます。その影響で自立演劇運動は逐次経営から追放されていきました。

つづいて朝鮮戦争がおこり、軍需景気によって日本経済は回復の糸口をつかみ、日本の資本主義は復活にむかいます。

七、この時期に、演劇の専門家としての新劇人たちはもう一つの打撃をこうむりました。それは日本共産党の内部分裂、いわゆる五十年問題で、党内の政治方針の分裂をそのまま劇団内にもち込まれるという誤りのおかげで、劇団のなかに分裂が生れテンヤワシヤの騒ぎとなりました。以後、日本共産党の影響力は新劇からは大きく後退します。

かくして戦後の新劇運動は、性急な政治指導に反発して、むしろ専門芸術家としての職業的な完成の方向にすすみます。しかし、その芸術的な創造の意識としては、戦前の《社会主義リアリズム》の精神を、戦

後の状況において検討するということもなく、(それは理論的にもたいへん困難な問題を含んでいました。)なんとなく、進歩的な新劇としての革新ムードとして受けついでいきました。(これにもわたしの独断がありますが、同時に確信するところでもあります。)

八、いわゆる六〇年安保とよばれるたたかいは、新劇人をしてふたたび統一行動にもりあげました。そこでは政治的な(街頭的というべきか)統一行動は可能でしたが、これが芸術創造上の問題となると、意見は四分五裂してしまうというありさまでした。

(わたしはこの頃から、新劇人として運動に加わっていたので、自己体験として知っています。)そして、新劇はなんととはなしの革新ムードのなかに、自由に花を開いていきました。

これと併行して、観客組織としての労運運動が、新劇の受け手として発達していきましたが、ここでも企業経営者たちは労演の会員たちを圧迫するという妨害を行いました。

九、一旦潰滅状態にされた自立演劇運動は、五〇年代なかばから、東京・大阪・名古屋・

京都などで復活して、かなりの発展を示した。その中心は大阪でした。専門演劇人はいまも昔日のように協力することもありません。しかし、自立演劇の火は次第におとろえてゆき、一九八〇年代にはもう消滅したの(にひとしい状態となりました。)(しかし、自立演劇運動の火は、国鉄労働組合にあっては、今日現在でも細々とつづいています。その原因は、一九七〇年代からの日本経済の高度成長化にともなう労働者の意識の変化と、経営者たちの三〇年にわたる「経営内からの演劇の追い出し」の成果であると思えます。

十、経営を閉め出された労働者演劇は、各地域に出てゆき、地域演劇サークルとして劇団をつくりはじめました。これら地域劇団は、もう専門演劇人の指導などに頼ることなく、(専門演劇人も、労働者や地域演劇活動についての関心も薄らいで)それぞれ地域演劇文化を築くための活動をはじめました。

川崎・岐阜・甲府・神戸などに生れた地域劇団は、大阪・京都中心に活動をつづけた第二期の自立劇団運動と共に、日本の労働者演劇の主流を形づくっていきます。そ

れは戦前の専門演劇人によるプロレタリア演劇(いわゆるプロット(日本プロレタリア劇場同盟)系の、上からの組織方針とは別の、労働者の手による自主的な演劇活動として成長してきます。そして、一九六二年七月に、西日本リアリズム演劇会議が結成され、(加盟劇団一六)翌六三年二月に北海道演劇集団(加盟二八劇団)。八月に東日本リアリズム演劇会議(加盟七劇団)の結成をみます。以後の歴史は、わたしが述べるまでもありません。

全国各地に生れた地域劇団が、その連合体をこさるるに当って、最初の地域の「西」において、(リアリズム演劇会議)なる名称が、つまり、芸術方法上のひとつの概念が、何故使われたのか、わたしは今もって不思議に思っています。それはおそらくは提唱劇団であると思われる、「はぐるま座」(山口)のその後の行動と関連があると推察していますが、ここでは言及するだけに止めておきましょう。

二、今日の演劇運動では、専門演劇人の先進的意識をもつ劇団は、「新劇人会議」(六〇年安保時に結成された)に集っています。(新劇人には他に劇団協議会なる組織があ

ります。)労働者演劇の流れをくむ地域劇団は、全国的組織としては、「全日本リアリズム演劇会議」を形成しています。そして、全国各地には、その他多くの地域劇団、アマチュア劇団がそれぞれに結成されたり消え失せたりして、その全体は把握しにくいものになっています。

以下、わたしが述べる推論の対象になる劇団は、専門劇団では「新劇人会議」に集っている劇団。地域劇団では「全日本リアリズム演劇会議」(全リ演)をおもに対象にしてのものであります。

いわゆる(社会主義リアリズム)なる芸術思想は、これらの専門演劇人や全リ演に加盟している人々の芸術思想として、どのような関係にあるのでしょうか?

その構成員全体については、ややランボロ(一)な言い方をすれば、それらはほとんど漠然として革新意識といったもので、それらもナマの政治意識である場合も多く、芸術的な創造意識に結びついているものは至って少ないのではないか。このランボロ(一)な意見をもつに至ったわけは、わたしがこれまであちこちの劇団に、おもに戯曲についての講師として、喋ってきた経験の坎であり

ます。

どこの劇団も、演劇の傳習についてはみんな苦労していて、(なかにはまったく考えないところもあり)若い人々の訓練としては、発声と体操と演技実習があるくらい。そして劇団はそれぞれ三〇年以上の歴史を経てきています。

演劇という芸術は、文学や美術とは異って集団芸術です。集団の意識は傳習の努力がなされない限り変容していきます。そうしたなかで、なんととはなしの革新的な演劇思想、それに名をつける必要があるとする

と、つまり、(社会主義リアリズム)、あるいは(リアリズム演劇)になるのではありませんまいか。

東京の専門演劇人の、多くの場合はそのようです。なんとなく、社会主義リアリズム。全リ演の傘下劇団の人々は?—わたしにはよくわからないのです。だが、リアリズム演劇であることは、同盟の名から推しても考えられます。いずれにしてもプロレタリア演劇の意識をもっていることではあるでしょう、(プロレタリアなんて言葉は、もはや死語であると考えられているかもしれません。)

いずれにしても、なんとなく(社会主義リアリズム)の思想が底流にあると考えるいいでしょう。

三、なお、ひとつつけ加えておきますと、社会主義リアリズムには、その解釈内容について、哲学者のG・ルカーチと、女流作家アンナ・ゼーガースの間に、精緻な論争があります。いまのわたしはその内容を述べるだけの力がありませんから、まったく触れないでおきます。

以上、これまで走り書きといいたながら、くどくど述べたてたわけは、これからわたしが述べる独断・偏見にみちた能書への、前もつての言いわけのつもりであります。

リアリズムと、その歪曲としての社会主義リアリズム

—告白すれば、こうした見出しをつけるのに、わたしは清水の舞台からとび下りる気持さえしています。そのくらい小心者なんです。

リアリズム—それは芸術創造上の概念で、

現実主義・写実主義などと訳されています。価値基準はもとより、政治的評価を示す言葉でもありません。これはわたしの信念です。それがソビエト革命のあと、《社会主義リアリズム》として発展してくると、ある方向への政治的評価を示す芸術用語として、モンスターに生れかわります。わたしはそのことで、かつて「演劇会議」七三号に書きました。八劇作アフォリズムという題のなかに、「ある芸術思想の遍歴」「怠けものリアリズム」とのアフォリズム（警句）で書いてます。ぜひ、ぜひ、読んでみてください。

《社会主義リアリズム》の考案者は、ソビエト共産党の政治家たちである。断じて芸術家ではない。——もとより、わたしの独断で、いまでは信念にさえなっています。

この怪物が、その後のソビエトの芸術家たちに与えた影響（ある種の作品に与えた批判・除名・追放……処刑まで行われたという）を考えますと、これはどう考えてもソ連共産党幹部の、文化統制の道具のようです。それにコミンテルンの世界戦略や、スターリン主義独裁下の文化政策が絡まった——汚れた理論と思えてなりません。

でも、わたしは、だから社会主義リアリズム

のすべてを否定すべきだとは、毛頭も考えていません。否定すべきなのはその政治的用法です。それから、社会主義リアリズムとなつてからつけ加えられた余計な定義のいくつかです。

わたしは社会主義リアリズムの、もつとも根底にあるものは、マルクスとエンゲルスの芸術観であると確信しています。そして、この二人の学者の言葉は（いまのわたしの記憶する限りでは）、《リアリズム》とは言っています。頭には《社会主義》なる語をつけてはいません。だから重要なのは《リアリズム》であつて、《社会主義》は政治的につけ加えられた拡大解釈だと思つてます。

理論の土台となつたと思われるマルクスやエンゲルスの言葉は、文学や演劇をもつて社会的現実を表現する場合に、人間の行動をどのようにとらえ、その性格や言動になんを見なければならぬか、という点で、じつに価値ある観点を示しております。その根底には、人間社会を歴史的な階級社会としてとらえ、社会現象の多くを階級闘争のあらわれとして見る哲学がありますが、それは今日の現実にあつても有益なものです。しかも、ますます重要であるときえ、わたしは思っています。

しかし、それは哲学や社会意識での観点であつて、芸術の方法意識ではありません。このことは芸術家にあつては、きわめて重要なことです。《リアリズム》をいくら追求しても、芸術上の方法意識（つまり、演劇人にあつては、演劇のもつ美学的意識）を欠いたならば、《リアリズム》は観る人にとっては、クソ面白くない現実模写や瑣末主義になるのです。さて、ソビエトで形成された社会主義リアリズムは、歴史にみるならば芸術創造の理論であるよりは、党政治家による芸術統制の道具であつた。という解釈から、この社会主義リアリズムのなにもかも否定するとしたら、それは重大な誤ちであると、わたしは考えるのです。では、そのなにを積極的にとり入れ、なにを否定しなければならぬのか？ わたしの独断は次の段階に移ります。

わたしは社会主義リアリズムを、次の三点に要約しています。

- 一、生活の真実を歴史的具体性で描く。
- 二、思想性・党派性をもつ。
- 三、民衆の社会主義的教育への、教育性をもつ。

（これはわたしの独断ではありません。一

般的な、百科辞典などに記述されているところでもあります。）

たしかにこれらは、マルクス・エンゲルスの芸術観をもとにしてはいますが、大きく簡略化されています。その上に、党の革命後の文化政策に応じての、発展的な歪曲がなされていると思います。この三点への要約のうち、わたしが納得できるのは第一点だけです。つまり、生活の真実を歴史的具体性で描く、という点です。では、第二点は？ 思想性と党派性なるものは？

わたしの考えでは、これらは芸術作品の、出来上った作品がもたらす結果なのであつて、芸術家が創作にあつた意図として、はじめからあきらかに意図すべきものではない。と、考えます。これは創造上の主題（テーマ）についての問題です。そして、この主題（テーマ）なるものは、創作において苦しんだ経験をもつ者であれば——つまり芸術創造の実際

の苦しみを経験した者は、（文学であろうと、絵画や音楽であろうと、したがって戯曲であろうと）作者の意図を超えて作品に表われるものは作者の意図を超えて、多義的な意味を含ん

だ表現されたものです。そこに文学なり、絵画なり、音楽なりの、芸術としての意味が生じます。それは同時に受けとり手、つまり、読者なり鑑賞者なり観客の、自由な意識がわかるものです。話が芸術論に入りましたが、マルクスの「ジッキンゲン論争」とよばれるラッサールの手紙などを読んでも、思想性・党派性といったものをそんなに単純には書いてなかつた、わたしは記憶しています。むしろ、真のリアリズムは作者の日常的生活意識を超えて、表現にあらわれるときえ言つてます。（ただし、バルザックの作品例として）

これらはすべて芸術作品のもつ多義性にもとづくものです。党派とか、思想とかを、芸術がもたらす効果として作家があらかじめ意図するようなものではない。わたしはそう理解しました。マルクスやエンゲルスの所説もそう言っていると、はっきり感じています。ですから第三点の社会主義思想への教育性についても同じことが言えます。

芸術の創造の秘密は、政策の実現や、単純な機械工物物の完成とは趣きが異なるものです。作者はおのれが創作するものの完成体を、創

作意識にあつては予測しております。その予測に導かれながらも、作品が完成するまではわからないものなんです。たいへん微妙な、無意識界の志向性によって造つてゆくものです。（作家も、詩人も、画家も、音楽家も、この点では同じだと信じます。）「社会主義社会への教育性」なんて言葉は、政治的官僚の考えることです。もし芸術家がそんな風に考えたとしたら、それは政治的宣傳家としての自分を、芸術家だと思ひこんでいるだけでしょう。

わたしは、社会主義思想を否定してはいません。しかし、芸術をもつて労働者階級を教育する——なんて言葉を聞くと腹が立ちます、わたしは労働者の出身で、いまでも生活は労働者並以下ですから。教育性なんてとんでもない。思想性・党派性が芸術作品にあることは否定しません。しかし、芸術作業でのそれは単純なものではない、ということに、とどめておきます。

以上のようなわけで、わたしが社会主義リアリズムなるものを支持する点は、すべて、生活の真実を歴史的具体性で描く、ということにかかつていて、思想性とか党派性という

ものは芸術家の意図にもとづくものではなく、表現されたものの結果にかかる——つまり、作家自身の意図を超えたものとして考える点にあります。

社会主義リアリズムは破産したか？

今日の日本では、専門演劇人の世界でも、また、全リ演の全体としても、リアリズム演劇が流行らないという現象がひろがっているようです。ソ連邦の解体という現実、さらにその背景的な裏付けになるかも知れませんが、そこでもつ一度、リアリズムとはなにか？という問題を考えてみたいと思います。

わたしは、リアリズムは、数ある芸術の方法のなかの、創作手法のひとつだと思っています。ただし、もっとも大切な手法なのです。ところで、絵画を例にとりますとリアリズムはきわめて重要な手法ですが、リアリズム以外にも、印象主義あり、キュビズムあり、抽象主義あり、シュールレアリスムもあり、じつに多様です。多様な方法のなかに絵画の歴史は発展しています。(ただし、ソビエトでは形式主義批判があり、ナチスも退廃芸術

として、P・クレーなどの作品を排斥しました。)

ところでわたしたちの周囲の演劇の場合、リアリズム以外にもどのような戯曲の方法のジャンルがあるのでしょうか？……歴史的には、表現主義演劇などあり、現在では不条理劇云々がいわれています。しかし、これまでのわたしたちの周囲にあったものは、なにもかもリアリズム、なんです。まるでリアリズム以外に演劇的手法がないかのように。わたしにはそう感じられてなりません。(演劇は生身の俳優の演技を主体としますから、絵画のような手法の変化の自由度は限られるとしても。)

演劇はこれまで、さまざまな方法のジャンルを生み出しています。悲劇、喜劇、ファルス、寓意劇、象徴劇、夢幻劇、独白劇、朗読劇などなど。こうしたなかにリアリズムを入れると、写実劇あるいは現実劇とよばれるでしょう。現実を写實的に描いて、そこに未来への希望や確信を感じさせる。もしもそれが、希望や確信を感じさせなかったならリアリズムではない——こいつはへんな芸術観によつて、わたしたちは長い間閉まれていたように思います。公式的にいえば、写実——社会主義への未来性、といった考え方で、リアリズム

ムは写実的手法と未来社会への展望を短絡させて考えていたように思います。それが創作手法では現実的写実性を、思想意識としては社会主義への未来性を固定化させたのではないのでしょうか。つまり、ここにも過去の社会主義リアリズムの亡霊がつきまわっている、とわたしは考えます。

現実をリアルに描くということ、社会主義への未来の展望が見えるということが、そんな単純なものではないことを、ソ連邦の解体は歴史の現実として示しました。社会主義リアリズムは破産しました。但し、その破産は大きく考えても半分ぐらい、それがわたしの考えです。破産したのは政治的な党派性や啓蒙主義的な教訓性です。リアリズムの根幹——つまり、現実を歴史的に具体性において表現するということは、破産するどころではなく、これから、さらに重要であると考えます。このことについては、次の章で具体的に述べたいと思います。

リアリズムなる意識のために、いつしかわたしたちの演劇の手法(そして戯曲の手法)は、かなり固定化してはいなくなったでしょうか。同時に芸術の価値をきめるのに、その芸術ジャンルの固有な美的条件を軽んじて、社

会的あるいは政治的評価に傾きすぎてはいなかったでしょうか。

芸術の真の価値をきめるものは、その芸術ジャンルの美的な条件にしたがうものだと思います。絵画ならば造形や色彩にかかわり、音楽ならば音——メロディやハーモニーや楽曲構成にかかわるはずで、文学は、すこしむずかしい。文学は言語芸術で、言葉ですべての事象を表現しますから、表現そのものに社会や歴史や人間意識が深く結びついていますので、美学的には絵画や音楽のようにわかり切れません。しかし、表現方法の文学的リアリティには、文学独自の手法の完成があると思います。そして演劇の根底には、文学と

しての戯曲があります。つまり演劇は、文学のもつ複雑さの上に加えて、俳優の演技や、演出の手法など、総合芸術として、最高に複雑な現実的な現象を舞台上に作り出します。現実の社会的現象ととも深くかかわる芸術ジャンルです。だから、いつの時代でも、どこの国でも、演劇は歴史ととも深くかかわる芸術として、弾圧されず、御用化もされる芸術のようです。複雑なわたしの頭ではこれ以上うまく述べられません、要するに演劇の価値を最終的にきめるものは、演

劇の美的条件だということです。

演劇の美的条件？ 簡単に言えばオモシロイということにつきるでしょう。少し難かしく言えば、観客の興味の期待性の設定とその充足法とでも言いましょうか。リアリズムを唱えるあまりにこうした演劇性への不勉強——それが今日のリアリズム不振の要因でもあると思います。そして、リアリズム演劇を目指す者は、リアリズムの課題といっしょにこの演劇性の追求もしなければなりません。だからわたしは、リアリズム演劇は最高にむずかしいものだ、と思っております。

社会主義へのたたかいは資本主義を変えつつある

今日、ソビエト同盟が解体したという現象をもって、資本主義に対して社会主義が敗れたなんて、単純に考えたらとんでもない間違いだと思えます。ソビエトの社会主義をスターリン主義とよんで、その責任を指導者の個性に帰する考え方も納得できません。少くとも、革命の理論として、プロレタリア独裁は必要だったのか？ あるいは社会主義

経済の建設方式に誤りはなかったのか？ などの検討抜きで、指導者の個性にみんなかぶせるのは、科学的に思えません。でも、わたしは政治や経済にはまったくうとい人間です。この辺のところはよくわかりません。書いていて冷汗が出てきます。

ところで、わたしは第二次大戦後の四十年の世界の歴史を、おおざっぱに、米ソ二超大国による世界支配の時代と考えています。原子兵器の開発は、超大国の間の全面戦争は地球の破壊となることを明らかにしました。(そのためにどれほど多くの民衆の運動がなされたことでしょうか。)人類は危機一髪の時機をなんとかのり超えました。(例えばキューバ危機)このように、二超大国は冷い戦争とよばれる、戦争の代理競走に、国力の大きな部分を注ぎ込みます。それは、核の開発、ミサイルの開発、宇宙開発の競走、弾道ミサイル防禦の開発、などなど。非生産的軍事部門への過大投資です。そして、ついに今日に至り両国ともどもに経済的破綻をむかえ、ソビエトの方が壊れ性がひとつ弱かった。そんな風にわたしは考えています。兵器開発や核戦略——それら高度の智能とともに、なんととも愚かな生存の哲学でしょう。……だからといっ

て、わたしは、米、ソ同罪には思えないので
す。この愚かな巨大なる核競争の仕掛人は、
アメリカであったことは歴史的に明らかです。
この地球破壊になりかねない核の独占に対し
て、必死でそれを打破ろうとしたソビエトの
核開発を、人類生存の哲学からはなんと評価
したらいいか、わたしはわかりません。この
問題を正しく解く智慧は、神にしかないと、
(わたしは無神論者のつもりでいたのですが)
そうとしか答えられません。

話が大きくなりましたが、社会主義思想が
人類に生まれたこと、その最初の国家的な
成立としてソビエト同盟が地球上に生れたこ
とは、今後の社会主義運動がどのような方向
をたどるにしろ、人類にとって大きな革命で
あったこと、これは既に現実なのです。それ
はアジア・アフリカの多くの植民地化された
民族の独立を早めました。それだけでなく、
既存の資本主義国を内部から変えつつあった、
とわたしは思います。資本主義国の勤労者・
民衆の意識が社会主義の方向に傾くことを、
もっとも怖れたのは資本主義国のリーダーた
ちです。そのもっとも典型的な国のひとつが、
わたしたちの日本だと思えます。

ひと頃、修正資本主義という言葉がはやり

た新劇の運動を支えてきた創造精神——その
中心にあったもの、それは曲りなりにも社会
主義リアリズムの意識なのだ、わたし
は思っています。

もとより、新劇世界の芸術思想の中は、か
なり広いもので、すべての人々が社会主義リ
アリズムを支持してはいないでしょう。しか
し、その先進的であろうとする主要な部分で
は、イブセンに、チェホフに、ストリンドベ
リに、サルトルに、ブレヒトに連なる人間社
会と人間の、真実の表現を旨ざしていればこ
そ、悪条件に耐えてがんばっているのだ、と
思います。それは、リアリズムの仲間といっ
ていいでしょう。このように社会主義リア
リズムの根底にある思想性は、歴史
的にも新劇運動の創造の支えでありました。
そして、また、わたしの意識をも支えてきた
のです。

それは硬直した政治主義の、真の芸術をも
抑圧してきたという、自の歴史を背負ってい
るでしょう。しかし、その真髄、それはマル
クスやエンゲルスの見解を忠実にしていると思
います。(レーニンの芸術観なるものをわた
しは知りません。)そして、わたしたちの未
来のリアリズムも、それに連なるものではな

ました。改良主義といつて、民衆の社会主義
意識をねむらせるごまかしの政策を意味しま
す。今日の日本は、多分修正資本主義なのか
もしれません。しかし、戦前の労働者の生活
と戦後の、現在の生活はたいへんな違いです。
(わたしは戦前の、底辺の労働生活の非人間
的な状況を身をもって知っています。)

そのちがいを見ずに、日本は資本主義国だ
からと、その一点からのみに、生活条件を否
定的にみるとしたら、それはイデオロギイ的
盲目というものでしょう。北にソビエト、東
に中国と社会主義国と一衣帯水で接して、日
本の資本家・経営者は、資本主義の本質は保
持しながらも社会改革を行い、つまり、自ら
を変えながら、民衆をその制度に引きとどめ
ておくために、資本主義体制を変化させ、適
応させてきました。

社会主義国への対応は、資本主義の内部に
変化をもたらします、その変化と適応の自由
さにおいて、あるいは、資本主義は一時的な
勝利の情勢にあるのではないのでしょうか。

わたしは井の中の蛙です。外国なるものを
知りません。わたしが知っている外国は、戦
前の中国だけです。それと、国境をへだてて、
「いずれ屍をさらすのはここなんだ」と眺め

いかと、いまのわたしは考えます。
なぜならば、いま現在の日本において、そ
してまた、間もなく二十一世紀をむかえる世
界状況にあっても、階級闘争といわれたもの
はなくなっていないからです。ただ、その
現われ方が、一九七〇年代以後たいへん複雑
になり、見えにくくなり、あるいは質を変え
つつあるのかもしれない。そして、それら
だけのものではなく社会主義国だけのもの
でなく社会主義国にあっても現存しているよう
です。それは階級闘争の消滅ではなく、質的
変化ではないのでしょうか。

わたしたちは、ますます現実がリアルには
見えにくくなっている時代に生きているよう
です。それをなんとか人々の目に見えるもの
として、虚構としての現実を創作するところ
にこそ、文学・演劇などの仕事があるのでは
ないのでしょうか。それは、演劇芸術にあって
は人々の楽しみでありよろこびであって、決
して、むずかしいイデオロギイのお説教や強
要ではないはずで、リアリズムといふ
芸術方法はそれを可能にするものだと思います。
ですから、わたしたちは今こそ、リアリ
ズムをその原点の精神で学ばなければならな

たソ連邦の山々ぐらいてす。

わたしは中国には、日本帝国の侵略軍の兵
士として武装して行きました。民衆に銃をつ
きつけ、街をこわし、部落を焼き、多くの中
国人を威嚇し、ときには危害を加える日本人
だったのです。だから、中国人の目をまとも
に見ることができません。

わたしは日本の劇作家のひとりです。労働
者あがりの、中年から芝居の世界にとび込ん
で、いまだ、自分で納得のいくリアリズムら
しい戯曲が書けない、仕方がない劇作家です。
資本主義国での芸術家——ことに労働者上
りの、いくらか社会主義思想にかぶれている
劇作家が、この国ではどのように扱われるか
は、つまり、資本主義国での目に見えない差
別や抑圧も身にしみて知っているつもりです。

わたしが、いま、労働者ではなく、かろうじ
で劇作家でいられるのは、背後に新劇運動と
いうものがあり、かつては労働者演劇の運動
があったからです。いま、新劇人の多くは、
運動意識の上からみると、だらしのない存在
に見えるかもしれません。そして、新劇人の
大部分は、この国の労働者の平均水準以下の
生活に耐えてがんばっているのです。そうし

い、と思っております。

この辺で、ひとまず走り書きをやめさせて
もらいます。はじめに予想したこと半分ぐ
らいしか述べられませんでした。

わたしは、全リ演でも、リアリズムが掛声
ばかりでなぜ形骸化してゆくのか? なぜ、
自らの生活や思想にもとづく創作劇が生れて
こないのか? そして、演劇のもろもろの仕
事のなかで、戯曲を書くという仕事——つま
り演劇には、どんな特殊性があるのか?
などなどを述べる気でしたが、それは
またの機会として、これで終わります。

おしまいに、わたしにこのような勝手なこ
とを書かせてくださった「演劇会議編集部」
の、ご寛容なお気持を感謝いたします。

(一九九三年二月)

『ガリニコ演劇祭』に参加して

——第十五回北海道演劇祭・紋別——

萩坂桃彦

昨年十一月のことなのに、すっかり遠い記憶になってしまった。前号のうめくさの囲み記事で、紋別を訪れるにあたっての心細さ、そして千歳空港で、劇団湖の加藤元さんに拾われたときの安堵感などを、忘れぬうちにと思い書いておいた。上演されたものの中に、少年の役をおとなの女優さんでしっかり成功しているのが目立ったので、そのことも一寸書いた。

とり大橋喜一さんから、リアリズムをれくいえむにされては困ると、短い言葉をいただいた。実をいうとその声を守っていたのである。全り演の運動の中でリアリズムを葬り去ったから全日本リアリズム演劇会議という名称は成立しなくなる。自家撞着どころか自滅である。こじつけになるが、ぼくのレクイエム論に具体的に待ったをかけたのが、紋別の『ガリニコ演劇祭』で、これには感謝すると、講評とか、これはわからなかったかもしれない。いま心を明かすと、あの演劇祭にあつまつた劇団の、それぞれがまるで地域代表のようなひたむきな熱っぽい表情を見せてくれたことに対するお世辞である。道演集の演劇祭に内地から訪れた者の定まり文句かもしれないが、やはり、その都度、心をあらわれる。

劇評の用意にその都度メモなどしておいたのだが、それなどもいまになっては役に立たぬ。しかし『ガリニコ演劇祭』は書いておかねばならぬ。高い費用をかけて、なんのためによべれたのかわからぬことになる。

いま心を明かすと、あの演劇祭にあつまつた劇団の、それぞれがまるで地域代表のようなひたむきな熱っぽい表情を見せてくれたことに対するお世辞である。道演集の演劇祭に内地から訪れた者の定まり文句かもしれないが、やはり、その都度、心をあらわれる。

ぼくはこの頃「わが心のリアリズム」などと言いつけている。「郡上の立百姓」をキックカケにして「リアリズムれくいえむ」を思いついたので、ほとんど反応はなかった。ひ

その劇の性格のちがいはあるので、早急にどちらをよし悪しとすることはできないが、俳優がおとなであることが邪魔になっておらず、こどもたちの物語としてすなおに入ってくる芝居の方がやはり感銘はのこることになる。カタチとして誇張されてくるのもおもしろいが、役づくりでは、そこから先が出ない。

『のんびり転校生』（原作・後藤竜二、台本・矢作京介、演出・飯田信之）は、小学校五年三組にどこかトロい若松という少年が転校してきて頃合いのイジメの対象になる。「バカ松」とからかわれてもニコニコしている。

堂々たるおとなたちがほとんど抵抗なく、小学生五年三組の子どもになっている。背の高いテツジ（伊藤重孝）やワルがきの小谷（外崎勝己）も異和感がない。

担任の先生（長谷川京子）がまた実にあっさりしていて、時々点検する程度で、すべて生徒の自主性にまかせる。いいテンポで劇がはこばれる。マラソンのシーンなどでは気持ちがあつくさせられる。

この少年、若松くんが、畑田道江さんという女優であるのを、これも加藤元さんに教えられておどろいた。「津軽屋」という居酒屋でだったが、三笠の加藤さんが紋別の居酒屋の常連であるらしいのにおどろいた。

二日目、十一月二十一日。ホテルの窓外の景色はいちめんの雪であった。街歩きをあきらめて早目に会場の市民会館に入り、充分な昼食時間となった。

劇団シアター11の「グッド・モーニング・ション」（作・演出渋谷健一）は、父と子の愛の話である。自閉症のようになった（原因はいろいろあって）少年ションに、旧型

の古ぼけたラジオから「グッド・モーニング・ション」と父の声がきこえてくるという趣向はいかにもこの作者らしい着想であった。わざわざ舞台をニューヨークに持っていった理由がわかる。さいごにドンデン返しがあって誰もが死んだとはかり思っていた父親が、生きて戻ってくるというのもいい。

ションという少年の役、これも梨木奈穂美という女優さんであった。実はこの上演評、まるで自信がないので、劇団新芸の宮津泰子さんに縋るといふ策を弄した。それが成功した。宮津さんの劇評を読めば読者は納得する。

夜の部の、ドラマシアターどもの『トド山第三分教場』（作・安全知康、演出・ども）はなかなか個性的な創作劇で、つくり方も意表をつくものであった。観劇まえに手渡された印刷物などによると、地元江別の公演では大変な感動を与えたりらしい。

趣向は「二十四の瞳」に似ていてどうやら作者も体験したらしい、開拓村トド山でくらしをともにした第三分教場のこどもたちの回想面の描写からはじまる。そこではおとなの演じる猛烈な、こども役には圧倒された。なかでも森村ただしという子どもを演じたあんねんゆうこさんなどは今でも顔がうかがふほどである。

戯曲の後半では、二十五年ぶりの再会となり、変りに変ったそれぞれの人生模様（中には旅役者一座の女座長がいたりする）を、銘々伝にしてみせる。心はひとつ、トド山第三分教場の思い出というわけである。音楽にのせて、ひとりひとりスクリーンにまでうつして、完全に、その日の客席にとつてのスターに仕上げた。

この劇団は一九八一年の結成らしいが、早くに自前の小屋を持ち、つかこうへいや北村想を経験しながらの、どこか怖れを知らぬ図太さを感じた。下手な批評、角を矯めて牛を殺してはならぬと心にきめた。

三日目、朝十時からの上演、劇団新劇場の『はやくに走れあまんじゃく』（作・しかたしん、演出・国部勝彦）、これにしくじった。

前後の大交流会の酒がのこっている上に、ホテルの朝食で活力づけの一杯が撮った。この芝居のイントロの部分で「あまんじやく」のあそびを見ていて、この趣向はどこでも見かけるが、新劇場の若い女優さん、いっしょけんめい、よくやっているなど、油断したトタン、睡魔のとおりことなり、気がついたら終わっていたのであった。

新劇場の多海本泰男さんから、演劇祭には若いメンバーで仕立てたので、きびしく観て下さいとまで言われていたのである。最大の痛恨事となった。これも劇団新芸の宮津さんに打明けたら、あの芝居の平板なテンポは眠くなるということであった。ぼくを慰めての言葉のようである。とにかく謝るしかない。

釧路演劇集団の『卵の中の白雪姫』（作・別役実、演出・尾田浩）を見終って控え室に下ると、間髪を入れずという感じで、「出演者全員が楽屋で待っているから、是非ひと言いただきたい」といって演出の尾田浩さんがあらわれたのは面喰らった。

後でわかったが、ともかく萩坂の話を書いて釧路に帰る計算がしてあったらしい。劇団を創立して二十年ときいていたが、全員若す

ぎるにはおどろいた。ともかくそこで話したことが劇評になってしまったので、それを思い出しながら書く。

別役実について語れるちからは余りない。ただぼくはこの作者のものを幾つか読んだり観たりしているのだが、笑えない。いろいろ可笑しいせりふやしぐさを指定してあるけれど、その人物にとっては外型はどうあれ、一所懸命なのだ。釧路演集もせりふの言い方やしぐさのかたちの上でのおもしろさを出すのには苦心しているけれど、その中身をほりおこしてのおかしさには届いていないのではないか。稽古の過程で、ぼくは、個々勝手におもしるがらずに、はじめ、ほとんど普通の会話で丁寧に辿ってみたらどうか。そして別役の謎が解ける。読んでおもしろかったからといって、役をもって自分の身体にあらわすとなると大へんなことなのだ。別役実が中村伸郎や岸田今日子に執心したのもそれだと思ふ。

しかし、釧路演集の皆さんは、演出（尾田）は熱心だし、役者さんも若々しく揃っている。こんどは自分たちでよくわかる、台意したかたちで、釧路演集らしい舞台をたのしみにしたい。

そんな話をした。もつともこの先の自分の輪を忘れての話である。

開催地の地元紋別の劇団海鳴りの『涉りてゆかん、この白き道』ある日、その時、本庄陸男（作・松田貞夫、演出・前田富美雄）は夜の部で、演劇祭のトリ公演。

北海道のひとなら、そして紋別の住民なら当然知っている有名な作家、プロレタリア作家として小林多喜二とライバルでもあった本庄陸男の話という前提で、簡明、丁寧に舞台をくりひろげる。

シモテに本庄の妻であった大屋たま子（五十嵐陽子）を据えて、在りし日の本庄陸男（我孫子正好）を語らさせる。それに合せて風景が出てくる。演技の表現が、とかく正面を切った絵ときになりやすい。親友の金光秀人（前田富美雄）などにそれが出るのであった。

主役の我孫子さんは、小説家としての風貌や心のやさしさ、文字というものに立ちむかっただときの苦悩を描きだそうと苦労していた。教員時代のさわやかなところがいたただけだ。ただ一つ、惜しいと思っただけのは、この本には『石狩川』や『白い壁』を書いた本庄陸男

の文学が何故プロレタリア文学であり、それ

にひた走った経緯、そして彼のおかれた位置が書かれていない。特高刑事の監視つきという情景を見せるだけでは物足りない。小林多喜二が殺されたということを知って号泣する場面があったが、ぼくは、あの表現はちがうと思った。しかし当時の追いつめられた「作家同盟」の実態を見せろという方が無理である。だからそれをいうのではなくこの作品の中で、創造された人物として本庄陸男がひとり歩きしていなかったの言いたいのだ。

客席には子どももいて、幕間に「コバヤシタキジツて何だ」と語り合っているの、差出がましいが、この白髪の老人が、「蟹工船」という小説を書き、天皇の政府と警察によって殺された文学者だ、と教えてやったのであった。素直な子どもで、「ありがとうございまして」と礼を言ってくれたのが、うれしかった。

さすが地元劇団である。劇団のお客のために明日もう一ステージ用意したという。

前田富美雄さんや我孫子正好・五十嵐陽子さん夫妻は紋別市の、町の顔に見える。客席にお年寄のお婆さんがいて、芝居の中身にかんけいなく、呟くように、「たいしたもんだ」

とたたえている。

最終日、十一月二十三日午前中に、ぼくは紋別空港を発たねばならず、あわただしく三十分程の講評をして、またしても加藤元さんに授けられながら帰途につくことになった。紋別から千歳までの機内で、劇団新芸の宮津泰子さんと席を並べたことは、前号で書いたので、これ以上書かない。

いまのところ心のこりのは、『ガリンコ演劇祭』を現地でどんな風に収めたのだろうか、まだあそこにあつまつた劇団からの声がきえてこぬことである。

(92年11月20・21・22・23日)

紋別市民会館大ホール

○紹介

劇団「湖」創立30年記念誌

北海道・三笠の劇団「湖」（うみ）が、重量感のある記念誌を完成しました。A4判一六〇頁の大冊で、百葉をこえる上演記念写真など、克明な記録に、炭坑町を皆にたたかいぬいた苦難のあしどりが読みとれます。廃坑となった町、そのものの淋れは劇団を逆にくたえたのでしょうか。

しかしぼくの見たところ、エネルギーの原点はどうかやら、根っから芝居好きの、加藤元さん、佳子さんご夫婦にやどっているようです。劇団存亡の危機はくりかえしおそって来ていて、そのたびに、「結婚申込」や「人を喰った話」で出直して、そして何年目かに信じられないほどの大作を、まるで三笠の町の復興を幻覚させてやりとげる。「ざ・ほろない」「わが町・三笠」など。それには道演集総ぐるみの支援に湧くのもこの劇団の特色です。非売品らしいので頒けてもらえるかどうか判りませんが、ともかく紹介しておきます。劇団については劇団通信（41頁）に近況があります。

(もも)

純粹TV世代の演劇

——近畿高校演劇大会をみて思ったこと——

栗原 省

(劇団いこら)

昨年、一九九二年度の「近畿高等学校演劇研究大会」が和歌山県で行なわれた関係で、関西芸術座の河東けいさんと「審査員」席にすわることになった。(他に各府県から六人の高校の先生が「審査」に当られた。)

十一月二十一日から三日間、会場は和歌山県民文化会館小ホールであった。

河東さんは、近畿大会審査の常連で、カンどころみないなものは熟知されておられ、悠容迫らざる風だったが、私は勝手がわからないことと興味シンシンで、おろおろした三日間であった。

一、「高校演劇」と私

「高校演劇」は私の演劇経験の「母体」である。四十年前、和歌山県の高専教師として始めて他国の土をふんだ私は、「演劇部顧問

謝しなければならぬだろう。

「高校演劇」は今日の「超管理教育」の中では、野球部など対局にある、もともとはトナクラブ活動の一つといえるだろう。

おそらく、この「全リ演」に参加している劇団員の中にも、高校時代演劇に情熱を傾けた青春の日々を想い「あの時から、私は演劇という魔力から逃れられなくなった……」と懐かしさと悔恨をこめて回想されるご仁も多かるう。私のように、「高校演劇」のおかげで、給料をもらって芝居にうつつを抜かすことができた幸福者も少なからずいる筈だ。

今日の「演劇ブーム」、衰退しつつあるとはいえ「小劇場ブーム」などの広汎な基盤の一つに「高校演劇」が存在することは、間違いない事実であろう。

この国の貧しい演劇状況にとって、戦後民主主義時代のような活気はみられないにせよ、「高校演劇」は依然大きな脈脈であり続けていると思う。

× ×
というような思い入れもあり、私は教師をリタイアした後も「和歌山県高校演劇連盟」の先生がたや生徒たちとは、ずっと付き合い続けてきた。「演劇講座」とか「劇作研究会」

とか毎年の「演劇祭」とかだけではなく、この三年ぐらいいは、県から予算を引き出して高校生と一緒に(ほかに一般公募者も加わって)芝居つくりをやってきた。(昨年は約二〇〇万円程の予算で創作劇をつくり、これには二百五十名近い高校生が参加した。これは、地域での演劇創造の力量を高めた、という

「県民文化会館」の熱意と努力の結果だが、その推進力になった職員もまた「高校演劇」出身の、「高校演劇」をこよなく愛し続けているK氏である。)

二、「第十二回近畿高校演劇研究大会」に出場した学校作品

河東けいさんは高校生のつくる芝居を見るのが楽しくて仕方ない様子。「劇団のお芝居なんかより、よっぽど新鮮でおもしろいわ。なにが出てくるかわからへんから、びっくりするでえ。「生懸命やし……」とおっしゃる。事実、後から紹介するように「何が出て来るかわからん」作品群であった。

この「研究大会」にはいろいろなルールがあり、上演時間は六十分以内一分でもオーバーできないらしい。「幕間討論」というの

もある。公演が終わるとすぐ、司会者と出演者が出て、観客と質疑や意見交換をする。

「この劇は何を云いたいのですか?」「それはみる人がそれぞれ判断して下さい。」「はい、わかりました。……?まるで禅問答まがいの応答があったりして、やたらに可笑しい。

1、おびただしい創作劇たち

出演校は十一校であった。その作品の内訳は「生徒創作」三校、「顧問の先生の創作劇」七校、「既成作品」一校で創作劇が圧倒的である。

この傾向が全国的なものかどうかは分からないが、昨年八月に沖繩で実施された「高校演劇全国大会」参加十一校の作品は、生徒創作三本、先生の創作三本、既成作品五本だった。(ちなみに、既成作品五本は宮本研「花いちもんめ」大橋泰彦「マインド」渡辺茂「人形館」如月小春「MORAL」前崎寿美代「春の小川はさらさらいくよ」で、宮本作品を演じた北海道代表が最優秀校になった。)

創作劇のことが気になって、地区大会に参加した大阪府下の高校九十八校の作品をみたら、生徒創作四十八本、顧問の先生の創作九

本、創作脚色十一本で計六十八本・七十%が新しく創られた脚本であった。

和歌山県下高校の場合は更に多く、県大会参加十八校、その内訳、生徒の創作劇十二本、先生の創作劇二本、創作脚色二本で計十六本・八十九%が創作作品であった。

これは物凄いことだ。大阪と和歌山だけでも八十本を超える新しい作品が創られているのだから、全国的にみたら何百本の創作作品が、毎年毎年生みだされていることだろう? 質の問題よりもまず、その圧倒的な量に驚かされてしまう。

(創作劇以外の既成作品では、大阪の場合をみると、演劇集団「キャラメルボックス」の座つき作家成井豊「広くてすてきな宇宙じゃないか」「ナツヤスミ語辞典」ほかの作品が圧倒的に多く、他には大橋泰彦「ゴジラ」北野沢「逆光少女」井上ひさし「十一匹のネコ」横内謙介「まほうつかいのでし」別役実「トイレはこちら」北村想「ザ・シェルトー」鴻上尚史「Be Here Now」ほかで、井上ひさし、別役実をのぞけば一つの傾向が伺える。(そういえば「全リ演」の上演レバにも、最近これと同じレバが見えるから、「全リ演」も「高校演劇」もレバからみる限りそ

う志向に違いはない、ということかも知れない。

2、上演作品スケッチ・その一

さて、「近畿大会」で上演された作品はどんな中身の芝居だったか、以下あらっぽく紹介してみよう。もちろん我流に、だが……

◆小学生のころから「いじめ」にあい、それが慣れっこになってしまい、「あほ！」といわれても「死ぬ！」とこずかれても、何を云われても「エヘヘ……」「エヘヘ……」とピエロのような笑いでかろうじて自己を保ってきた少女が、先生から、いじめられの体験を校内意見発表会で発表するようにいわれる。激しい自己葛藤のすえ、生徒の前で自伝を赤裸にさらす……というすごい内容。これは演技者が自分の実体験を語る始と「一人芝居」で、どこまでが演技でどこまでが実人生かけじめつかない作品。問題行動の生徒を多く抱えたこの高校でのこの劇の「校内発表」は、全校生徒に衝撃を与え、教師たちは自分の教育姿勢に反省を突き付けられ、大きな「事件」とも言える波紋を呼んだ作品であった。(和歌山・熊野高校「奈々子・陽光(ひかり)」のなかへ)

◆幕があがるとグロテスクに肥満した人間が大勢立っていて踊りだす。ガリ勉高校生も猛烈社員も内職お母さんも小学生も、原因不明に肥満してしまった。フィットネスクラブでもミラクルストーンといういんちき商品でも瘦せられない。管理や規制や競争などの生活の贅肉や人生の虚飾や見栄やストレスから解放されたとき、人間が真に自分自身でありえたとき、肥満は解消するのだろうか……といった内容。「肥満を生身で見せるので(衣装が卓抜で「舞台美術賞」)実際に肥満体でコンプレックスをもっている観客はずいぶん嫌な思いさせられたようで、苦情がでている。アレゴリーが空振り。それにしても「サスあかり」の中に、小綿みたいな人物が大勢、身動きもせず、黙って舞台に立っている光景というものは、実にそれだけで飽食の時代を示して、強烈にグロテスクなインパクトがあるものだ。(和歌山・向陽高校「見上げれば青い空」)

◆アレゴリー作(比喩的寓話的作品)あるいはメタファー(暗喩)をめざした作品がもう一本あった。

「先生」が作った「核爆弾人間」達が反乱

を起こし、作った「先生」でも制御できなくなる話(だと思っただが……。多分?)だが、

舞台のつくりかたがあんまり大胆(乱暴?)すぎて、結局何が何だか分からぬまま終わって。(奈良県・高田高校「アウト・オブ・コントロール」)

◆メルヘン的なあるいはファンタジステックな心象劇が三本あった。

塾の「おちこぼれ組(Eランク組)」の子どもたちが、宮沢賢治の『どんぐりと山猫』の世界にはいりこんだり、自然や水の生命のひろがりを経験したり、戦争の非人間性に気付いたりして「心を込めて吹けば良い音色がでるハーモニカ」のように生きたいと願う……(京都府城南高校「時の音色」)

この作品は高校演劇によくある、いわゆる「本歌とり」作品で、真ん中のあるこの部分(宮沢賢治のファンタジーの世界)がなかったら成り立たない、というか、宮沢賢治の童話に助けられてどうやら観られるという脚本だが、この演劇部の一歩のねらいは、竹内敏晴氏の身体訓練を取り入れて、水が流れたり、風が吹いたりする「生命の躍動感」を集团的ボディアクションで表現したいという点にあり、劇構造は二の次、という風なつくりかた

であった。それが面白かった。

◆小学校三年生のころ「何でも願いがかなうオルゴール」に、お気に入りのピエロ人形と一緒に「お医者さんになりたい」とお願いした少女も、じきに「挫折」してしまい、高校生になった頃には、そんなことはすっかり忘れ「夢も希望もない」高校生になっていた。だが仲良しのピエロは忘れていなかった。少女がゴミ捨て場に捨てたオルゴールを今も必死に探している。(三重県・名張高校「オルゴール」)

私は「ああ、こういうシンブルな心情主義が、案外この高校生たちの本音かも知れない」と思った。それにしても、小学校時代の「夢」が(それも「医者になりたい!」? 医者は儲かるから?)「挫折」したからって、「昔は良かったなあ」なんて老人みたいに呟く十七歳って何だろう? すごいリアリティ!

もっとも「いや、それもこの子らのゲーム感覚で、昔は良かったなんていう子ほど、本当はケロッとしたたくましい子かも?」と思いなおしたものだ……

◆戦争だらけの現実、責任、自立、理想、夢、プライド、多数決、家族……次から次からもっともらしい価値観に取り囲まれ、生徒たちは

おしつぶされてしまう。すべての生物は海で

生まれた。生徒たちは魚になって自由に遊ぶしたいという思いを文化祭の劇にする。(福井県・勝山南高校「MEMORY」)

セリフが喋れないらしく、何を云っているのか聞きとれないのだが、どう勘違いしたのか、とにかく一生懸命「笑わせよう」「笑わせよう」と「うけ」を狙って努力する舞台なので参ってしまった。しかし作品を読むと上述のごとくまことにベシミスチックで、かつ、ポエティックな中身なのである。その、作品と舞台との乖離(かいり)は何なのか? そこに興味を持った。

3、上演作品スケッチ・その二

◆「夢」という作品は本当の寝てみる「夢」の話。夢の中で少女はピエロ(またピエロ! 十二本の作品中三作にピエロが重要な役を担って登場した。ピエロは世紀末のシンボルなのだろうか? もっともこの作品ではなんでピエロなのかわからないが……)に案内されてカンボジアかエチオピアか分からないが、診療所の医療活動をのぞく。繰り返す夢のなかで、現地で働く医師や職員の献身的なボランティア活動や厳しい現実に接するうちに、少女

はやがてですんで国際協力の問題や難民問題などを勉強するようになり、やがてNGO(非政府機関、つまり民間団体が国際開発協力をやっている組織)の日本事務所を訪れる。そこには「夢」のなかで医療協力をやっていた青年がいた。……「夢」という枠組みのなかのボランティア活動の様子が大変説得力があり、現実の少女の高校生活の方はよく分からず、その奇妙にアンバランスな「倒置法」的作劇が気になった。でも、なにも「夢」を見たりピエロを出したりしなくても……と思うのが「老人感覚」と云われそうだ。(滋賀県・高島高校「夢」)

◆大阪のシナリオ学校を出た若い先生が面白い作品を書いた。働き蜂の父親が不在中、火事で家が焼けてしまった。家(建物)がなくなくなった時、父、母、息子、娘はそれぞれの役割や家族について、あらためて考え始める……: 実にツボを得た、うまい作品で「創作脚本賞」(全員一致になった。さて、舞台だが、これがまた「吉本新喜劇」を上手に(?)真似したドタバタ喜劇と思っただけで、想像がつくというものである。脚本どうりしかり芝居したら、心底から笑ったり、考えさせられたりさせられるいい舞台になるのに、

なぜこんなに「笑わせよう」「ふざけよう」とエネルギーを浪費し、その結果舞台をシラケさせてしまうのか、それが不思議でならなかった。(兵庫県・尼崎北高校「地震・雷・火事・親父」)

4、上演作品スケッチ・その三

◆兵庫県から、もう一本面白い作品が登場した。おそらく、高校演劇でなければ書けないし、上演できない作品である。

演劇部員出身で今年自治会会計に立候補した「宗政みほ」は「学校創立記念祭」での「模擬店」の収益がゼロか赤字にこまかされて報告され、それが校内で黙認されてきたことに怒りもち、今年こそきちんと不正を正そうとする。一方、演劇部が当然「記念祭」に参加する筈の公演をやめて「地球環境チャリティ・バザー」なるものを計画し、その売り上げ百三十万円を市の緑化協会へ寄付しようとして張り切っている。実は夏に小学校で合宿公演をやりたいが、費用の出どころがないため、それも「チャリティ行事の一環」としてバザーの売り上げの一部利用を認めさせようという顧問の大和先生の策略。マスコミも「地球環境」というキャッチフレーズに飛び

付き「美談」として報道し計画は成功する。「自由」「自治」「創造」の教育方針のもとに育った生徒は、やがて、「地球環境」とか「自治」の名目で実教師(大和先生)の管理にすっぱりはまってしまったことに気付き、抗議する。

「校門死事件」で話題をよんだ兵庫県教育の、これはまた何という対象的な風景だろう。ここでは高校生特有の潔癖さ、自立と自尊、自持の念、理性……といった「近代」の人間像やテーマがきっちり書き込まれているのに瞠目した。それこそ「今時珍しい」くらの正統「近代劇」で、役者に説得力があれば、と(特に大和先生の形象化)惜しまれた。(兵庫県・芦屋高校「チャリティ」)

◆同じ「学園もの」でも芦屋高校と全く対照的な劇画劇。とにかくすごい！かつて「革命」を夢見た先生、いまは「常識」に浸ってぐじぐじしている。担任の生徒「弥生」は恋人と教室でセックスしてみつかり、自主退学を迫られるが拒否、赤ん坊をつれて通学すると主張し、マスコミもそれを支持する。教室セックスも母親高校生も弥生のレポリューション。文化祭のクラス出演は「君が代」をロックにアレンジして「君が代レポリューション」歌っ

て踊ってノリまくろう、と決定。「……死んだ昭和のヒロヒトちゃん。かわいかったわよねー。」「……あいつは人間じゃないのかよ。おならだって、うんこだってするんだらう。……ってなセリフがぼんぼん出る。「何も考えず、軽く軽く限りなく自由に！軽薄に、おもいっきり！」「革命」ではなく「レポリューション」がキーワードらしい。最後に「君が代」の踊りの中で、先生と弥生が右翼に刺され、血だらけの手をさしのべ「まぶしくみえてきます、明日が」とほほえむ。(大阪府・金蘭会高校「ハイスクール・レポリューション」)

◆最後にもう一本「劇画劇」。やはり大阪。矢張り「君が代」が鳴り響き卒業式。壇上の「日の丸」の旗をひきはす卒業生！演劇部が来週予定している老人ホーム慰問公演作品「旗ひるがえりて」の稽古風景である。ヨシキは学校嫌いで登校拒否、だが演劇部だけは大好き。幼稚園で「雀の学校」を教わり「なげ、むちをふりふり、ですか？と質問する生徒、「おれは淋しい」といってカミソリで腕を切る(自傷行為というらしい)生徒だった。レイプされてセックスに恐怖心をもつ恋人や、もと従軍慰安婦だった朝鮮人の老人や、進学

勉強にあって部活から遠ざかる部員や、学校からの圧力で公演ができなくなることや、いろいろあって、ヨシキも無事卒業。仲間とともに新しい旅立ち、尾崎豊「フリーズムーン」の歌ののって走る。……この作品は近畿代表として「全国大会」に出場決定。(大阪府・追手門学院高校「シャウト！」)

スケッチがだらだら続いてしまった。「高校演劇」に関係している方には珍しくもおおしくもない退屈な紹介だったろう。が、「十六・七歳の若者、それも(高校)という管理された教育の枠組みの中に組み込まれた青年達が、今、演劇でどんなことを考え、やろうとしているのか」と関心のある方もあろう。その一資料になれば、と思った。(それも「近畿」という限定付きでだが)

三、「高校演劇」で私が思うこと

1、劇画・TV時代の演劇

(1) TVドラマと劇場ドラマ

ここ数年、私が高校生(や四十代未満の先生方)の脚本で、一番気になっているのが「場面の数が多すぎる」「多暗転舞台」とい

うことである。

「短いシーンの積み重ね」によって、「どう事柄がおこり、次にどうなり、その次はどうなって……」と次々にストーリーは説明されていくのだが、ドラマがない。せつかく面白く着想や発想があり、ドラマに必要な素材(人物や事件、状況設定や風俗風景)を組み立てて筋立てはするが、それはそのまま(ドラマの手前で)ストップしてしまうのである(もちろん古典といわれる名作には「多場面」をポンポン使い、却ってテンポや深い笑いを出す作劇があるが、その考証には別の紙面が必要のようだ)。

今回の「近畿大会」作品で数えてみたら、一作の平均が十一場面(十二場面)、多いのは二十場面(二校)。大方、暗転暗転場面が展開するから、六十分の舞台が二十場面だとすれば、平均三分ごとに暗転である！平均五分から六分の場面ならまだマシな方だ。

ある商業演劇作家は「TVと舞台の脚本の違いで一番大きいのはシーン(場面)の数のとり方で、舞台劇の場合場数を少なくして一つの場を奥行たっぷりに見せるように計算しなければ、暗転や幕間はかり続いて散漫になり、劇的緊張が欠けてしまう」と書いている

が(「悲劇喜劇」四〇二号三二頁)、とすれば「多場面の舞台が多くなった」ということは①TVドラマのマネミたいな舞台劇が多くなった②劇的緊張が欠けた舞台が多くなった、ということでもあろう。(ただしTVドラマが即「劇的緊張が欠けている」ということではない)

TV放送は一九五三年(四十年前)の二月に始まったのだから、オギャーという頃からTVで育てられた「純粹TV世代」(三十九歳以下)は日本人口の約六十パーセント近くを占めている。我々が「劇形式」でなにか表現しようとするとき、映像でか舞台空間でか峻別しなければならぬが、「多場面」はその鍵の一つであろう。

(2) 劇画と舞台劇

「スケッチ」に私は「劇画劇」と書いたがそれは

①ストーリーが絵づらと短いことばでつきつぎに展開して行き、

②コマ絵の枠の中の主人公のアップの表情(カメラレンズの操作以外に捉え得ないような)や、理想化されデフォルメされた「格好いい、あるいは、マンガチックな」スタイル

やパフォーマンスが強調され、

③ドラマの構造よりもドラマチックな素材や状況や人物の性格などの部分部分に力点を置き、

④はじめと終わりが作り方で（いつ始まり何時終わっても不思議ではない……というよりも、「一の巻」「二の巻」「三の巻」「なになにの巻」といった具合に続き、そのどの巻で終わっても、またはその一つの巻だけ取り上げて、結構楽しめる作り方で……）とこう書けば、紙芝居や歌舞伎やTVの連続ドラマなどにも共通性を感じさせるものがある。）

⑤内容は、仮に、暗く深刻なテーマであったとしても、それを軽く虚構ゲームとして、或いはパロディとして、または相対化して受けとめ（表現も、真正面からマジに取り上げるのではなく、ズラしたり距離を作ったりして「……なーんちゃって。えへへへ」といった具合に）結末もムード的、感覚的に処理し、いい気分が終わるか、或いは、格好いい後味が残るように作る。

等々の特徴を持つ（と、私は思っている）「劇画（コミックス）」と同じような芝居……というくらいな意味の私の「造語」である。

と）ではなく」と、少しでも応えてくれるのを無上の喜びとしているのを見ていて、
「……駄じゃれとかくすぐりとか媚びという類の笑いが国中に溢れている、悲しむような世相になった……町にも村里にも家にも路上にも高笑いの声が甚だしくなった頃から、急に世間には八たのしいVという古い形容詞が流行しはじめ、何でも彼でもただ少しばかり目の前の現実を忘れさせるような事に出くわすと、すぐ若い人達はこれを大仰に八たのしいVと形容したがった。」（柳田国男『笑いの本願』）という文章を思い出した。たしか十五年戦争末期の暗黒の時代について書いた文章であった。
ギリシャの昔から人は一生懸命笑わせることに精根を傾けた。そして人々は常に笑いを求めた。笑いは人間の生きる源泉である。
だが「笑わせ手」と「笑い手」が、今日もたいに淋しく、貧しい笑いを交換しあう風景は矢張り「悲しむような世相」だと思ふ。
私は「講評」で、生徒たちに「役者論語」の「おかしき事は実（じつ）よりせねば無理あてになる」という部分を紹介し、見物を笑わせる演技は実（じつ・わらい）の根源になる、本当にあると感じとれる真実さ）が伴わな

日本の全出版物の三割をこえ、単行本コミックス年間売り上げが二千億円を突破し、最近では映画や人気マンガの原作を盛んにドラマ化している。今後はSFやマンガがパソコンゲームにどんどん進出するだろうし、やがてはサイバースペース（電脳空間）にマンガ的な虚構空間がプログラムされたりするであろうと云われている。マンガ（コミックスや劇画と呼ばれる絵画表現の文学の総称）の影響が舞台の表現に及んだとしても、何の不思議があるのか？

だが、劇画はあくまでも「絵で見せる虚構世界」であり、舞台劇は「生身の人間がそこで演じて作る虚構世界」である、という絶対的相異を安易に混同するのは演劇の自殺行為になると思うのである。（ここで私なりの「ドラマ」についての思いを書き文脈にならしてしまつたが、別の機会を得たい。）

2. 「笑い」について

今、わたしたちは「超管理」というべき不気味な状況の中で生きている。

誰でもが「私は自由だ」と思い、親も学校の先生も企業のトップも政治家も、他の誰もそれを否定はしない。皆「自分は自分で、他

れば、それは果なるへくすぐりVでしかなく、八無理な笑いVを見物に強要するだけです。君達のように「笑わせ手」が先に自分で可笑しがってふざけてしまったら、観客が逆にシラケてしまうのは当然じゃないか……というような意味のことを話しながら、それにしても今日の「超管理社会」に真の笑いがあるだろうか、と虚しさを感じていた。

3. 「高校演劇」と劇音楽

これだけ創作劇が多いのに、劇中に使用する音楽に「創作（オリジナル）」が少ないのは意外だった。

中学生や高校生の音楽（サウンド？）に対する感覚の鋭さにはびっくりだ。がここでも、既に「音楽」という言葉でくくられるものは彼らには関心はない。「ニューミュージック」「演歌」「ロック」「ファンク」「ニューエイジミュージック」「何なに……」それも「誰だれの」といった具合に、興味が無限に細分化して普遍性を極端に拒否し、そのくせ共通のアイドルには命懸けの入れ込みようである。

どうも、この間の事情は若い先生方も生徒とそう変わりはないらしい。

の誰でもない」と思いこみ、他人との関係や行動で自分を奪われることはないと思じている。五十年前の戦前のように、天皇陛下のため、お国のため、聖戦のため、等と「自分以外の何かのために」犠牲や献身や脅迫を強いられることもない。「食料不足で栄養失調になる」とか「物不足」に脅かされることもない。

にもかかわらず、大方の日本人は「私は自由だ」「私は私だ」「自由で平等な人間関係のなかで生きているんだ」「人間は無数の可能性を持って、未来に生きられるのだ」等と実感していない。

それどころか、何時の間にか、身動きできないようにスッポリ何かの錐型にはめこまれており、自分がどこかへスポイルされてしまつており、何処へも逃げられず、「可能性」とか「明るい未来展望」とかはとくに死語にならしてしまつたと「感じて」いる。人々は「飽食と栄養過剰」「有り余る廃棄物の山」に埋もれ、子供も成人病にあえいでいる。

上演した舞台の全部が全部、涙ぐましいぐらいに、観客を「笑わせよう」「笑わせよう」と努力し、観客がそれに「クスクス」（「ドッ

「近畿大会」の舞台を見て、今更のように今日の「高校演劇」の音楽に対する依存度の大きさを痛感した。彼らにとっては、演劇よりも音楽の方が観客に対するインパクトは通かに強いのだった。

脚本にはじめから、前述の「短いシーン」を暗転させる場所所にキング・クリムゾン「スリープレス」とか、尾崎豊「十七歳の地図」とか、「誰々」が歌う「何々」とか名指して指定し、劇の内容をその音楽のムードでつないでいく……というホンも二・三あった。あるホンでは何と十七曲の曲名が指定された（それも十人の作曲家乃至演奏家の曲）し、それも殆どがボーカルだから驚きである。

それは、劇画のコマ絵のその部分の気分にあう曲のポリリウムアップによって観客の情感をたかめ、また次のシーンにつなぐという狙いであつたらう。

セリフや劇構造の内面から対立や緊張を作り出し、ドラマの掘り下げで人間の真実を表現するのではなく、その手前の所で、お互いのアイドルが奏でる既成の音曲のムードで共感し合おうという作劇が、かるくスマートで感覚的な「高校演劇」の特徴かもしれない。

第5回全リ演(東) 『作家会議』について

栗木英章

(事務局担当)

全リ演(東)の「作家会議」は、東リ演の創作時から脈々と続いてきました。名称は、「創作部会」であったり、「演劇大学・創作分科会」であったりしましたが、その根底にはいつも、東リ演運動は自ら生み出す創作劇と密接不可分、との熱い思いが貫かれていたと言えます。しばらくの中断後、六年程前から「作家会議」として再開し、ほぼ毎年一回開催してきております。

参加者は10〜15人前後で、各々の作品を持ち寄り、一作ずつ討論するスタイルが定着して、若手作者にも大きな励みとなってきました。

通例からすると、今年も5月ごろ開催というのですが、御存知の通り、7月には、「世界劇場会議」(名古屋)、8月には全日本演劇フェスティバル(三重)が行なわれ、事務局はじめ、各劇団一定のエネルギーを割

かれるので、第5回は、来年1月を目途に準備を始めました。

従来から参加しているメンバーや、各加盟劇団へ案内とアンケートを送りましたが、3月中旬現在、次のような方々の出席見込と提出作品の返事をいただいております。

まだ回答をもらっていない劇団・個人の集計をまとめ、後日正式な案内を致しますのでさらに、積極的な参加、協力をつよく訴えるものです。

◇参加予定メンバーと所属集団、提出予定作品(まだ一部であり、未確定部分もあります)が、は次のとおりです。

- こばやしひろし(はぐるま)「ブッダ」
- 森けんろう(四日市)「愛こよなく」
- 花かげ
- 岡安伸治(世仁下乃一座)「戯曲集3」
- 丸子礼二(名古屋演集)「死神トラック街を走る」
- トヨアケ物語
- 地あげのあ
- とに(2稿)
- 中村欽一(群馬中芸)「ゆけよ空とぶ夏みかん」
- 新作(題未定)
- 栗木英章(名芸)「紅い花」
- 夢芝居
- 明日こそ晴れ
- 大峰順二(銅鑼)も新作を書かれるだろうし、
- 北野次(未来半島・新加盟)
- 七軒番屋の人びと
- 二本杉は知っている
- 岡田和義(個人)
- 題未定
- 吉村

西会議「演劇ワークショップ」から

この催しは夏の総会後に開催するのが通例だが、今夏は全日本演劇フェスティバルが予定されているので、冬の京都で開催することになった。場所はお馴染みになった大原にほど近い閑静なたたずまいの養福寺会館。

今年のテーマは「演技」「舞台監督」の二コース。

とくに舞台監督コースを選んだのは、美術や音響の部門毎に勉強するよりも、裏の仕事に精通し、稽古の成果を舞台に華開かせる重要なカナメでありながら、以外に軽んじられているのが実態のようなので、あらためて舞台監督の仕事勉強しようとなった。

講師は、「演技」が永曾信夫氏、「舞台監督」は青年劇場の宮崎靖氏にお願いした。

参加者は十八集団六十六名。

(K)

手をこまねいてはいられない

「舞台監督」……何というこそばい名前か。

若い頃は、乗せられながら引き受けもしたが、今となっては「ヨダレ役者の捨てどころ」と、自嘲気味に安住の地として居座ったり……

しかし実際に舞台監督をつとめてゆくとなると困難という壁が幾重にも立ち塞がる。演家よりも軽く、俳優やプランナーのような華やかさもなく、公演前は毎度毎度あわてふためく様を繰り返す。……と、落ちこんでいたところへ、西会議主催の講座。薬をもつかむ気持で駆けつけた次第。

青年劇場宮崎靖氏の講話の基調は、舞台監督の任務が有効に発揮される形態として、劇団員の全体が力を合わせて創造、普及活動に参画し、劇団の運営に責任ある意見と義務を持つ劇団制にある、とするものでした。

それは、「俳優と劇場の倫理」をベースに、舞台監督の仕事の「一つの定形」を示された

登(個人・劇団名古屋友人)「水底の風」
「ブラジルの花嫁」、つづいて●榎谷伸夫(やませ)「二つの死体」●小島真木(静芸)「秋上演用新作品」●生田秀里(支木)「十二屋」●田辺典忠(支木友人)「戦いすんで(仮題)」とあって多彩です。

また、●石垣政裕(仙台小劇場)●布施佑一郎(からっかせ)から出席予定の返事をいただいております。●京浜協同劇団も目下、2/3人参加のつもりで執筆中の連絡がありました。●外国へ遊学中の●平石耕一(アポストロフィ)もその頃は帰国しているだろうし、●萩坂編集長もひきつづき、バックアップして下さると思っています。

多くの有為な方々の期待に答える内容にすることが、即、全リ演運動の前進に結びつくだろうことを考える時、準備をすすめる者の一人として、責任の重さもひとしお感じますが、是非ともみんなの協力を得て、充実したものにしよう、と、強く感じています。

かさねて、参加と協力を訴え、第5回全リ演(東)「作家会議」の呼びかけをさせていただきます。

訳で、私のやり方の問題点がくっきりと浮かびあがってきました。

同時に、技術面だけの話を予測していた私は、舞台監督以前の劇団員としての立場を見失っていたことに気づき、その大切さを再認識しました。

さて、自分の劇団(四紀会)のなかには、劇団制のワクを根底から崩して創造しようとする考えもあれば、劇団制のもつ権利と義務をことさら偏ったものとしてしか解ろうとせずに「自由」を振りかざす向きもある。これは創造的に統一された理念を持ってずに揺れる劇団の現実の姿である。この様な状況に切り込んでゆくには、宮崎氏の提示されたような舞台監督の仕事でのかわり方がまさしく求められているのではないかと思わずにはいられない。

上演作品が決定し、いよいよ稽古初日、いわゆる稽古始めをどのように迎えるか。俳優、スタッフが揃うなかで、昨日までとはガラリと雰囲気のがった稽古場を自ら率先して作りあげてゆく。そして演出家の一言一句に聞き耳を立て、言わんとするテーマを組み立ててゆく。美術プランは、近づく立ち稽古に間に合わせるべく煮詰めてゆき、その初日には

たくさんの発見があった

プランに基づいた実寸の舞台が稽古場に組み上がる。付帳は俳優との会話が接点であり、自画像に基づいた衣装プランを色付けで描いてもらう事で俳優が自分を客観視できるようなものもつく。小道具作りや切符売りなどの仕事の配慮にも気を使う。例えば自分の小道具は自分で作るのだという方針でもって稽古が進んでいる場合でも、作業の進捗状況と制作の進み具合を判断した上で、俳優のなかに切符売りの得意な女優がいれば、その人にはその時期、切符売りに専念してもらい、他の者で彼女の小道具をカバーしてゆく配慮や工夫も必要、等々、裏方スタッフはもとより、演出助手、制作スタッフの協力がなければ出来得ない仕事ばかりである。

去る一月二十三、二十四日に京都八瀬養福寺会館で開かれた西リ演劇ワークショップに参加した。二つあった講座のうち僕は、永曾信夫先生の「演技の基礎からエチュードまで」の講義に参上した。

一日目は、永曾先生の話を中心であったが、とにかくおもしろく豊富な話題にどんどん引き込まれていった。特におもしろかった話は、人間の肉体の「五体」の話のなかで、自分の顔なのに一生自分の顔を見ることなく死んでいくという内容で、そう言えば自分の顔は写真や鏡でしか見たことがないと思うとむしろ自分の目で自分の顔が見たいと思ってしまう。しかし、どうしようもないと思うと淋しい気がする。

(劇団息吹・梨子田一夫)

更に欲張った位置付けを加えるなら、観客と創造課題とを結ぶ日常的な劇団活動の要になる仕事は「舞台監督」なのではないか。私の視野が大きくなった。

二日目は永曾先生の話が楽しかったが、ロミオとジュリエット、ハムレットのセリフをみんなの前で読み、アドバイスを受ける技術的なことや、動物や色を自分のイメージで表現するトレーニングもした。ここでは前に出

劇団通信

神戸職演連

御無沙汰しております。

十一月に神戸三ノ宮のラビングホールでの神劇まわり舞台の公演をなんとか無事に終えることができ、今はホット一息ついているところ。演出は「ママの貯金」(J・V・ドルウデン作、倉橋健訳、菊池照一演出)でした。六人の新人のうち、五人が主要キャスト、一人が照明につくという、ほとんど新人公演のような形でしたが、それなりに若い力を発揮できた舞台になったと思います。

93年には、三月に私達の稽古場、神戸青少年会館のイベントがあり、そこで小品(演目未定)を発表する予定をしております。その後は恒例の秋の神劇まわり舞台。ボイストレーニングや小品訓練などの基礎練習にも力を入れて頑張りたいと思います。

今年も神戸職演連をどうぞよろしく。

(松井美佳)

650 神戸中央区下山手通九一九一七

〇七八一三五一一六九九

劇団支木

皆さん、いかがおすごしでしょうか。支木は去る11月21日22日、青森市文化会館創立十周年記念公演「きみ歌え、たまゆらのとき」3ステージを無事終了する事ができました。

三月からのけい古でしたから、延べ9ヶ月間の長丁場でした。作・演出は一昨年前の、「じよんがら万燈おんな唄」の篠崎淳之介氏でしたが、東京在住ということもあり、地元での演出は支木の中野健がつとめ、また劇団員全員が主だったキャスト、スタッフとしてがんばりました。観客数は四千人をかぞえ、大成功に終わりました。

今回、舞台制作は、青森市の公共、私設団体をはじめ、支木や青森市に在る劇団や、バレエ教室、その他オーディションによって選ばれた一般市民など、まさに青森市総ぐるみの仕事となりました。

そういう人々と一緒に舞台を作っていくなかで、さまざまな刺激があり、学ぶべき事が多く、劇団員全員、大きくステップをふむことができたと思います。また支木を大きくア

でするのが嫌で小さくなって、前の人の後に隠れて目立たないようにしていた。(これは反省である)

二日間の永曾先生の講座ではたくさんの発見があり、先生の話を聞いたのと聞いていないのとではだいぶどこかで違いが出るだろうと思うと得をしたような気がした講座だった。演劇ワークショップが終わり、僕は永曾先生を京都駅まで送る羽目……じゃなくて送らせておくことになった。帰りの車のなかで先生は、この二日間ずっとこの組織が持っている人間くさい暖かさをずっと感じていたとおっしゃられていた。そう言われて僕は、暖かい全リ演西会議に加盟している劇団で活動できて良かったと改めて思い、そして、一日目の夜の大交流会でまた他の劇団の仲間が増え、これからもまだまだ劇団活動を続ける意欲が湧いてきたのと同時に、京都に来た本場の目的は交流会だったんだなと気づきながら大阪に帰ってきた。

ビールする事もできたと思います。何よりも今回の出会いの中で新団員3名を迎えることができたのも大変喜ばしいことです。

93年は、劇団創立30周年の年でもあり、一息入れるひまもなく、準備にとりかからなくてはなりません。とりあえず、来春5月をメドに第一回目の30周年公演をする予定です。

さいごに「きみ唄え……」の公演の際、お手伝い下さった仲間の皆さん、本当に助かりました。ありがとうございました。この場をかりて御礼申し上げます。

(030 青森市長島四丁目21-3

〇一七七一七七-四六七七)

(編集部より・この通信は92年12月8日の消印でとどいておりますので、文中の来春5月は93年5月となります。)

劇団あしぶえ

50人劇場兼稽古場は、古いストープ一台に震える毎日です。

今回の劇団通信には、うれしい報告があります。

代表園山土筆を中心に、創立27年目を迎えたのですが、この度、島根県より、県文化奨励賞を受賞したのです。報告を受けた時、団員たちは「なに、それ?」とキョトンとして

いたのですが、「落ちこぼれの神様」「セロ

弾きのゴージュ」「おこんの初恋」の3本の作品によるロングラン公演、そして26年間の活動が認められたのだとわかると、すこしずつ、喜びと感動が広がったのでした。この賞に恥じぬよう、さらに、心を大切に活動し、活動を続けようと、気持ちを新たにしました。

話は変わり、一月十七日「おこんの初恋」広島公演をし、2ステージで一、一四〇名のお客様にご来場いただきました。そして、劇団としては本格的に、手話の同時通訳を取り入れました。

「差別などの弱者問題もテーマとなっていたが、手話でのメッセージとも絡み合い、巧みに表現できていた」と好評。お客様にも、聴覚障害者席を特別に設けさせてもらった事を心よく理解してもらえ、温かい心の輪が、またひとつ広がった事をうれしく思います。

また、50人劇場の外階段が美しく生まれ変わりました。そして、百人劇場建設も基本設計が完了。11月21日回には「セロ弾きのゴージュ」50回記念公演（松江市・島根県民会館中ホール・2ステージ）が待ちうけています。やっと27年。いえ、まだ27年。息つく暇のないあしぶえです。（藤崎ひとみ）

(69) 松江市砂子町二〇九一三

〇八五二二七三〇五〇
名古屋演劇集団

82号には手違いで原稿を送ることが出来ず、申し訳なく、また残念でなりません。

93三重大安演劇フェスティバルの話題しきりのこの時期に、昨年から秋の活動を書くのは気がひけますが、とりあえず報告します。昨年の清里ゼミには老若合わせて大挙して参加することが出来、帰名後も盛り上がり、新人が先生になってボイストレーニングの復習などして、やる気満々になっていたので十一月公演を決定して、いざ会場を取る段になって何処も空いていないのです。又々名古屋の会場難を思い知らされました。

そんな事情で秋の公演が新春公演になってしまいました。

劇団演劇創立四五周年、松原英治没後30年記念公演、横内謙介作、浦はじめ演出「ジブシー」、2月4・5・6・7日で計6ステージ、七五〇名の動員で打上げました。

観客の皆さんから「このところ演集らしからぬレパートリー続きね」などの声も聞かれましたが、観劇後は「後味の良さわやかさを感じた」とバックアップしていただいでいます。

ます。急速に増えた新人の若者たちとベテラン陣の融合がほほえましいのかもしれない。

そして現在は、93名古屋演劇フェスティバル参加公演に向けて稽古を始めた所です。新人公演と銘打って「勿論旧人も参加」、

「ブンナよ木からおいてこい」
作・水上 勉 演出・北原雅子
6月22日(火) 19時 23日(水) 14時
19時 名演小劇場です。

研究所活動を中止してから入国してきた新人たちは、公演に参加しながら学んでゆくのですが、経験の差はどうしようもありません。そんな差を少しでも埋めながら又、何ものにも代えがたい若もの特有の瑞々しさを無くさない、欲張り新人公演をめざしています。

(451) 名古屋市西区庄内通四一六一三
〇五二一五二四一五九七五

劇団四日市・森健郎

最近、四日市市内で演劇活動を続けている劇団は、6劇団と増えております。

そのうち四劇団のリーダーは劇団四日市と何らかの形で関わりを持った人たちです。そしてそれぞれの劇団が活発な公演活動を展開しております。

分裂、分裂は私にとってきびしい試練でした

が、演劇人としては大きな糧を頂きました。劇団歴三十二年のうち二十五年統一している山本淳子、二十一年統一している林武男、他は在籍五年未満の私の孫のような若い世代です。

七年前より着実に、創作劇による本公演を実施してきましたが、左記の公演脚本で私の書いてきた作品は十本目となりました。

「花かげ」二幕

―三重県菟野町竹成、大日寺、五百羅漢建立にかかわる物語―

大日寺は自宅より歩いて三分の所に在る、菟野町竹成区民の共有。私はこの五百羅漢が好きなので、十年前、ここに居を移しました。

原作・黒宮朝子（四日市文芸賞受賞）

脚本・演出 森けんろう

劇団四日市と菟野町民有志の出演。
とき 5月15日(土) PM 6・30

16日(日) PM 2・00

ところ 菟野町社会福祉センター

(一九八五年全り演ゼミの会場でした)

主催 「花かげ」公演を成功させる会

(510 四日市市北浜町九一〇)

〇五九三一一五一一九四二二六

劇団東京芸術座

千支(酉年)にちなみ、大きく羽ばたき、飛躍の年に迎えた一九九三年です。

松の内(三日)から稽古を始め、初日が五日の「八月の鯨」(演出・杉本孝司)は首都圏で二月十九日まで、同じ演出家の「銀河鉄道の恋人たち」を「八月の鯨」の本番を縫いながら、稽古を行ない二月十五日から二十二日まで本番。十五日は日本児童・青少年演劇団協議会北部ブロック主催による第一回ノース東京アートフェスティバルへ参加。他はこども劇場の例会。

「銀河・」公演終了と同時に同じ演出家の三本目「冒険者たち」の稽古と一月三十日江東区青少年センター主催による2回公演。

休む間もなく、劇団の総力を挙げる「小林多喜二没後六十周年記念公演」勝山俊介/企画・演出による「女囚徒」(二幕)「山本巡査」(四場)と朗読構成/勝山俊介「多喜二母子像」(「覚生活者」第四章)の出演者の顔合わせと一回目の本読みを二月一日と二日に。

引き続き三日から十三日まで新班「冒険者たち」の稽古。そして二月十四日は恒例・名物の「関東ブロック新年会」へ参加。研究

生は全員参加、全り演活動理解の場に。

二十九期卒業公演は「ラインの監視」(演出/印南貞人)三月五、六、七日の5ステージ。アトリエは連日超満員。

二月二十一日はこれも恒例になり楽しみにされています劇団の「新春のつどい」、今年若手出足にぶし。「多喜二」の稽古も本格化。

この間、平成3年度文化庁舞台芸術創作奨励特別賞受賞作品、平石耕一作「橙色の嘘」(演出/早川昭二)を(社)日本劇団協議会主催、東京芸術座と劇団銅鑼との共同製作で出演者は五劇団から参加。一月二十九日から二月八日まで公演。各方面から好評の劇評が寄せられる、作者は今秋九月から一年間、文化庁の海外研修でイギリスへ派遣されます。

三月一日から十二日まで「冒険者たち」の首都圏公演。前日仕込・本番(午前公演)・バラシ・仕込の連続、旅で鳴らしたタフマンタフウーマン達もさすがにバテバテ。

この後、やっと「多喜二」記念公演に全力投入。公演は四月十日から二十三日まで、十一ヶ所十四回公演。多喜二の果敢な闘いの人生を顕彰し、引き継ぐものです。

そして五月から七月までの長期旅公演。

二年目の「赤ひげ」(演出/八橋卓)は東北、北海道へ。前回大好評で、今回は今年一年間限りの「十二人の怒れる男たち」(演出/稲垣純)は、今度も前評判が良く、ハードなスケジュールが待っています。

劇団を取り巻く状況も複雑多岐に渡って困難さが増えています。何とか未来を見据えた「飛躍」の年にしたいものです。

(177) 東京都練馬区下石神井四一・一九一十一
〇三一九九七・四三・四一

劇団アポストロフイ

健在です。今年は、大将平石耕一のイギリス留学(劇作・演出部門)決定という喜ばしいニュースで幕が開き、2月には、これまた平真耕一作「橙色の嘘」(劇団銅鑼・東京芸術座共同製作)が、大好評の内に無事終了、落ち着かぬうちに五月公演の稽古に突入しました。今回は久しぶりに地元所沢にて三日間4ステージの公演です。観客動員をどこまで頑張れるか。いい舞台にしたいと思います。

また、今年はアポストロフイの大きな活動の一つとして、所沢の演劇集団活性化に力を入れようと、市内の四つの劇団に声を掛け、「所沢劇団協議会」(略称・所劇連)発足が実現しました。もう既に千回以上協議を持ち、

今年の市民文化祭参加や11月にオープンする所沢文化センターでの公演など、活発に所沢での活動を広げていこうと五劇団が討議を行なっています。また、この活動には市の社会教育課もバックアップしており、力強いことだと思えます。まだまだ生まれたいばかりの集団ですが、これから大切に育てていきたいと思えますのでよろしくお願致します

第11回公演案内

「真昼、あまなつは まどろむ」
平石耕一作・演出
△所沢公演▽
5月28日(金)PM 7時
29日(土)PM 2時 7時
30日(日)PM 2時
新所沢公民館
T B L 〇四二九一・二四一・二九五五
△東京公演▽
6月2日(水)PM 7時
ピプランシアター(新宿御苑)
〇三三三五〇・七九三二
所沢市宮本町一三三
NKコーポ一〇五 鷺海方
〇四二九一・二六一五三〇七

劇団四紀会
こんには。四紀会です。

四月の公演は、フェデリコ・ガルシア・ロルカ作「血の婚礼」に決定し、今は追いつき古い古のまっ最中です

劇団に入って経験の浅い若手を中心としてとりくんでいますが、内容の難解さ、心の奥底にある「ドゥエンデ」を体で感じることに日々苦しんでいます。

歌あり、踊りあり、課題は山積みですが、いい舞台にしようと思っています。

△公演予定▽

4月23/25日
「血の婚礼」作・ロルカ演出・岸本敏朗
9月2/4日
「スカパンの悪だくみ」
作・モリエール 演出・北島道誉

(この演目は三重県大安町での全リ演フェスティバルにも出場が決まっています)
7月10/11日
演劇教室25期卒業公演 作品未定
11月下旬から12月上旬
「秋の神劇まわり舞台」

移動公演も9月25日、10月16日が決定しており、まだはいって来そう、今年も忙しい一年になりそうです。

年になりそうです。

(650) 神戸市中央区元町通二一九一

元町プラザ六二二

〇七八一三九二・二四二二二

演劇集団石るつ

一月に池袋東京芸術劇場で「六間堀川―闇夜―」の公演を終え、沢山の客演の方達といったんお別れ(?)しました。で、今は小人数の石るつに戻り、七月公演の準備にとりかかっています。

七月二・三日、門前仲町門天ホールにての公演は、昨年七月に演った、稲垣足穂作品の第二弾ということで、執筆中です。

月や星の世界を借りて、楽しい芝居に仕立てたいと、あれこれ企画段階。

十一月は藤沢周平作品、来年の一月は池袋にて、先だって公演した「獄舎の月」を再演する予定でおります。

手を変え品を変えて、少々忙しい一年になりそうですが、悩みも又楽しという輩が作っている「石るつ」にとっては意気に感ずる一年でもありましよう。(いとうエリコ)

(135) 江東区森下5-11-8 荒川ビル

吉川複写工業内 境野方

〇三二五六〇〇・二七〇

劇団夜明け

二月のNo.35公演5ステージは、小劇場公演としては過去最高七八六名という動員で、無事終了しました。

一九八〇年より続けてきた中津川コミュニティセンター(キャパ約一五〇)での公演も今年で十四回目、一九八四年より始めた文化会館(恵那は文化センター、どちらもキャパ約七〇〇)での、親と子の劇場も今年で10回目をむかえることができます。

今回もやさしい観客の皆さんに助けられました。舞台の出来は決していいものではありませんでした。創造していく上で充分すぎる程しっかりやらなければならぬ、いくつもの大切な事をおろそかにしてきたのではなかったかと強く反省しました。

専門家の指導が容易につけられない地方劇団の私達にとり、演劇創造のレベルアップは何回も何回も公演を重ねながら、いい舞台を数多く観、生活の中での観客力を豊かにして余程意識的に生きないとはかえることはできません。長く続けることしか方法はありません。

その続けることが大変なものですから、悩みはいつも集団と個人につきるかもしれません。八月の全リ演フェスティバル、三重で再び

多くの仲間に出会えることが楽しみです。

△次回公演予定▽

第10回親と子の劇場 (No.36公演)

「大どろぼうホットンフロツツ」

6月26・27日 中津川文化会館

7月18日 恵那文化センター

(508) 中津川市北野丸山

〇五七三三六五・四九三三七

劇団大阪

足掛け3年にわたる二〇周年事業も、この二月のレセプションをもって全て終了しました。この間、本公演5回(総入場者数五七六一名)、記念レセプション2回、稽古場(谷町劇場)の大改装、記念誌の発行、シンボルマークの制定、その他「芸術文化振興基金助成事業」等から助成金を獲得(3公演で都合4回)等含めておかげさまで、種々な成果をもって、無事終了することができました。

この誌上を借りて全リ演の皆さんにも改めてお礼申し上げます。

さて昨年11月に20周年ラスト企画「亜矢子」を成功裡(観客数一一三一名)に終了してからも、例によって休む間なく、12月には西会議の制作者会議の取組、そして在阪の聾啞者劇団「新車座」の公演への援助、一月には

西会議「演劇講座」の取組、3月には第20期
研究生公演は、ハイナー・ミューラーの難作

「闘い」を本公演並の規模（本邦初演で観客
数四二四名）打ち上げるとともに記念レセプ
ションNo.2までやりとげ、これらに平行して

「ぐるっぺ・あうん」第3回公演のプロデュ
スや市立勤労婦人センターの劇団づくりへも
協力参加しつつ、三月の総会に雪崩込むとい
う東奔西走の毎日、まさに我が劇団大阪の面
目躍如といったところではあります。

ところで20周年以降に凋落する劇団が多い
といわれる中、あと5年もすれば劇団の中心
メンバーの殆んどが退職期を迎える我が劇団
もその例外ではあり得ないかもしれませぬ。
その意味で、30周年にむけての第一回目の総
会は、今後の劇団の方向性を占う上で大きな
意味を持つエポックメイキングなのかもしれ
ません。

△主な決定事項▽

①企画部の新設（これまでの台本選定委員
会を劇団の常設専門部として位置づけ、日常
的に新作の発掘や創作劇の企画をすすめる）

②発声・肉体訓練の稽古日への組入れ（専
門家を招いての日常訓練を劇団の正規の稽古
として位置づけた）

③「演劇会議」の機関誌化（名実ともに劇
団活動の中に組み入れる）

—その他劇団の法人化の問題（時価数億円
といわれる稽古場の名義書換の問題が中心）
や第二稽古場・倉庫の獲得の問題も近い将来
の事ではなく数年先には実現せねばならない
課題として位置づけられました。

—また次にかかげる公演スケジュールにあ
るように、春の本公演での待望久しい新人演
出家しかも女性の演出家の実現、そして秋
の公演として決定した夢企画の「夢見通りの
人々」に於ける試み（この作品は、これまで
の劇団の正規の創作劇運動の中からではなく
一劇団員の足掛け4年にわたる地道な活動か
ら生まれたものです。）等、これら今年の企
画も今後の劇団活動の一つの方向性を予感さ
せる大きな決定です。

△当面のスケジュール▽

①第39回公演 大阪春の演劇祭参加
「ジプシー」

作・横内謙介 演出・中田小百合
93年6月4日〜6日 6月10日〜13日

於 劇団大阪稽古場
②第40回公演 大阪新劇フェス参加
「夢見通りの人々」

5月1〜3 於 名芸平針小劇場

ご存知の通りの難作ですが、久しぶりの演
出をつとめる代表（拓植）の意気込みも大き
く、是非佳き舞台に仕上げたいと思います。

その後は、「夢芝居」や「紅い花」の再演
の声もあり、詳細未定ですが、9月には恒例
の天白／南子供劇場で、出稼ぎの父を想う少
女の気持を描いた作品（これから栗木が脚本
化予定）を、昨年に引続き寺沢宏行の演出で
上演予定です。

また秋の本公演は、演出を佐野秀明と決め、
現在制作劇を本命に作品検討中です。

並行する形で、名演（名古屋演劇観賞会）
が創立40周年を迎え、その記念例会を、名古
屋の演劇運動の創設者でもあった故松原英治
氏（当時名古屋演劇の代表者）没30周年記念
を兼ねて来年4月、地元演劇人合同で上演す
ることになり、現在劇団の谷辺が実行委員会
事務局長として、準備に参加しています。

様々な仕事の成果や苦悩を持ち寄って、8
月のフェスティバルで全国の仲間に見えるの
を楽しみにしつつ…。

468 名古屋市天白区平針一―八〇八

〇五二一八〇三―二九二二三

お急ぎの郵便や小包み類は左記へよろしく！

457 名古屋南区汐田町十一―八 栗木方

〇五二一八二―一三六九一

演劇集団あり

昨春秋の定期公演、岡安伸治作「ドリーム
エクस्प्रेसAT」では大変な苦勞もありま
したが、短期間の稽古に集中して、装置担当
者の新鮮な発想等もあり、四〇〇名を超す観
客から、「あり」の新しい芝居創りの一面も
見せてくれたと好評で、演り甲斐もあったと
気をよくしていました。

しかし、サークルとは生きものです。今年
になって、昨年中心で頑張った何人かが、休
団したり、連絡もとれなくなったりで、心を
痛めています。

公演体制の反省をし、連帯の稀薄さを取戻
す努力をしながら、三月二七・八日、中国横
断道米子・落合間開通記念イベントが岡山県
北の落合町で「素人芝居サミット」として開
催され、同町の演劇クラブから招待を受け、

「演劇と地域活性化のパネルディスカッショ
ン」と公演に参加しました。作品は「昨年公
演の「星の世界の星祭り」を改訂し、地域の
ダンス愛好者の協力を得、ミュージカル風に
創り、岡山県北部の数団体と共に上演しまし
た。

原作・宮本輝 脚本・窪田吉宏
演出・斉藤誠

93年10月8〜10月10日 於 近鉄小劇場
452 大阪市中央区谷町七―一三三九

新谷町第二ビル一〇三
〇六一七六八―九九五七

劇団名芸

名芸は昨秋の創立30周年記念公演「夢芝居」
（作／栗木英章、演出／片野耕治）が、名古
屋市民芸術祭賞をもらい、去る一月二八日の
授賞式にはほぼ全劇団員が出席して、少々華
やかで楽しいひとときをすごすことができました。
ずつと見守ってくれたお客さんが、我
が事のように喜んでくださったのが、とて
も嬉しい、今後の励みにもなりました。

その後、二月には、名古屋反核舞台台人の集
いで「紅い花」―ある従軍慰安婦の―（作
／栗木、演出／木崎裕次氏八演劇人冒険舎）
を上演し、会場の代表であった故熊谷昭吾
氏の追悼公演としての役割を、他の舞台とも
ども果たせたと感じておられます。

そして現在は、次の公演の準備に全力を尽
くしています。

◆第39回公演、チェホフ「かもめ」（脚本／
栗木、演出／拓植洋）

会場は町の体育館に紅白の幕が張られ、ゴ
ザが敷かれ、座ふとん持参で、ストープを囲
み、五〇〇名位の観客が弁当持参で観劇して
くれました。私共以外はすべて、昔なじみの
村芝居風の「喰の母」といった作品であり、

―サークルのみ異質のようでありました。が、
観客の心よい反応に、演る側がかえって感動
するといった公演でもありました。

道路ができ、物と経済だけが優先するなか
で、人の心や文化の交流を置き去りにするな
いとの思いを強く感じています。

△次回公演▽ 五月二十三日、五月二十九
日の鳥取県演劇連盟の鳥取市・米子市公演に
向け、部内創作劇「愛についての二・三の手
紙」の稽古に入っています。（宮倉記）

683 米子市昭和町二三（宮倉方）

〇八五九一三三―一九三〇二

劇団銅鑼

昨年は、劇団銅鑼創立二〇周年の節目の年
であり、記念公演第一弾・第二弾として、そ
れぞれ、制作劇「センボ・スギハアラ」「暮
しの詩」を春、秋生みだすことができました。

そして年が明けて、一月二九日、東村山中央
公民館、二月一日〜八日、新宿・シアターサ
ンモールにおいて、第三弾「橙色の嘘」（早

川昭二(演出)を上演しました。この作品は「センボ・スギハアラ」と同じく、東京芸術座、アポストロフの平石耕一氏の手によるもので、平成三年度、文化庁舞台芸術創作奨励特別賞を受賞した脚本です。日本劇団協議会主催公演という形となり、銅鑼と東京芸術座の共同製作、出演者は銅鑼・鈴木瑞穂、東京芸術座・相生千恵子さん、劇座・たかべしげこさんをはじめとして、テアトル・エコー、新人会などから個性豊かな役者さんを迎えての、画期的な公演となりました。脚本の良さに加えて、各俳優諸氏の懐の深い役づくりで魅力あふれる芝居に仕上がっており、お客様も喜び、若い劇団員にとって、出演してないながらも得るところの多い舞台となったと思います。

今後の予定としては、「センボ・スギハアラ」(平石耕一 脚本・山田昭一、平石耕一 演出)で年間を通して、各地の一般公演及び学校巡演を行うことになっています。

(175) 板橋区成増五―二

〇三一五九九―九四六一

(井上)

劇団支木(再信)

只今、5月22・23日の創立30周年記念公演第一弾、川村夫夫作、堅倉憲演出「がんとり」のけい古の真最中です。何しろ歌あり、おどりの内容になっていますので、若者は若者なりに、中年は中年なりにストレッチにはげんでおります。また、スタッフも舞台もけい古を上げたり下げたりしながら、プラン作りは四苦八苦の連日です。

創立30周年ということで七月はレセプションを開き、広く一般にアピールしたいので、その準備作業もしなければならず、今は劇団員全員大いそがしです。

前回の「きみ歌え たまゆらのとき」公演後5名の新しい仲間を迎え、若い力がけい古をもちあげる一方、転動等で劇団に参加したくてもなかなか思う様にならない中幹団員もふえる等、劇団運営はなかなか大変です。ともかくにもあと一ヶ月と少しです。30周年記念第二弾秋公演もにらみながらの活動となります。

(30) 青森市長嶋4丁目21-3

〇一七七―七七―四六七七

(編集部より・昨年12月に投稿された通信がボツになったと判断して、とどいたもので

す。それはこの通信欄の2番目についていま

す。「がんとり」は八月の三重フェスティバルの出演作品に決ったとききましたが、そのことが全く書いてありません。一寸心配)青年劇場

今年には二月東京公演、ジェームス三木作、演出・アダムの星、を12ステージ、五千二百六十名の観客数で、久方ぶりの赤字公演。

東京公演で正規のギャラを支払い黒字公演にすることを、ここ数年やりきってきたが、東京公演を劇団の純粋な売り手で、七千人の壁を突破できない状況を現在抱えています。

三月二十一日の劇団の臨時総会に於て、昨年の総会で提起された「十ヶ年長期計画」を全劇団員の意思で決議した。

自身は、劇団一代論をとらず、秋田雨雀・土方与志記念青年劇場の創立記念を、向う十年(21CEN)の計画で世代交代も含めて実現すること、又専門職業劇団としての確立(職業的演劇の確立も含む)を計る。そのための創造、普及、組織、財政上の総合計画の骨子を決めた。

尚、前期五ヶ年計画の中で、友の会五千名(現在三千名)、東京公演一万人以上の確保をめざすなど、すべての面での積極策を決定

した。

前述の二月公演の問題点を大きく突破していく劇団の諸施策を、今総会で決定したことは、来年三十周年を迎える青年劇場にとつては正に歴史的な一頁がめくられたこととなる。予期される国内外の情勢や演劇界をとりまく情勢の厳しさ、困難さを眼前におきながらの決議をしたわけです。

当面は四月公演、瓜生正美作・中野千春演出「幻想のロミオとジュリエット」の十ステージを、青少年劇場公演として七千名の観客を集め、創造、普及両面で成功させることが不可欠で、全員奮闘中です。

五日以後は、高橋正岡作・松波喬介演出「遺産らぶそでい」が九演連の例会へ(5月11・15日)で旅公演。

ジェームス三木作・演出の「翼を下さい」は5月20日・28日まで長野・東海・石川の高校公演と仙台も含むおやこ劇場の例会と青少年劇場巡演。

更に5月23日・6月18日まで、斎藤紀美子作・堀口始演出「すみれさんが行く」の長野・近畿・東海の高校巡演。

そして7月1日・8月6日まで、J・N・ファンウィック作・岡田正子訳・飯沢匡演出

「喜劇キューリー夫人」の東北労演の巡演に旅立ちます。

そして九月の東京公演は筒井康隆原案・島田九輔脚本・松波喬介演出「將軍が目醒めた時」の上演と続きます。

全国各地でお目にかかれるのを楽しみにしています。各公演班共、全リ演係がしっかりといますので交流ができたら幸いです。

(島田静仁)

(160) 新宿区新宿二―九二〇

問川ビル 6F

〇三三三三―三三三三―七〇五四

劇団新芸

こんにはは、切を過ぎてから気がつきあわててお便りします。

活動をしていないような新芸ですが、一般自主公演は無理ですが、細々と仕事はしております。

昨年は11月26日に、岩内地方文化センターで、ジェームス三木作「愛さずにはいられない」を、岩内の「波」と共に創り上げました。

演出の鹿角の話では、吹雪にもかかわらず観客五〇〇人程が熱心に観劇して下さい、舞台も熱気のある良い出来だった様です。

2月21日には銭函小学校の5年生の児童と

父母を対象に、うたごえの「春の森」とジョイント(約2時間)を行っており、客席との交流も楽しいものでした。

3月13日・14日の道演集総会では2名のみ参加しました。(宮津泰子)

(047) 02小樽市銭函三丁目二二―一六二

鹿角優一方)

〇一三四―一六―二二二五四

演劇集団和歌山

劇団も一つの節目を迎え、次の発展に向けて、色々な脚本を読みながら、模索しているところです。古典へのチャレンジを含めて検討しています。

リフレッシュして、必ずや再び飛び立ちます。(楠本)

(640) 和歌山市和歌浦南一丁目一―一四

〇七三三―四四―四四三三七・夜間)

劇団テアトル・ハカタ

平成四年の挿尾を飾る秋の定期公演は、十一月十九日から二十二日までの四日間、七ステージ、パピヨン24ガスホールにて、山本周五郎作・鶴岡高脚色の「つりしのぶ」でした。演出の野尻敏彦はこの公演に際して劇団主宰者として次のように申しております。

「早いものでございます。劇団が博多古門

戸町で産声をあげて十五周年になるのだそうです。若者達と脳目もふらず我武者羅に突っ走って創りあげた舞台が一一五本だそうで、その守備範囲も驚くほど広く活動して参りました。この度、十五周年記念シリーズの第一歩として「時代劇」に挑戦致しますものも、考えてみますと無謀の誘りを受けかねませんが、舞台の魅力は所詮、螻蛄の斧、から生れる苦と信じて創りあげる覚悟でございます。」

十五周年記念と銘うったこの公演は三〇〇〇人を超す観客を動員し、まづまづの盛況裡に終了しました。

所としては、最適かもしれませぬ。今年の研究生は8人。老ガエル、すずめ、みみずく、へび、赤とんぼを劇団員で補充し、半年間の成果をこの芝居にぶつけました。そして、無事全員が卒業し、劇団へ入団します。この先、四〇周年記念公演が続きます。新しい力として、活躍してくれることと思います。さて、劇団の次の公演は、夏のファミリー劇場、馬蘭花物語（マアランホアものがたり）となります。キャストイングなどはこれから決まりますが、衣装は今回も、初演時のように中国へ発注し、豪華で、そしてリアリティのある舞台が出来上がると思えます。

明けて平成五年、この一年は十五周年記念名作劇場のタイトルで、これまでに上演して来た一一五本の中から代表作四本を選んで公演することとなり、その第一弾として二月十日から四日間、パピヨン24ガスホールで、北條秀司作、野尻敏彦演出の「おこんの初恋」を上演。第二弾は同じく北條秀司作の「王将」を鶴岡高の演出で五月二十七日から四日間大博多ホールにて上演します。

目下劇団員総動員の形でこの「王将」の稽古にとりかかっている訳ですが、これと平行して福岡県宗像市にある観光新名所「恋の浦ミュージカルシアター」で、三月二十五日より三ヶ月間連続、四二八ステージに突入しました。何分にも長期公演の為、A班からC班までを編成して万全を期してはいますが、終了までなんとも気の安まらぬことになりそうです。

名作劇場第三弾は菊田一夫作の「花咲く港」。第四弾は井上ひさし作の「雨」。いづれおとらぬ大作ぞろいだけに、劇団員六十余名、眠れぬ夜が続くそう平成五年です。

〇人を超す観客を動員し、まづまづの盛況裡に終了しました。

名作劇場第三弾は菊田一夫作の「花咲く港」。第四弾は井上ひさし作の「雨」。いづれおとらぬ大作ぞろいだけに、劇団員六十余名、眠れぬ夜が続くそう平成五年です。

この先、四〇周年記念公演が続きます。新しい力として、活躍してくれることと思います。さて、劇団の次の公演は、夏のファミリー劇場、馬蘭花物語（マアランホアものがたり）となります。キャストイングなどはこれから決まりますが、衣装は今回も、初演時のように中国へ発注し、豪華で、そしてリアリティのある舞台が出来上がると思えます。

〇九を越す観客を動員し、まづまづの盛況裡に終了しました。

〇九を越す観客を動員し、まづまづの盛況裡に終了しました。

〇九を越す観客を動員し、まづまづの盛況裡に終了しました。

〇九を越す観客を動員し、まづまづの盛況裡に終了しました。

〇九を越す観客を動員し、まづまづの盛況裡に終了しました。

〇九を越す観客を動員し、まづまづの盛況裡に終了しました。

だの感謝しています。

三月七日劇団総会を開き、今年八月に三重で催されます「全日本演劇フェスティバルIN 三重」に、「花」を立候補していました。が受理されましたことを報告し、もちろん劇団総会にて全員一致で参加を表現しました。

お元氣ですか、春うらら、新しい季節の始まりは、ワクワクします。

全演のみなさん、はじめまして。今年一月より全演の仲間に加えていただきました劇団火の鳥です。

それに向うため、質の高い表現をめざして、心身共に向上するため、四月の中旬までは演技者として心と表現への向い方等、ある本を教材にし座学を進めています。

お元氣ですか、春うらら、新しい季節の始まりは、ワクワクします。

全演のみなさん、はじめまして。今年一月より全演の仲間に加えていただきました劇団火の鳥です。

久々の勉強会にてなかなか楽しく、稽古場が明るくなっています。

お元氣ですか、春うらら、新しい季節の始まりは、ワクワクします。

全演のみなさん、はじめまして。今年一月より全演の仲間に加えていただきました劇団火の鳥です。

「花」の稽古は四月中旬頃からスタートです。もっとじっくり表現を再構築し、八月のフェスティバルでは少しでも良い舞台を観ていただこうと頑張っています。そんなことで春公演は今年はとりやめ、夏までのスケジュールは次の通りです。

お元氣ですか、春うらら、新しい季節の始まりは、ワクワクします。

全演のみなさん、はじめまして。今年一月より全演の仲間に加えていただきました劇団火の鳥です。

◇「花」（原作・田宮虎彦 脚色・平石耕一 演出・由布木一平）

お元氣ですか、春うらら、新しい季節の始まりは、ワクワクします。

全演のみなさん、はじめまして。今年一月より全演の仲間に加えていただきました劇団火の鳥です。

八月二〇日～二三日（上演日 未定）
大安町文化会館（三重県）

お元氣ですか、春うらら、新しい季節の始まりは、ワクワクします。

全演のみなさん、はじめまして。今年一月より全演の仲間に加えていただきました劇団火の鳥です。

◇地域劇団等 協力応援

お元氣ですか、春うらら、新しい季節の始まりは、ワクワクします。

全演のみなさん、はじめまして。今年一月より全演の仲間に加えていただきました劇団火の鳥です。

五月五日 劇団 久喜座（久喜市）
五月八日 憲法劇（大宮市）

お元氣ですか、春うらら、新しい季節の始まりは、ワクワクします。

全演のみなさん、はじめまして。今年一月より全演の仲間に加えていただきました劇団火の鳥です。

を配慮しつつ、情熱をもって、良い芝居を作りたいと思います。

全り演の皆さんと大いに交流し、学び、影響を受けて、私たちの劇団も成長していけたらと思っています。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。(谷津智恵美)

〔421〕静岡市安倍口団地五

三八一四〇七 泉地守 方

〇五四―二九六一―二九七

劇団やませ

十一月二十八日公演、榎谷伸夫作・栗谷川洋・補作演出の「海を越えたかった男」私説三峰館寛兆は無事終了しました。

栗谷川さんに加え、女優藤あゆみさんを東京から迎え、劇団員にとってはとても刺激になった稽古であり、公演でした。あたたかい中に厳しい指摘を下さる栗谷川さん。真摯な役づくりを劇団員に見せて下さった藤さん。さらに、忙しい中、八戸に駆けつけて下さった照明の石井さん。御三方に改めて御礼申し上げます。

お客さんみならず入ってくれまして、今年の秋の公演からようやく二ステージが実現しそうです。

また、三月二十八日に、隣の南郷村から、

「海を」の公演依頼があり、現在、その稽古にジャカリキになっているところです。

年度末等ではちょっと大変な状況なのですが、なんとか乗り切ろうとがんばっています。十五日にはキャスト全員で、北上市までカワラ合せに行つてこなければなりません。あゝあ。

六月末に若手を中心にした稽古場公演。秋は十一月十二・十三日、榎谷伸夫作「一つの死体」を予定しております。八月までに台本が完成するよう、団員一同祈っております(担当 下村)

〔031〕八戸市大字鉸町字下松苗場

一四一―一八三 榎谷 方

〇一七八―三三三―一九一三

(編集部より・通信とともに上演のビデオもとどきました。さらに安藤昌益国際シンポジュームの記念誌、榎谷伸夫さんの戯曲「出立つ日」が載っています。劇団やませの層の厚い仕事を感じました。見て、読んではお礼はおくれると思いますが、かならずしも劇団サークル麦の会

桜の花咲く季節になりました。金丸金脈が明らかになると、益々腹の立つ昨今です。

扱て私達、麦の会も今年で創立40年になります。40才という実年に達し、本当に集団そ

のものはどうか...と考えている次第。でもまあ種々あったのですが、よくここまでもちこたえて続けて来たものだということも実感です。

昨年は春に、ジュームス三木作「善人の条件」で目下政治機構を痛烈に描いた喜劇を上演し、大評判を得て、秋には山田太一「ジャンプ」で、観客に議論百出の問題劇を上演し、話題を投げました。

今年は40周年記念公演として、7月24・25日、麻布区民センターで、井上ひさし作「雪やこんこん」を上演することにしました。

なんとか40才の実年にふさわしい舞台創造を、と会員一同がんばっています。よろしくおねがいします。

〔133〕江戸川区北小岩七―三二二〇

吉岡利根雄

〇三―三六五九―一八七〇四

劇団静芸

◇11月14日、大谷小学校で「大どろぼうハウスプロット」公演、地域PTAの大奮闘で沢山の子供たちにかこまれ、成功。

◇12月12日、第10回市民芸術祭「文化の広場」として、「小泉八雲大文化祭」の企画構成・演出・進行を劇団が進め、市内音楽家、舞踊

家、大学教授、写真家と共同で、文化祭創りあげ、演劇は「耳なし芳一」を劇団の小原輝夫が脚色、演出伊藤幸夫で市内劇団と共に公演、舞台づくりを通じて広い交流の場が生まれる。

◇1月7日～17日まで、静岡、富士、島田の4ステージで県オペラ協会公演「サウンド・オブ・ミュージック」のスタッフ、キャストに7人が協力、公演は満席好評、県下の音楽家たちと交流が深まる。

◇3月3日、第2回静岡演劇祭(障害者と健全者が共に手をたずさえ、新しい舞台を創る)の招待公演として、「大どろぼうハウスプロット」を上演、今までの小学校体育館公演スタイルを、市民文化会館規模に再創造し、専門家に振付を、ピアニストに生演奏の協力を依頼、沢山の応援スタッフの支えで久しぶりに満席の観客と出会い、笑いと拍手の中心で幕をとじることができた。

◇休む間もなく、春の6月26日、市民芸術祭「闇に咲く花」(井上ひさし作)の稽古に入りました。上演許可も下り、読合せ中。

◇更に劇団45周年記念、公演として11月3日予定で、創作劇・小島真木作「手のひらの上の仔猫」(仮題)が近く脱稿予定。久方ぶ

りに山崎欣太が演出を担当する予定で計画が進んでいる。

劇団の枠をぬけて外にとびだし、沢山の人達と出会い、教えられ、協力を得て次第に劇団に活気をとれどしつとあるといっている。いだろう。創立45周年を機に、また一歩足をふみ出すようにしたいとがんばっている。

〔420〕静岡市昭府町一―〇一三三

〇五四―二七三―〇六〇四

演劇集団土くれ

こんにちは、演劇集団土くれです。

土くれでは、昨年10月と今年1月に、麻布演劇市に参加している他集団との合同公演を行い、11びきのネコに取り組みました。土くれとしては再演ですが、キャストも入れ替わり、他集団の人たちも入ったことで、前作とはかなりイメージの違ったものに仕上がりました。

歌は前回同様、プロの作曲家である松山先生に、踊りは、劇団フォリーの小高氏に指導を受け、本格的なミュージカルを目指しましたが、身体の不調でいかにない団員も多く、どうも思惑通りの舞台にはなりませんでした。

制作的には、港区に根ざしているという目標を掲げ、各集団が知恵をしばって、友の会

を発足したり、ピラまきをしたことにより、7ステージは連日満員で大成功。港区民の動員もかなり増やすことができ、確実に麻布演劇市が港区に根ざしているという手ごたえを感じることができました。

公演後、3日に総会が開かれ、25周年記念というところで、北海道公演が正式に決定しました。昨年好評を博した井上ひさし作「人間合格」をもって、今年の8月11・14日、千歳と札幌の2会場で4ステージ行い、2000人の動員を目指します。

ある程度のメドはたっているとはいえ、東京でもなかなか難しい2000人という目標をどうクリアするか、地理的な問題や知人が少ないので、あらゆるツテを頼ってのネットワーク作りなど課題は山積みですが、制作的にも創造的にも成功をおさめ、これからの活動の糧となるよう、劇団員一丸となつてこの記念公演に体当りで取り組んでいきたいと思

います。(宮本)

〔105〕港区西新橋二―四一―

森山ビル4F 福田方)

〇三―三三〇八―〇一〇四

仙台小劇場

92.12.5・6日 12・13日計6回公演。

『ゴヤ、最後の肖像画』 作ジョン・パー
ガー／ネラ・ピルスキー 訳・演出・石垣政
裕。けい古場公演。

ゴヤである。トンボの幼虫ではない。劇団
の石垣氏のドイツからの手土産である。又、
又彼の訳・演出によるものであった。

近代絵画の祖ゴヤの半生とその晩年を、舞
台をキャンパスに見たてて、観客が芝居を見
ながら、各々のイメージを描いていくという、
演じている方が、本当にわかったらどうかと
不安を感じながらの公演であった。

93年2月3月、移動公演「ぼく、くまの
ままでいたかったのに」(脚本・石垣政裕・
演出菊地あけみ)、例年のとおり、この寒い
中、くまのように冬眠したい気持ちをおさえ
ながら、なんとかこなししました。計3回公演、
劇団には新しい顔も増え、けい古場存続をか
けて、夏の芝居にむけ準備中であります。

(高橋)
890 仙台市青葉区五橋一五一一三
〇三二二六四一三三四〇

劇団すがお
名芸の栗木さんに書いてもらった「桑名の
雷どん」を11月2日の、市の文化祭で上演し
ました。「彦市ばなし」に続いての民話とい

うことで、劇団内の盛り上がりはいま一つ欠
けました。その影響が分かりませんが、その
後12月末までの稽古日には、連日2〜4名し
か集まらず、劇団もこれで終わりかとおろ
ろしていたところ、隣の劇団フリーから、
「ゴジラ」の共同公演の申し出があり、渡り
に船と1月から「ゴジラ」の稽古に入ったと
ころ出席者も増え、ようやく劇団らしくなっ
てきました。

さて、8月にはフェスティバルで全り演の
皆さんにお会いができることになりそうであ
るに似ております。

前回の東員でのフェスティバル同様に三重
県の国民文化祭関連事業としての位置づけで
す。各地で国民文化祭が開催され、それに伴
って地方公共団体が文化に予算をさくことが、
今後どんどん予想されます。勿論、中には振
り回されるような事態もできることも考えられ
ますが、この機会を捉えて、行政、地域に劇
団をアピールしていこうと考えています。

△次回公演▽
「ゴジラ」大橋泰彦・作、上村竜二・演
出
6月6日(日) 東員町文化会館
6月13日(土) 四日市文化会館

(51) 桑名市森忠睦美丘一〇五八
〇五九四一三二一四二二〇

黒石演劇研究会
春とは云え、未だ寒い稽古場で「劇研」は
今、五月三日に黒石市民文化会館で公演する
最上知良・作「世紀の架け橋」(日持上人七
〇〇遠忌記念)の立稽古に入りました。

この作品は、劇団のOBで、市内の日蓮宗
妙経寺の住職をされている最上知良氏の創作
劇で、日蓮上人の高弟日持上人の半生を、史
実にファクションを加えた作品です。

「何しろ場面設定が「身延山」、「津軽」、
北海道の「アイヌコタン」さらに「中国の元
の時代」と変るため、時代考証をしながら衣
裳や小道具を揃えるのに頭を悩ませています。
公演は檀家の方々の為にお寺が行なうもの
で、我々は協力という形ですが、創作スタッ
フ以外は全て黒石劇研のスタッフ・キャスト
での舞台になります。

併行して秋の本公演のレバ選びもしている
のですが、まだ決定をみていません。早くし
なければと思うのですが、いつものノンピ
リ辯で中々決まりそうもありません。

とにかく5月3日に向けて頑張ります。平
年であれば公演当日は、夜桜が最高潮を迎

平原義行方)

劇団京芸
〇附属俳優教室第十七期終了公演
井上ひさし作、北島道誉演出「頭痛肩こり
樋口一葉」四月十六、十七、十八日、劇団ス
タジオ。

劇団の創立メンバーである北島さんが三十
年ぶりに演出にもどってきました。客席を中
央においた斬新な演出の稽古が進んでいます。

〇福井県芸術鑑賞教室
水上勉原作、ふじたあさや脚色演出「鳥た
ちの夜」六月二十六日舞鶴総合文化会館、
二十八日鯖江文化センター、二十九日福井市
文化会館、三十日武生市文化センター。

〇全国おやこども劇場公演
田島征彦原作 駒来慎脚色 つげくわえ演
出 「そうべえごくらくへゆく」
三・四月関東地区 七月九州・四国地区
三年目を迎えて上演回数はもう二五〇回を超
えました。

この芝居の主演である「そうべえ役」の井
上真紀が東京都からおくられる日本児童演劇
協会賞を受賞しました。入団五年目の女優で
す。

来年はいよいよ四十五周年です。記念行事・

公演計画を立案中です。

(612) 京都市伏見区納所北城堀三二一八
〇七五一六三二二二六〇九

劇団湖
こんにちわ。
またまたメッキリギリギリでごめんさい。
昨日雪の下からふきのとうを見つけ心暖か
になりましたが、空からはチラチラ雪です。
さて昨年十月、湖、創立三十周年記念と
してオリジナル作品を一般公演、中学校公演
で、四回ステージ上演。

「わが町・三笠」(明治編)
作・高坂純 演出、加藤元・飯田信之
観客の中に、道演集の仲間たちの沢山の拍
手がきこえました。結構広い範囲の観劇層で
感謝でした。公演後、記念パーティ、五月月
遅れで記念誌も出来あがり、やっと三十年の
節目にキリをつけたところです。そして今年
とんでもないことに挑戦することになったの
です。

まず道内のうごきとも関連するので一寸触
れますが、去る三月六日、江別の劇団「川」
春日基・作、凍原の風に子役を含め八名の
客演し、無事「川」の二十周年記念公演に成
功。

えるあたりなのですが、今年「葉桜」にな
りそうです。それも芝居っぽくて良いかなと
も思います。
(担当 杉山隆一)

036-03 黒石市乙徳兵衛町五一
加賀谷 方
〇一七二一五二一四〇九七

劇団生活舞台

ご無沙汰つづきで申し訳ありません。連絡
がないのが何より元気な印とでも申ししまし
うか、この不良劇団元気に活動しております。
五月三日 憲法記念日 一プロローグとエ
ピローグのある五場「あゝ、国際貢献」を
上演します。これは福岡では十七回目の憲法
集会です。

六月二十七日非核の政府を求める福岡県の
会の呼びかけによる、第六回「非核・平和の
つどい、93福岡」では、非核ファンタジー
「銀河鉄道の朝」(仮題)を上演します。
いづれにしても私たちにとって平和と自由
と民主主義は大切なもので、その基礎である
憲法が改悪されるなど、考えるだけでもゾッ
とします。

今こそ、「なにか行動を起す」ことを提案
して、ご無沙汰のあいさつとします。
(815) 福岡市南区長丘二一五 四一四〇

また四月二十三日から五月九日までに各地（札幌、網走、旭川、天童）で五ステージ上演する道演集の教文移動劇場「岬を駆ける女」作・波谷健一、演出・山根義昭（再演）にも四名の客演を出し、今まで市民や劇団OBと共に道演集の仲間による客演を迎えてやっと思をしてきた、湖が、他劇団に協力できるようにになったのです。

ウレシイ!!しかしそのあとが又たいへん、炭山の町三笠に燻ぶっていたエネルギーが閉山三年後にして突然ふき出すように町をとび出し札幌公演をすることになったのです。

閉山で故郷を去り、札幌はじめ各地に散らばった人々にも「わが町・三笠」を観て貰おうというのです。

湖は只燻ぶっていた沢ではなく、88年のフェスティバルで上演した「さ・ほうない」のあと、アラルコン作「三角帽子」や、J・Mシングの「アイルランドのほらふき男」（西の国の人気者）と今までの、湖になかったレバで力をつけていたのです。

七月十四日、十五日、札幌教育文化会館「わが町・三笠」昨年どおりの作・演出
いよいよ全道に向って出航。役者が全員揃うのは前記の事情もあり五月十日すぎ、それか

らは大車輪の稽古になるでしょう。

小中学生のチビっ子役者も燃えています。恐いような楽しいような挑戦です。今のうちにチケット売捌き、宣伝方法など出来ることを行動に移さねばなりません。萩坂先生にも記念誌届いたでしょうか？この誌も宣伝の一助になってくれれば……などと虫の好いことを考えている私です。写真とチラシ（仮

のものですが……）を同封します。劇団通信としてはガラガラになってしまいましたが、適当にご調整頂ければと思っています。どうぞよろしく!!

現在団員十四名の、湖が、チラシにありますがように多勢の客演者、市内の小・中・高の生徒や市民協力者の力を集めて総勢六十名以上で創る舞台です。

068-21 三笠市本郷町五七八一九
加藤 方

劇団名古屋
〇二二六七二一三〇四四

◇35周年記念公演の最終弾を打上げました。「砂の上のダンス」「アトリエ」そして「わが町」と、各々想いをこめ創ってきて……ホッと肩の荷がおりた感じがしています。ことに「わが町」は市芸術創造センターで

の公演、胃がキリキリする程観客動員が心配でしたが、制作チーフ谷川の熱意と皆の踏んばりで、私たちなりの成果を挙げることができました。

がしかし、あいかわらずの大きな赤字を抱えてしまい、自治体助成が下りるまでを団員からの借金でしのぐという状況です。

たとえ赤字を出しても創造の質を落とさない覚悟はしていますが、なんと少しでもその質を保証出来る観客動員を、という息ごみが団員全体のものになっていないという弱さがあり。ノルマ制の案も出ていますが仲々踏みきれず……全り演の仲間たちからもぜひ知恵を借りたいと、切に思っています。

◇昨年は、市民芸術祭受賞という喜びの中で一年の幕をあげました。

今年も、劇団の古くからの支え手であった劇作家熊谷昭吾さんの死という、大きな哀しみの中での年あけでした。「反核名古屋舞台人の集い」の世話人代表として、中広い演劇人、舞踊家たちの要となり、名芸の栗木英章さん等と共に作品を産み、まだまだこれからの仕事を期待していた折の他界は本当に口惜しく……。

2月に追悼公演が催され、その中で遺作を

久保田が演出させてもらいました。舞台と客席、両者の熱のこもった良き劇場を創りあげることができました。反戦の想いを幕場まで持ってゆきます。――生前の一文を読むにつけ、私たちの受け継がねばならぬもの大きさを思います。「わが町」を熊谷昭吾さんに捧げます。

それから人生を愛するすべての人たちに――と、私たちは「わが町」を創りました。ひとつの大切な命を失い、心許なく淋しく、やりきれない思いで今はいっぱいです。でも人生は、とるところと流れる河のように受け継ぎ、受け継がれ、続いてゆく。「わが町」の三幕目は、演ずる私たちにとても示唆あるものでした。大切に今を生きていきたい、そう思っています。（ごとうてるよ）

△今後の予定▽
「名古屋演劇フェスティバル93」参加
時・7月14日（水）18日（日）（予定）
所・名演小劇場（作品検討中）

456 名古屋市熱田区新尾頭二二二一九
〇五二一六八二一六〇一四

劇団こじか座
御無沙汰に流れ申訳ありません。全り演の仲間の皆さんの御活躍ぶりは誌上で拝見して

常に感服しております。私どもも昨年十一月十二日、定期公演、劇団こじか座集団創作「てしこびものがたり」三幕一を、松山市民会館中ホールで行いました。この作品は、えひめの創作民話劇と呼ばれるもので、周囲から期待され、今回で三演目ということになります。

その前には、復元された芝居小屋、内子座での第二回内子座演劇祭が十一月九日、九二内子座演劇祭「愛・夢・感動」をキャッチフレーズに、催されました。

出演が四劇団ずつ交替ということなので、今年も、こじか座の出演はありませんでした。が、総合舞台監督をこじか座の藤本文夫が、全体総括を細野が行い、この演劇祭の中心的役割を担い続けております。

この演劇祭は、地方自治体と演劇集団が結合して主催する特異な演劇祭として、注目を浴びているものであります。

年が明けてから、三月十三日を皮切りに、県下八か所、毎年定期的に行っている児童劇の巡回公演を行いました。レバは、新美南吉原作・こじか座脚色の「ごんぎつね」と、こじか座創作の「影絵紙芝居」日本昔噺より「ききみづきん」の二本です。

この巡回公演は、劇団創立当初より実施しているもので、途中中断時期がありました。最近の十五年は連続して行っております。舞台と観客が、ごく身近に感じ合えるこの公演は、演劇の原点を見る思いがあり、劇団側もたいへん勉強になり、受け入れ側も毎年期待して、待ってくださるので、なお実施し続けるつもりであります。

創立三十六年を迎えた劇団として、今後地域に密着した仕事を続けたいと思っております。地域の必需品としての劇団の存在が定着してきましたので、今回の巡回は新人を中心にメンバーを組んでみました。（古い劇団員は仕事が多忙で加われないという条件もありましたが……）

今後共にみなさんのいっそうの御指導をお願い致します。

790 松山市木屋町四一三五―一
酒井 方

〇八九九二四一三四一五
劇団やまなみ
桜前線のたよりと共に春がやってきているのに、山梨はまだ肌寒い日々です。

三月六日、都留市旭小学校にて、移動公演が終わり、教育委員会主催「こうふ演劇祭」

が八月十六・二十四日に行なわれます。

それに参加する脚本を選出し、スタートします。がんばっています。

(400) 甲府市青沼一八八五 梅津 方
劇団海鳴り
○五五二一三三一九五五六

演劇祭の節は遠いところがありとうござい
ました。やっと後片付けも終わり、少しはほ
とできるかなと思いましたが、なかなかそう
は行きません。すぐに次期演劇祭の打ち合せ
に江別市へ行ったり、道演集の総会、息子の
大学卒業とか、親戚の不幸とか……

でも、大事件は、家庭の事情で前田劇団代
表夫妻が退団したことです。数年後には復帰
すると言っていますが、すばらしい指導力で
劇団を引っ張って来た二人の退団に、いまだ
ショックから立ち直れないでいる所です。
そんななかで現在、春公演の稽古中です。
矢作京介作・五十嵐陽子演出「あほう村の九
助」です。

「あしぶえ」さんの50人劇場に刺激を受け
初めての稽古場公演を始め、3・4カ所上演
を予定しています。

(094) 紋別市潮見町二一三三四 (我孫子)
我孫子正好方

です。演出も若い演技者が担当。元氣あふれ
る舞台で、制作も若い演技者が懸命に努力。
(本号に阿部好一氏の劇評、62頁に掲載)。
中学・高校・こども・おやこ劇場を巡演し
ていた「河童証文」(栗原省・作、仲武司・
演出)は2年間の長期公演を4月に終了。
同じく同対象の「十一びきのネコ」(井上
ひさし・作、上利勇三・演出)は、ひきつづ
き来春3月まで続演します。

8月・9月、大阪労演他の例会作品「姥ざ
かり」(田辺聖子・作、道井直次・演出)は
目下脚本をわりなおしに懸命。
6月より移動開始する、こども・おやこ劇
場巡回公演作品「モンスタ―ホテであいまし
よう」(原作・柏葉幸子、脚本・演出柳川昌和)
が、いよいよ稽古開始。

94年度の新・中学・高校巡演作品が、これ
も劇団内創作で「薫ING」(原作・岡田な
おこ、脚色・宮地仙二劇団の女優)に決定。
身障者の高校生が明るく生きぬく姿を描いた
もの。

「河童証文」にかわる小型移動は、前記
作者と同じく、劇団内脚色で、「希望をあり
がとう」(原作・鹿島和夫、脚色・宮地仙二)
になりました。2名だけの芝居です。

○一五八二一三三三三八

のりきり、すでに3月20日(土)に、八尾演
劇フェスティバルに参加、八尾プリズム大ホー
ルの公演を終りました。

劇団息吹
全リ演各劇団のみなさん、お元氣ですか。
我々の近況をご報告申し上げます。昨年の
話になりますが、「安楽兵舎V・S・O・P」
(作・ジェームス三木、演出・田中実)を八
尾プリズム小ホール(11月1日)、エルシア
ター(11月9・10日)を無事終えることがで
きました。観客総数約一四〇〇名、と手伝っ
て下さった人々の力もあり、近年では最大に
近い動員となりました。

また反響も大きく、「とてもよかった」と
いう声とともに御批判も多くあり、団として
の芝居づくりに関わる課題を残し、いろいろ
な意味で大変勉強になった公演だったといえ
そうです。
またこの公演のあと研究生全員と他一名が
入団、団員が7名も増え、ますます活気がで
てきました。

そして現在は、さねとうあきら作、大坊晴
彦・演出、児童劇「ゆきと鬼んべ」に取り組
んでいます。
この稽古の最中、キャストのひとりが背骨
を骨折する事故がありました。急ぎよ、
キャスト、スタッフを変更、それもどうにか
できました。

そして現在は、さねとうあきら作、大坊晴
彦・演出、児童劇「ゆきと鬼んべ」に取り組
んでいます。

動員も六〇〇名をこえ、お客様の評判もよ
く、ホッとしているところです。

次は同じ作品で、大阪春の演劇まつりに参
加、5月14日(金)6・30・15日(土)2・
30・6・30 近鉄小劇場で公演の予定です。
キャストは若手中心ですべてダブルキャス
ト、スタッフもキャストの倍は必要で大変な
公演ですが大人以上にストレスを抱えている
という今の子供たちに、「いのち・や・愛・
や・勇気」の大切さを伝えたいという思い
で団員一同、それぞれの分野で精一杯がんばっ
ています。

(事務局・安田)
(578) 東大阪市中野二二四一四
○七二九一六四一四四四一

関西芸術座
一年ぶりで、関芸スタジオでの一般公演を
催しました。

「ナツヤスミ語辞典」(成井豊・作、松本
昇三・演出)2月24日・28日、7ステージ。
周知のように、いま若者たちに人気のある
作者のものです。劇団でも、若者たちに出演
の機会を少しでも多くと配慮もあつての企画

附属演劇研究所の第36期本科の卒業公演を

3月27日・28日関芸スタジオで公演。作品は
「七本の色鉛筆」(矢代静一・作、仲武司・
演出)。この公演で、14名が本科終了。ひき
つづき専攻科生として、9ヶ月の教科があり
ます。

(545) 大阪市阿部野区文の里四一八八一六
○六一六二二二二二二二

関西芸術座「ナツヤスミ語辞典」V

劇団未来

今日は、劇団未来です。お蔭をもちまして
劇団の30周年公演No.1「謎解き河内十人斬り」
で、四国公演を経験し、No.2「我が街・大阪一
ひがし」では、劇団OBのたくさんの参加
を得、久しぶりに多人数の出演の公演を成功
させ、意義ある年となりました。

今年、気分新らたに、一から出なおすこ
ととなり、力を持続させたく、元氣に歩み出
しました。

今、平成不況風が吹き荒れておりますが、
借金と病苦にさいなまされつつ、近代日本の
名歌をのこした天才詩人ノ啄木の短い生涯か
ら学ぶことがあると、井上ひさし作「泣き虫
なまいき石川啄木」に挑戦中です。

寺下保・演出 5月19・20・21日 森ノ宮
プラネットホール。
御声援いただければ幸いです。

(西尾)
(536) 大阪府城東区成育一丁目四一二五
○六一九三九一五七七七

京浜協同劇団

◇第22回「かわさき演劇まつり」は、川崎演
劇塾との合同公演で「オズの魔法使い」(栗
木英章・脚本、団のぼる・演出)を上演。



幸文化センター、3月27・28日の4ステージを満席にして好評のうちに終えることができました。(観客数三五〇〇名)

多忙をきわめているに違いない栗木氏、改訂要求にも快よく応じてもらい、御夫妻で、名古屋から打上会にも参加して頂きました。実は栗木氏は、二十年前に川崎出張の折、約一年間、京浜協同劇団に在籍した経歴をもっています。旧交を温めることができました。◇六月の公演は久しぶりに稽古場の熱気あふれる公演を予定しております。チェーホフ・作『白鳥の歌』と木庭久美子・作『ともだち』です。

前者は中沢研郎が、後者は室野定子の出演ならびに演出です。老いの問題を正面にすえて、まだまだ老いてはいない制立メンバーの創造的力量を、ちからいっぱい展開しようというものです。乞御期待。

◇稽古場といえは、建築してから二十三年余り老朽著しいため、第二次の建設計画を、いま煮つめているところです。

劇場の機能と第二稽古場の確保、駐車場兼大道具製作場並に衣裳のスタッフ室等々、次々と夢はふくらむのですが、リアルな資金の裏づけをどうするかが、最大の課題となっています。

周年の記念事業一つに参加させていただきました。大成功でした。)

『自分達の目の高さで演れるものを』と選んだ作品でした。

誰にでも身近に感じるテーマのせいと作者の話題性も手伝って、練習不足の舞台でしたが、客席の反応はすばらしく、△観客とともに創るVということを実感しました。

そして、営業力(?)のある30歳前後の新人が数名参加、おかげで記念公演以外では、久しぶりの大入りでした。

劇団歴の新しい団員も刺激され、大はりきりだったのはもちろんです。

今は、できればもう一度、新しい演出の確立も含めて、同じ路線でと、秋の公演のレバ選びをしているところです。

とにかく、今年も楽しい芝居創りをしたい、参加した皆さんがよかったと思える作品にしたい、そう考えています。(M)

(090) 北見市幸町八一三―四 扇谷 方
〇一五七―二四―三三五七

△編集部より・通信の文体はお若いですが、北見新聞、道新などの上演評も好意的ですね。お送り頂いた写真、次のを一枚だけ載せます。巻頭グラビアに間に合いませんでした。雑誌



△劇団河童『結婚という冒険』V

が出来ましたら一語に写真も全部お返しします。ご安心下さい。扇谷さんやママさん、田丸さん、みなさんにお会いしたいですね。(萩坂)

を代表して派遣することが決定。(93年5月7日/15日の日程)

(藤井康雄)

(21) 川崎市幸区古市場二―一〇九

〇四四―五一―一四九五

△上の写真は『オズの魔法使い』、通信の内容を参照して下さい。説明略します・桃V劇団河童

お久しぶりです。何年ぶりの劇団通信でしょうか。

団員の平均年齢がいつの間にか……これじゃあ、シルバー劇団だノと言いなながらも何とか一年一度の一般公演は続けています。

昨年の北海道演劇祭にも取り組みが遅く、オホーツクで開かれたにもかかわらず、作品参加はできませんでした。

『海鳴り』の皆さん、道演集の皆さん、ごめんなさい。

△劇団の公演報告V

92年10月24日(土)25日(日)2ステージ

会場 北見市経済センター

『結婚という冒険』

作・ジュームス三木

演出・布施 茂

(一般公演に先立ち、丸瀬布町・開基八〇

ガリンコ演劇祭

『交流会の夜は更けて』

五十嵐陽子
(劇団海鳴り)

北国の紋別も、そろそろ春の気配が近づいて来ています。ガリンコ演劇祭が開催された昨年の11月は、冬の到来間近い寒い日でした。

11月20日朝「ジャー」と電話のベル。反射的に受話器をとり、もうろうとした意識でそれでも声だけはよそいきを気取って「もしもし我孫子です」「五十嵐さんですね、萩坂です」「はい、五十嵐です」ん？ハギサカ……ピンとこない。「〇〇時にこちらを発ちます。紋別空港着は、確かに〇〇時だと思えますが、会場にはどのように行けば……」あっ！ハギさんだ、萩さん！「空港には団員が迎えに行きますから、それに乗っていらしてください。お待ちしています」とか言ったかな？受話器を置いてようやく状況を把握できたのです。

川崎からだもの、早朝デンワだもの、何より今日から演劇祭なのだ。だけどどうして五十嵐だって解ったのかな、それにしても若い声。泡食って隣の我孫子を起こし「萩さんからデンワ来た、予定どおり着くって」「よし、起

きるか」

宿泊所になっている海鳴りの稽古場から、劇団さっぽろの飯田さんが我が家に来た。会場の市民会館は我が家から目と鼻の先。「よいし、ガンバルゾ」9時、会館入りをする。演劇祭開幕開けの今日は、夜劇団さっぽろの1本だけ。受付の準備、控室の確認等々分担してとりかかると、萩坂さんの迎えは団員のトクちゃん、飯田さんに決定。ところが水先案内人のトクちゃんがなかなか来ない。飯田ちゃんのはのんきに、少し早い昼食のカツ丼を食べている。私は何だか興奮して食欲がない。ようやくトクちゃんが来た。こっちのアセリをよそに、彼は飯田ちゃんと平然と空港へ。

会場入口には、7本の手作りののぼりが風にはためいている。ロビーにはもと団員から目の覚めるような盛花輪が届いた。そして紋別博物館の協力で、ロビーに、少青年期を過ごした、本庄陸男展がオープンした。海鳴りが今回上演する人物である。1時30分頃、萩坂さんが到着。とどきししながら出迎への挨拶をする。私は会うのは3回目である。最初は美唄の演劇祭。2度目が全り演劇祭の札幌だった、萩坂さんの担当は三笠の劇団湖の加藤元さんに勝手に決めていた。

3時過ぎ頃から続々と道演集の仲間が到着する。釧路演集・さっぽろ・ども等々。嬉し

いやら上がつっているやらで、参加費の計算もしどろもどろである。万全だと思っていた宿泊表も不備がでてくる。お金の扱いを一手に引き受けているので、緊張で肩がコチコチである。いつもは役者で出ているから、受付も初体験、客足が心配になってきた。おまけに横殴りの雪模様だ。動員目標は各ステージ500人+海鳴り1000人。チケット売上が伸びなかったのも気にかかっていた。心配しても仕様がなない。なるようにしかならない。開き直ることにした。開演15分前になっても客の姿が見えない。神に祈りたい気持ちで隣の受付嬢を見る。飯田ちゃんも落着かない様子。今晩はさっぽろだけ、1本の上演である。来た！ドア越しに足が見える。客が来た。小中生、親子連れが会場に吸い込まれて行く。知り合いの顔もある。この吹雪模様の中、足を運んでくれた客は神様に見えた。感謝の気持ちで一杯になる。

観客数は目標を下回ったが、1日目は何とか無事終えて、少しホッとする。ただちに2日目の打ち合わせが海鳴り稽古場で真夜中まで行われた。

さて、楽しかった交流会について書くことにします。

演劇祭のスケジュール組みの中で、交流会をいつにするか、随分悩んだ。まず、全員が参加できる日時でなければ意味がない。でも、余り遅い時間帯では仕込みやら次の出演団体に影響がある。でもそれは、その劇団の酒の飲み方の意識の問題だから、そこまで考えなくともか、いろいろ意見が出たが、結局2日目の夜の公演がはねてからに決定。次は場所、なにしろお金がない。安い会費でどこそうがあったと……最初、宿泊所の100畳敷の大広間で行う予定であったが、寝れない人が出ては気の毒だし、後片付けが大変ということ、市内の某結婚式場に電話をすると、なんと空いていた。「全道の演劇祭で地方からも百人以上参加しているので、紋別の顔をつぶさない内容で1人2千円で料理をお願いしたいんです。飲み物は持ち込みで……」段々声小さくなる。先方が知り合いという事もあってOKしてくれた。ヤッター！時間は夜9時から11時までの2時間。その日は時間が押していた。ともかく交流会準備班は会場へ向かった。9時半頃から仲間が集合しはじめる。会場に入ると同時に飲み始め、カニをほ

おはり料理をつつく。全員が揃ったのが10時頃であつたらうか。交流会参加人数130人。まずは、地元実行委員長の歓迎の挨拶と乾杯。各テーブルの盛り上がりは大変なものである。訳の分からない乾杯の連続。まあ、食べるわ、飲むわ、これが道演集の実態である。我孫子地元事務局の再度乾杯と、今日までの動員報告。前田海鳴り代表が水割りサービス・ゴミ集めと、ホテルのボーイのようである。各ブロック毎の劇団紹介では、やじや喝采で司会の声も聞こえない。ついに萩坂さんが舞台に引っぱり出される。私も調子に乗りエスコート役を買って出る。「川崎を出た

時は19度、札幌では13度、紋別へ着いたら次の日雪が降った。ユーモラスなあいさつで会場が沸く。「何故紋別へ来る気になったか。千田是也さんが、春に三笠に来ている。80歳に行けて、俺に行けない訳はない」又、爆笑である。「劇評の方は、演劇会議誌上で特集を組み、海鳴りに100部位おつけようと思っている。」大きな歓声、われんばかりの拍手。その後は飯田創造委員長の登場。「次回の演劇祭開催地は、空知ブロック担当で、江別市に決定！」もう会場は、盛り上がりいいだけ盛り上がり、こうなれば組んでいた

進行などご吹く風。次から次へと舞台上立ち、自己PR。最後はどもの安念さんの3本締めで、交流会はお開きとなった。あとはそれぞれ、料飲店マップを片手にはまなす通り(紋別の飲屋街)へと散っていくのである。私は萩坂さんと、某スナックで一緒に過ごす機会を得た。酔にまかせて、楽しい一時を過ごさせていただいた。後日聞くと、それぞれがうまい具合に、自分の場所を見つけて、歌ったり踊ったり。氷点下10度の交流会はかくして更けていったのである……おつかれさま。



ハカット絵 飯島俊一

地方都市に根づく劇団はぐるま

こばやしひろし

概要

岐阜市は鶴飼を観光資源とする四〇万の観光都市である。日本での典型的な文化不毛の地方都市といっている。そこに劇団はぐるまが生まれ四〇年になる。そして今日では年間の延観客数は一万五千から二万人に達し、一〇〇人劇場御浪町ホールを有し、スタッフ集団御総合舞台はぐるまを持つ日本ではユニークな創造集団に成長したのである。集団の指導者こばやしひろしは「続けることこそ才能である」と訴えたが、人材の少ない地方においては続けることによっての創造の蓄積が何より大切だと信じたからである、そうして三つの条件を満たすことに努力した。①創作劇を軸としたレパートリーシステムの確立。②スタッフ集団の定着。③制作常任の定着。

こうして遂に堪える創造集団を確立した

のである。むろん当初は模索であるが、一歩確保し、ようやく岐阜で創り、岐阜から発信する文化創造の拠点が生まれたのである。そのために四〇年を要したといって、過言ではない。いかにソフトを創ることが困難を示していると思う。文化会館は金さえあればいくらでもできるが、創造集団、人材は長い年月をかけての血みどろな努力抜きには育成されないことを示している。

1

劇団はぐるまは一九五四年に創立されたから今年で四〇年を迎えるのである。現在在籍八四名、小さいながらも五階建の事務所・稽古場を持ち、市内の繁華街に一〇八の客席のミニ劇場御浪町ホールと三〇名のスタッフ集団御総合舞台はぐるまを持つ非専門劇団と

してはユニークな組織を作りあげた。観客も年間延一五二七人（一九九二年）の支持を集めている全部有数の地域劇団である。どうしてここまで成長したかを考えてみたいと思う。

岐阜市は四〇万の岐阜県の県都であるが、鶴飼を目玉とする観光都市で大きな企業も組合もなく、飲み屋とスナックが軒を並べる拡散した消費都市である。典型的な文化不毛の都市といっている。文化不毛の都市とは創造的な能力を持つ人材がほとんど中央の東京に出いていないということである。そうした悪条件の中で創造の中心をなしたこばやしひろしは「続けることこそ才能である」と創造の蓄積を訴えた。滝沢修も杉村春子も元はといえど素人である。それが創造の蓄積によって日本の財産となった以上、われわれでも三〇年、四〇年蓄積すれば岐阜県の財産にはなれる。これがこばやしの信念であった。そして創造集団としての力を蓄積するために次の三つの条件を満たすために努力したのである。

①創作劇を軸にレパートリーシステムを確立する。

②スタッフ集団を定着させる。

③制作経営を集団の軸にする。

集団の個性を生み出すには既成脚本にだけ依存しては限界があることは言うまでもない。こうして創立当初から創作劇を打ち出し、数人が挑んだが結果的にはこばやしのみが残っているのが現状である。しかし、曲りなりに創作劇を軸にレパートリーシステムを確立したことは岐阜に定着するために大きな力となった。そして二番目はスタッフの定着専門化である。俳優の希望はいくらでもあるがスタッフの希望者がいないのが地方の現状である。スタッフのいない舞台ほど惨めなものはない。プロ・アマの差が表れるとしたら、俳優はむろんであるがスタッフに現れると云っている。何とかスタッフだけでも専門化しなければならぬ。これが悲願であった。

こうして創立十三年目（一九六七年）にして御総合舞台はぐるまが成立したのである。年令掛ける一〇〇〇円の薄給だった。三番目はこれもスタッフの大切な部門だが制作企画部門の強化である。すなわちアートマネージャーの定着である。これもやり手がないのである。どこもこの集団でもキャストにもれた人が名前を連ねるだけであるが、私たちの集団は制

作常任の定着化に血みどろになって努力してきたのである。薄給のためもあり、入れ替わり立ち替わりで辞めて行ったが、これは誰でもできるというものではない、七年より加納美千子が担当するようになり、ようやく岐阜を視野に置いた劇団の企画ができるようになったのである。

2

創立当時私たちの舞台はアマチュアのそれであって一般市民からは鑑賞の対象とはされなかつたのである。公演のチケットを持って誘うと「私は本物しか見ないことにしている」という返事が返ってくるのが度々であった。私たちに文化を創る能力がないと思われていたのだ。残念ながらそれを全面的に否定することは出来なかつた。しかし、入場料を払って観てもらおう以上舞台上にアマチュアとプロの区別があるはずがない。観客にとっては何から感動を得たかどうかであって、アマ

チュアとしてはまあまあ良くやっているという評価であっては絶対長続きするはずがない。義理で観てくれるのは精々3回か4回までである。観客がいなければ私たちは存在出来ないのだ。鑑賞に耐える劇団、見せる劇団、見せる劇団を求めたのである。

こうして私たちは創造的な厳しさをもっとも重視した。どれだけ努力しても本人に限界があれば本番一週間前でもキャストから降ろしたりしたのである。演劇はアンサンブルである。一人や二人のまずい俳優のために台無しにされてはたまらないからである。

こうして創造的蓄積のために私達は敢えてモリエール、シェイクスピア等の古典劇に挑戦した。当時地方劇団では伊賀山昌三の「結婚申込み」や斎藤瑞穂の「象の死」から始めるのが一般的であった。それを装置は専門家の板坂晋治、衣装は緒方規矩子に依頼し古典劇に挑んだのである。古典劇を物にするには体がリズムカルに動きセリフにテンポがなければどうにもならないので、こばやしは俳優の訓練にもっとも適切と考えたのである。踊りから柔軟体操でしばらくしはられ翌日足腰が痛くて悲鳴を上げる者もいた。赤字を重ねようが挑戦した。こうして俳優の創造力の蓄

積に動めたが、それでも集まってくる観客は精々数百から一〇〇〇人前後であった。むろん財政的にも大変で、はぐるまとは云わず「火の車劇団」と自虐的に云ったものである。

創立五年目にしてある一定の力を蓄積した段階でこばやしの創作劇「風化」に劇団は取り組んだ。その公演になんと二二〇〇人の観客が集まったのである。当時専門劇団の岐阜公演でも駆けずり回って二二〇〇人前後であったからこの数字は大変な数字である。すなわち、はぐるままでなければ観れないはぐるま独自の舞台が要求されていることが明確になったのである。こうしてこばやしは演出だけでなく、座付作者として定着した。

一方、私たちは劇団の創造力を示すメルクマールとして「どん底」を目標に置いた。「どん底」はむろん地方劇団では上演されていなかった。また築地小劇場以来の新劇の象徴的演目であり、高度な創造力とアンサンブルが求められるから演劇人としては一度は通過したい作品であった。創作劇「風化」で自信を得た頃から一〇周年には「どん底」をとるのが劇団員の悲願となった。こうして情熱的に一〇周年にぶつかった。こばやしは三〇代であり、みんな若かった。春に「どん底」

を成功させ、その勢いで秋には郷土の歴史に取材したこばやしの「郡上の立百姓」を上演したのである。そして観客は前者が一九八三人、後者にはなんと三八九三人が集まったのだ。むろん岐阜での演劇の観客数の記録である。これ以後観客の記録はつねに劇団が更新してゆくのである。

さらに朗報が入ってきた。翌一九六五年の訪中日本新劇団のレパトリーに「郡上の立百姓」が採用され、こばやしも訪中することになったのである。当時地方劇団のレパトリーが国際文化交流の検舞台に出ると云うことは考えられないことであった。

翌年名古屋労演でも取り上げられ、専門劇団に伍して非専門劇団のはぐるまが、その年のアンケートで十二例会中一位にランクされたのだ。さらに劇団民芸によって全国公演が行われ各地で好評を博した。考えてみればこの「郡上の立百姓」なくして、今日の劇団はないと云っていいと思う。文化と云えば中央のものだけが本物と考える卑しいコンプレックスに取りつかれているのが地方の実情である。その中で岐阜からも岐阜の文化を生み出し、発信することが出来ると岐阜市民が思い

始めるようになったのである。こうして劇団に弾みがついた。勢いというものは恐ろしい。

一〇周年を過ぎて劇団は二つの大事業を成し遂げた。一つは稽古場の改築であり、もう一つは術総合舞台はぐるまの成立である。パルク建ての稽古場はあったが使用に堪えられなくなり、鉄骨五階建の稽古場兼事務所を造ったのである。当時約九〇〇万かかったが私たちにとっては大事業であった。経済界から医師会弁護士会、市民労働者のあらゆる組織を回った。こうして一九六八年ついに完成することが出来たのである、ここで何より特筆すべきは待望の小劇場公演が出来るようになったことである。狭い稽古場だから六〇人も入ったら満員で、一〇ステージ連続上演しても六〇〇人にしかならないのだ。

市民会館（一五〇〇席）では初日で業日と云うのが地方劇団の現実である。それが一〇ステージ連続して舞台が踏めるなんて夢といっている。これがスタッフ・キャストの創造力の蓄積と成熟に大きな力になることは当然である。それだけではない。俳優の息遣いにまで反応する観客との緊張関係は小劇場でしか味わえない魅力なのである。ラシーヌの「フェ

ードル」この小劇場で二〇ステージの予定だったが、観客が続き日延べ日延べで二六ステージを重ねたのだ。こうした小劇場への魅力が御浪町ホールへと駆り立てたのである。

もう一つはスタッフ集団術総合舞台はぐるまの成立である。スタッフの強化は創立以来のこばやしの主張であることは前にも述べた。一時劇団全体の職業化の要求もあったが、日本の文化状況では見通しを立てることは無理であると諦めた。しかし、スタッフの職業化については着々と準備を進めたのである。当時全国的に見てもスタッフの職業集団は地方都市になかったといっている。それだけに苦しい運営が続いたが、これによって劇団の創造力は飛躍的に高まったのである。芝居の主人公は俳優に決まっている決まっているがその俳優を生かすも殺すもスタッフ次第なのだ。スタッフに支えられて初めて俳優はのびのび自分を表現することができるようになったのである。それだけではない。照明音響に限らずスタッフの仕事や舞台への興味が劇団員に浸透し、道具衣装から作曲振付けにいたる人材が劇団内に、また劇団集団に集まるようになってきたから面白い。また専門劇団では常

時スタッフを内部に抱えていることは経済的に無理で、そのほとんどを外部に依存しなければならぬのが一般である。しかし、われわれ非専門劇団は給料もギャラも払う必要がないから逆に内部に持てるのである。演出はその強みを発揮し、その内部のスタッフと遠慮なしに創造的な詰めを行うことができたのだ。それだけではない。地域の他のジャンルの舞台文化にも大きく貢献し、それを通じて地域社会にも影響が広がっていった。

3

その後もこばやしは「書けない黒板」「櫛の木」「つくられた英雄」等を書き続けたが七〇年代を境にしてリアリズム演劇に陰りが見え始め、こばやしの創作も行き詰まり始めた。七一年七二年は稽古場の小劇場に閉じこもり、既成脚本に依存し公演を維持しなければならなかった。公演が済んでも次の作品が決まっていなかった。公演が済んでも次の作品が決まっていなかった。何度企画委員会を持つても集団として上演したい作品が見えてこないのだ。それが一週間二週間続くことがざらであった。その壁を破ったのが親と子の劇場と銘打った「王子と乞食」であった。久

し振りにチケットの発売停止を見、なんと四九一五人の観客を前にすることができたのである。この観客の発見は大きい。

高度成長と多様化の波の中で、自分の人生と舞台をつないで見る観客はいるかもしれないが、演劇を社会運動とつないで見る観客はもういないのである。多様の中に生きる新しい観客を私たちはたぐりよせる以外ないわけである。こういう時代になると制作企画を担当するアートマネージャーの役割が大きくなって来るのである。加納美千子は七一年から劇団の制作常任となった。制作常任は創立五年にして無理に無理を重ねておかれたが、薄給の上に仕事、任務が分からないまま入れ替わり立ち替わり辞めていった。この仕事は誰もができるというものでないことが明確になった。加納によってようやく制作常任が集団の要となり、組織的な普及活動、観客の要求を吸い上げての早め早めのレパトリーの決定。それだけでなく年間の企画スケジュールは年の初めにはとんが決まるようになってきた。アートマネージャーの役割がようやく機能し始めたといっている。その最初の大きな仕事「王子と乞食」であった。そしてそ

れが新しい観客を手繰り寄せる糸口になったのである。

翌年「ジャックと豆の木」では七五二五人、五割増しの観客である。三年目の「黒い古城」は八三〇二人であった。ここにその後の親子の劇場の観客数を上げて見よう。

七二年	王子と乞食	四九一五
七三年	ジャックと豆の木	七五二六
七四年	黒い古城	八三〇二
七五年	裸の王様	一〇四一三
七六年	童の子太郎	七九九六
七七年	昆虫記	八二二九
七八年	ゆき	六三六三
七九年	森は生きている	七三三六
八〇年	アリババと四人の盗賊	八八五一
八一年	ピーターパン	八七二三
八二年	王子と乞食	八八九一
八三年	馬蘭花物語	七八九五
八四年	ブレイメンの音楽隊	八四四二
八五年	ジャックと豆の木	七六一一

これを見ても分かるように家庭の文化的要求は潜在的に蓄積されていたのである。「王子と乞食」がこれに火をつけた感じである。観

客組織の子供劇場が全国的に広がり始めたのもこの頃であった。家庭の核家族化とともに消費文化の洪水に埋没した子供の没個性化、均質化による人間性の枯渇化。そこからの脱出を求めている文化要求にはかならない。ここでも私たちの劇団は地域劇団の強みを發揮した。地方巡演の東京の児童劇団は経費をできるだけ節減するため当然制約がある。舞台も豪華には飾れず、出演者も精々一五人程度に抑さえられるのである。ところが私たちはノーギャラであるから三〇人でも四〇人でも出来るだけ逆に出してやりたいのだ。そうなれば、むろん舞台上に迫力も生まれ、芝居の醍醐味を十分味わってもらうことができるのである。これはスタッフにも跳ね返ってくる。歌って踊れる集団にならなくてはいけないので作曲から振付け、それに衣装が力をつけなければならぬ。集団は必要に応じて力をつけてゆくのである。

この親子の劇場は夏休みに入ったところで上演されるのであるが、毎年これを楽しみにしてもらえようになった。チケットの発売も二カ月前の六月一〇日から決まっていたのだが、いい席をと争って買い求められ、初日の日に三五〇〇枚から四〇〇〇枚のチケットが出てしまうようになったのである。こうした

して二〇年も続けられるとこの親子の劇場に感動した子供が親になり、自分の子をつけて観に来てくれるようになってきたのだ。毎年二〇〇通以上の感想文が劇団に寄せられるがそういう手紙が入ってくるようになった。そうした手紙に接すると地域に根付いて苦労をかさねた重みをつくづく私たちは感じるのである。

これは一般公演にもはね返った。二〇周年公演としての岐阜労演との共同企画「ひしめきあう不毛の季節から」(こぼやしひろし作)は四二一九人の支持を得たのである。この時期の一般公演は質の高い舞台が続いたと思う。サルトルの「恭しき娼婦」フィゲレイトの「狐とぶどう」ロルカの「血の婚礼」秋元松代の「かさぶた式部考」。とくに後の二つは劇団としてもスタッフ・キャストがもつとも充実した時期を代表する作品で、強烈な印象を残した舞台であった。その一つの頂点を成したのが二五周年である。

稽古場での小劇場が評判のいいことは前に述べたが、これが常設の付属劇場への要求となった。時間の制限を受けず自由に使える自分たちの劇場を持ちたい。全くぜいたくな夢のような話である。

燃えに燃えた劇団員は自分の力に応じて一万円、五〇万円、一〇〇万円とそれぞれ自主的に出費して、ついに岐阜の繁華街柳ヶ瀬のド真ん中に一〇〇人劇場御浪町ホールを完成したのである。

こけらはシエクスピアの「オセロ」で幕を開けた。二カ月にわたり二三ステージの上演が続けられた。一〇〇人で満員になる会場で二〇七二人のお客さんであった。この年「郡上の立百姓」が再演されたが、年間五本のレパートリーで二四一八一人の観客であったのである。岐阜市の人口四〇万だからその実に六パーセント、地域劇団としては考えられない数字である。これが劇団にとって一〇周年に続いて二つ目のピークといえるだろう。

戯劇家協会(演劇家協会)上海児童劇院から衣装その他の資料の提供を受け、中国民話劇「馬蘭花物語」を上演した。また、八七年には台湾の作家暮一姚の「紅鼻子」を、中国を代表する中国青年芸術劇院の演出家陳顯女史を迎えて上演したのである。

まだ中国と台湾の関係は今日と違って政治的に複雑であったので全国の注目を集めた。これも地方劇団にとって画期的なことであった。国際化の時代に向かう地域に大きな反響をもたらした。こうして劇団はぐるまは自力で国際交流をも成しうる岐阜にはなくてはならない文化集団に成長したのである。

いうまでもなくこうした力を持った創造集団の要となった加納の役割は極めて大きい。加納が制作常任となった七一年以降の劇団の観客数を図に示してみよう。

年度	観客	年度	観客
七一年	一三二三七	七二年	一九五四五
七三年	二二二二三	七四年	二二六六一
七五年	一九八一三	七六年	一八六八一
七七年	二二二六七	七八年	二三四二三
七九年	二四一八一	八〇年	一九五五八

これを見ればいかに創造集団にとってアートマネージャーの役割が大きいかわかると思う。観客と創造をどう結合させるか。これは創造以上に創造的な仕事である。そのノーパーは一回や二回の経験で得られるものではない。また誰でもではないのだ。演出と同様に常に観客の要求をつかむ鋭い皮膚感覚がなければ「今日何をやるべきか」という制作課題が蓄積されてゆかないのである。またそれに応える創造集団でなければ制作の仕事は続かない。企画が成功することによってのみ次の企画を組み立てるエネルギーが出てくるからだ。そうした両者の緊張関係の上にアートマネージャーの仕事は成立するのである。ここに至るまで多くの制作常任が挫折したことを見ても地方劇団でアートマネージャーを確立する道はまだまだ険しいといわねばならない。

またアートマネージャーが生まれにくい限り、地方劇団が地域を掌握し、根付くことは不可能だと思ふ。

ドラマを楽しくするために

——これからの方言指導——

大原 穰子

過日時代劇の舞台を見に行ったときのこと、幕間のさわめきの中から隣席の会話が耳に入った。「台詞の方言がメチャクチャだよ」そしてフゥーと漏らした溜息が、失意の深さを感じさせた。

さり気なく振り向いて見たところ、演劇界の人ではない。またいわゆる劇団友の会の会員といった感じでもない。

久しぶりの観劇に、浮き浮きと劇場に足を運んでこられた人。そんなふうに見受けられた。話しの雰囲気から舞台で演じられている地方に所縁のある方だと、容易に察せられた。

それだけに舞台への期待は大きかったに違いない。開演中の薄暗い観客席の一人一人の表情は良く見えないが、そこには俳優の一挙手一投足に劇的感動を期待して見入る観客の顔がある。

その日の舞台の場合は、演劇の最も基本的な「台詞」で観客の期待を裏切ったと言わざ

しかしこれまでの暗闇を手探りで歩み続けるような「ドラマの方言指導者」の苦渋も、今、ようやく一条の光明を捜し当てた思いがしている。

るを得ない。パンフレットには「方言指導」の名前はなく、方言をドラマの芸術的要素としてキチンと位置付けて取り組んだとは思えなかった。…と、日頃よく見聞する光景が浮かんで来た。舞台稽古やロケ、あるいはスタジオで、方言を担当するスタッフなしに、俳優がてんでに方言を使って稽古している。行ったことのない土地のことばを、時には生まれて初めて使う方言を、急場しのぎの怪しげな言い回しで悪戦苦闘している俳優もいる。

…その日の舞台の俳優もきつとそうした毎日だったに違いない。俳優が熱っぽく演じれば演じるほど、その台詞の方言を日常語としての観客には白々しく響いてしまう。私の隣の観客もきつとそんな思いで舞台の台詞を聞いていたに違いない。私はドラマの方言指導を担当する演劇人として「ちゃんと方言指導を就ければ良いのに」と口惜しさと腹立たしさを噛み締めざるを得なかった。

日俳優（協同組合日本俳優連合）でドラマの芸術性を高め、同時にそれをドラマという集団創造の一機能として確立するために、専門部署「方言指導」の確立をめざす取組みが始められたからである。

ドラマの台詞の重要性は、改めてここで繰返すまでもない。とりわけて台詞に命を吹き込むともいえる方言は、ドラマの世界だけではなく、日本の文化遺産としての評価に一段とつよくスポットが当てられている。

方言は戦後、テレビの普及、社会構造の激変のなかで各地で急激に消滅しはじめその継承、発掘が関係者の中で危惧されてきた。

方言の継承はこれまで、さまざまな伝統芸能、文学などを中心に行われてきたが、最近では再評価の気運とともにいろいろな新しい動きが進んでいる。例えば、村おこし運動の柱にしたり、国語教育の中での見直しを検討されたり、あるいは外国人の日本語教育の面

からの動きもある。映像や演劇も継承ということでは、作品づくりという面でその一端を担ってきたが、必ずしも十分だったとは言えないと思う。特に最近のように観客との接点を飛躍的に広げている状況の中では、方言文化の継承に果たす役割が大変重要になってきているように思う。

こうした方言の継承の問題とは別に、ドラマの中の方言が、その芸術性を深め、高める機能として見直さなければならぬと言う努力は、芸能界の底辺で長いこと続けられてきた。しかし残念なことにドラマの中の方言は台詞としての重要さは評価されながらも、方言自体の適切な使い方は、ごく一部の脚本、や演出家、俳優の間でしか取り組まれてこなかった。

そのために「方言指導」が、映画やテレビ・ドラマ、演劇という「集団創作」を担う「機能」として位置づけられず、実際の創造の場では、便宜的にその地方出身の俳優に方言指導のしごとが振当てられるという状態だった。従って職種としての責任を果たす保障はあたらねらず、スタッフとして処遇されることもなかった。だから実際には方言指導を担当する人、個人の努力と奉仕という形で辛うじて

機能してきたのが実情で、そうした人々の情熱と忍耐に負うところが大きかったのである。

日俳優での取組も目的からみれば未だ端緒に就いたばかりの段階なので、「方言指導」が集団創作の構成部門として機能していくには、多くの課題がある、その解決には私達方言指導者の主体的な努力が中心になるのは当然だが、制作、演出、俳優その他のパートや観客の理解と、協力が必要である。その為に方言指導者の実情を是非知って載きたい。

そこで日俳優での、方言指導者の懇談会の報告から、その二・三の事例と、これからどのようにしようとしているのか「日俳優の取組み」をご紹介します。

〔方言指導の実情から〕

ある著名な劇団から方言指導を依頼されたAさんの場合。

打ち合わせの時、稽古に立会わせて欲しいと申し入れていたにも関わらず、俳優が方言を稽古するためのテープを作成し、手渡した後は、何の音沙汰もなかった。

幕が上がる初日に招かれたので行ったところ、パンフレットには方言指導者として

Aさんの氏名がスタッフ欄に載っていたが、舞台ではテープを渡したはずの俳優は一言も方言を使っていなかった。

Bさんの場合

あるテレビ・ドラマに参加した時、本読みの場でスタッフとして紹介されなかった。

そのためリハ・サルがはじまって大勢のスタッフ、キャストの中で位置が曖昧なために仕事がやり難くかった。例えばスタジオの中ではさまざまなスタッフが仕事をしているが、それぞれが他のパートの邪魔にならないようにしかも担当する仕事がいまい位置に陣取っている。Bさんは方言指導を行うために適切な場所をと捜したが居場所がなく本場に困った。

Cさんの場合

ある著名な出演者に一生懸命方言を指導していたがなかなかうまく使えない。その俳優が「もういいよ、この役は本当は東京出身ということにすればいいんだから…」ということになり、これを聞いたディレクター氏も「そうですね、じゃーそういうことにしましょう。」

これなどは方言について云々の問題ではなくそれ以前の根本的なところに問題がある。本来ドラマの芸術的要素である「方言」に対する粗雑で不見識な評価、それと表裏の関係にある方言指導者への不当対応など、憤懣やる方ない声が見聞談会には沢山寄せられた。そしてドラマを見た視聴者からは「劇中の方言があまりお粗末だ!」「がっかりしてしまっただ」などのお叱りの投書や声がしばしば寄せられている。そうした視聴者の声は、若者ぶりに言わせて貰えば「決してはんばではない」その一つをご紹介します。

△TV・ドラマを見て▽

「故郷から遠い地に嫁いできた私にとって、ドラマに求めているのは、故郷の風景でもなければ、食べ物でもなく『ことば』だったのです。ギクシヤクとした俳優の言葉遣いには幻滅。地方を舞台にした時は、セリフも地方色ゆたかにしてほしい」

反対にこう言う投書も寄せられている。

△映画「息子」を見て▽

「…方言には日本の古くからの美しい言葉があると思った。重厚な演技を見せる俳優さ

んの巧みな方言を聞きながら方言がカタカナ語と同じくらい、生活に溶け込めばいいなと思った。また観客の婦人はこう話していた。「えかったねえ。これがほんまの映画ちゅうもんじゃいうて、心底おもうたいね」と。視聴者はドラマの方言に真面目な、芸術的な感動を期待している。この一事からも方言のもつ重要さと、それに携わる「方言指導」の仕事の重要性は明確である。

懇談会では、方言指導者の処遇問題の一つとして、報酬の問題もあげられている。

Dさんの場合

仕事の依頼があった時、契約をキチンと取り交わさずに仕事に入ってしまった。経験的に低額だとは予想していたが、製作会社の善意に期待する気持ちがあったという。ところが後で手にしたギャラが余りにも少ないのに愕然とした。(五ヶ月拘束されて、なんと二五万円!)

こうした処遇の改善とともに、方言指導者自身の力量を高めていく課題もいろいろ検討されている。

へモスクワ・レポート 13

ロシア観劇、ありのまま

桜井郁子

この原稿を書いている今、またロシアのERTVイン対人民代議員大会の衝突がニュースになっている。昨年末の旅立ち前も、その種の争いで騒然としていた。今回そんな中でロシア観劇旅行について少し書きたい。ロシアの日常生活の困難と、舞台成果が必ずしもバラレルではない。初めての人も、ポリショイ劇場の眼も奪われるきらびやかさと、料理が日本人の口に合わぬ事の矛盾を言う。私の場合はどうか。

今回は経済学者先生方の一行に加えて頂いた。一人旅には、さすが少々危惧を感じたからだ。始めての大学宿舍や未知のホテルだったが、治安の面でも食事の面でも案ずる程の事は起こらなかった。

ただ観劇となると夕食が問題。グループの夕食は七時に始まるが、芝居も七時に始まる。レストランは六時にしか開かないし、それは

劇場へ出かける時間。今劇場のビュッフェはサンドイッチもないことが多く、閉店もよくある。観劇後の食事は尚更困難。そこで冷蔵庫に買置きをするか、日本から持参のレトルト食品でやりくりをする他ない。

交通機関。バスやトロリーバスは間遠になっ

ている(修理が間に合わぬという噂)、地下鉄から遠い劇場も多い。そこでタクシーを拾う。これがほとんど白タク、行先を告げ、ループリ払いと宣言する。扉を閉めて去る車の多いのは覚悟している。ただ今回は、為替レート低落で、外国人の我々には有利、少々高めに告げると乗せてくれる。何しろ一ドルが四〇〇〜四五〇ループリ(現在は七〇〇ループリ)、日本円にして三ループリが一円だから、

ロシア人が驚ろく千ループリも何の事はないのだ。毎回タクシーで往復の贅沢は、今回始めての経験だった。

例えば、方言指導者は自分が担当する方言について、経験だけでなく、体系的な把握や理論的な理解を深める努力が必要である。さらに自分が受け持っている方言の研究だけでなく、指導をうける俳優の母語(生れ、育った土地で身につけた言葉)についても、理解し、実際に聞き分ける能力を持たなければならぬ。それは俳優が覚えなくてはならない方言をうまく使いこなせるようにするための技術として必要だからだ。

またこれまで蓄積してきた方言指導のノウハウをどうやって後継者に引き渡していくかなど、専門職として確立していくためにやらねばならないことは沢山ある。

そこで日俳連では「方言指導の正当な位置づけのために」というアピールを出し、この運動をすすめてゆく上で実際に方言指導にたずさわっている人たちに「方言指導懇談会」へ結果するように呼びかけた。

ドラマ製作にたずさわる皆さん方のご理解、御協力をおねがいます。

切符の入手はどうか。一般的事情について語る資格はあまりない。今回だけでなくこれまで、長年築いて来た友人たちとのつきあいやコネなくして入手は不可能だった。第一演劇情報は殆んどなく、あちらの人達も人伝に頼っている。劇場の売出しは一カ月前、当日売りはほとんど見込みなく、町のキオスクに見つかると限らない。そこで評判の演目には相変らずの風景が現出する。ロシア語会話の教科書にある常套句「余りの切符ありませんか」を連発しながら、開幕前の劇場に群がる人びとである。今回も同じ、演劇好きのロシアはやっぱり健在だと思った。

こんどの旅でも私は友人たちの世話になった。知り合いの劇場や知人には日本から電報を打って頼んでおく(KDDの電報代の高いこと)。年末年初の旅は不便(祭日、家族デーで連絡をとれない)もあるが、利点もある、たいの劇場は旅公演から戻り、自信作や初演を見せてくれる。長年海外にいた友人(作家や俳優)も自宅に戻っているからだ。

ホテルブルグのマールイ・ドラマは開幕した日に行き会えたし、長く海外にいた作家ガリーンや、俳優ユルスキにも会えた。

個々の舞台を語る前に急いで言っておこう。

ロシアの演劇は苦しい状況の中でも、演技水準は落ちていない、おもしろい。レパートリーに現代ロシアの作品が少いのは残念だが、古典や様々な外国作品、舞台表現への多様な取り組みを見る楽しみがある。

ユーゴ・ザパド劇場のシェークスピア作「ロミオとジュリエット」と「ジャジャ馬馴らし」初演は力作だった。小さな黒い舞台空間に、大道具は簡単なアーチとパイプの柱だけ。テンポとリズムのある集団行動、音楽、音響、照明が一体となった自在な転換にも、ベリヤコーヴィッチ演出の冴えを見る。「ジャジャ馬馴らし」のカテリーナ役に、この劇場では待望久しい大型女優の誕生を見た。

モスクワ芸術座も初演が二つ。グリボエードフ作「知恵の悲しみ」では主人公チャーツキイ役俳優が好演を見せたが、全体には焦点の定まらぬ舞台運びに退屈。バルツ作「あり得る出会い」は座長エフレイモフがモスクワ・ノフスキイとからみあう演技の競演が見ものだった。パツハとヘンデル、同じ一六八五年生れの二人の音楽家が、歴史的には嘘だが、もしも出会ったとすればという物語。華やかな世界を知らない控え目なパツハが、派手で傲慢なヘンデルの内心の孤独を見透して、次

第に優勢になっていく過程が、舞台上の豪華な（まるでロシアの現在と裏腹な）夕食の中心で進行。二台のクラブサンによる音楽の競演も聞かせてくれる。

豪華なキャストと言えばハレポート10Vに書いたゴゴリ作「賭博師21」亡きエフスチグネーエフの代りを演出のユルスキイ自身が演じる。モスクワ芸術座の人気俳優カリヤギンとネヴィンヌイ、タガンカ劇場のフィラトフ、お客は彼等の登場に大喜びで拍手を送る。多彩な配役が、ゴゴリの黒い笑いを現代風に味つけした演出に、華を添える。お上の援助を期待しない私企業劇団という、新しい形の劇場の成功例だ。

ハレポート11Vに書いたヴィクチュク演出の「女中たち」エキセントリックな舞台表現だが、異次元の世界。むしろフィナーレの激しいダンスシーンに、私は男たちの色気を感じた。

タガンカ劇場、リュビエモフ演出の「エレクトラ」確かにソフォクレスの物語だが、登場人物に生きた人間を感じられない、無機物的な雰囲気だ。

この二つとは対照的に、ペテルブルグの三つの初演はそれぞれ人間臭さを漂わせていた。

正直に言うなら、老優と若い劇団の完全な融合にはいまだ少し時間が要ると感じたが、初演

の夜のパーティーで聞いた老優の発言は、そんな危惧をふっとばしてしまった。

「私は五〇年間舞台に立って来たが、これでもいいかと感じるようになり、学び直すために来た……大きい鐘は時として鳴らない（桜井注）ークレムリンの八鐘の王様Vはその例が、小さな鐘はいつもいい響きを聞かせるから」と彼は言ったのだ。

マイルイ・ドラマもこの老優と共に新しい一歩を踏み出した事に間違いない。経済困難な現在、各劇場は経営に腐心している。スポンサーを見つけれ、劇場の一隅に店を設ける、地方公演に出かける等々。マイルイの場合は海外の評価も高く、海外公演が多い。九一年秋はドストエフスキイ作「悪霊」九時間の公演をドイツで開けたと、ジュネーブから手紙を買った。九二年十一月には定番の「兄弟姉妹」や「悪霊」をヨーロッパに招待されたとの手紙を、デュッセルドルフから買った。春にはロンドンの注文で現代作家作品を脚色した「ガウデアムス」新兵の生活を扱っているが、ダンスと歌とマイムでわかり易くした19景とか。イギリス、フランスで長期公演。

今回の訪問が楽しみだ。

話は変わるが、昨今ロシアはチェーホフ流行り。九二年一〇月モスクワで「チェーホフ国際演劇祭」が開催されたが、これにとどまらな

い。方々でチェーホフ劇上演の準備がされていると、今日届いた新聞も報じている。ドージンもマイルイで「桜の園」、演劇大学で「プラトノフ」を準備中と言った。まだまだロシア訪問の楽しみは尽きそうにない。

(一九九三、三、二八)



「楡の木蔭の欲望」舞台より
(マイルイ・ドラマ劇場)

フォンタンカ青年劇場のオストロフスキイ作「雷雨」十九世紀の物語だが、黄昏村はずれに集う青年たちの群像など、ぐっと身近に迫る舞台づくりだ。ここは客席が舞台を見下ろして扇形に広がるのがいい。ただ家父長制象徴のはずのカパニーハが、悩める姑に見えるのに驚いた。

ポリショイ・ドラマとマイルイ・ドラマの二つが九二年末、同じオニール作「楡の木蔭の欲望」初演の幕を開けた。ポリショイは写実的な舞台装置で、一幕カットの二時間上演。マイルイは岩だらけの荒野をかたどるいっばいの裸か舞台で、全幕四時間、その暗いパツクに不気味な円盤が、時には夕陽、時には悪魔の影にも似て、上下に移動する。

マイルイ・ドラマ初演の日が興奮に包まれたのは、他ならぬポリショイ・ドラマの人間国宝ともいえるベキレーベジェフが、マイルイ・ドラマの舞台に上ったためである。ロシアで、二の実力を争うドージンと、故演出家トフストノゴフの片腕だった老優とのドッキングは、わくわくする事件だ。レーベジェフの演技指導は定評があり、若い劇団には刺激になるのに疑いはない。この舞台の若い男女優二人の演技には目を見張らせるものがあつた。

関西芸術座スタジオ公演 Vol. 24 『ナツヤスミ語辞典』

阿部好一

関西芸術座のファンにとっては、劇団稽古場の小さな空間で行われるスタジオ公演が本公演に劣らず強い印象を残しているはずだ。私にとっても、近年試みられた中村吉蔵「剃刀」鈴木泉三郎「生きている小平次」真船豊「遁走譜」などの近代劇シリーズや中堅・若手による小劇場演劇と呼ばれるいくつかの舞台がいまも記憶にあざやかである。

もっとも、私のように年をとってくと、前記の吉蔵、泉三郎、真船らのほか谷崎潤一郎ら近代劇の作者のほうがそれぞれに強烈な個性と主張で壮烈に張り合っているように見えてくる。それに比べると最近の若い劇作家たちの作品はスタイルのうえで互いに似通っていて、見終わった直後は新鮮な感じがし面白くもあるのだが、いつまでも覚えていていいうほどの強い感銘は正直なところまだ受けていない。まあこれは私の年令や感性の問題

であるかも知れないから、聞き過ぎしてもらいたいと思うが。

そんな中で今度の『ナツヤスミ語辞典』（作・成井豊、演出・松本昇三。二月二十四日）は、いわゆる小劇場演劇系の作品だが、いつまでも記憶に残りそうな予感がする。感動とまで言うとうソになりそうだが、ああ、いい舞台にめぐりあったな、という喜びがあった。自分にとって未知の感性に出会った喜びと言おうか。正直、はじめはいくらか戸惑いがあったのは事実だが、見終わったあとは実にはすがすがしかった。

元小学校教員でいまはタレント志望の青年（白川明彦）がいる。やっと思つたと思つたらロケで怪我をして休業中。もとの教員にまどろつかと思索している。そこへ今は中学生になった教え子ヤンマ（山川弘子）カブト（勝見みち代）たちから手紙が来る。国語の

宿題で「先生に手紙を書け」と言われたので書いてきたというわけ。その手紙の内容が劇の内容を形作る。それがまた二つの話から出てくる。

まず、ヤンマは水泳の授業の前夜プールの水を抜いておいて授業をサボろうとする。体育の先生（小松健悦）と生徒たちとのにぎやかなやりとり。このへんは少々バターンくさい。ヤンマは何度言われてもプールの水を抜く。先生に「みんなガマンして泳いでいるんだ」と言われたヤンマの「私もたくさんガマンしてる。授業、制服、校則……。でも、泳ぐのだけはガマン出来ない」という自己主張。もう一つの話は学校に幽霊が出るという噂からはじまる。（余談ながら、最近某大新聞の学芸面に国立民族学博物館教授だったかが、各地の中学校に伝わる怪談話を校名入りで書いていて、これは生徒たちの管理教育に対する無意識の違和・反発の現れではないかと言っていた。怪談話を子供たましと一笑に付することはできないらしい）その幽霊は十五年前事故で死んだカブトの父ウラシマ（田口アツシ）とその友人のナナコ（鴻池央子）。ウラシマは妻（神字知薫）に贈る時計をナナコに選んでもらっている時に交通事故で死んだの

だが、ナナコとは何でもなかったと妻に事情を釈明するため天国からこの世に現れたわけ。最後は妻に釈明し、一同に見送られて銀河鉄道で天へ去る。この第二の話はモルナール「リリウム」を連想させるし、宮沢賢治や井上ひさし「イーハトーボの劇列車」がヒントになっているそうでもある。

劇のキーワードはまず「夏休み」だ、人生における夢と希望の季節。人間、前途に希望を見出していつまでも夏休みを生きよう。もう一つは登場人物ウラシマにひっかけた「玉手箱」という言葉。浦島太郎は玉手箱を開けることで再び乙姫と会う可能性を自ら閉ざした。「玉手箱」を開けることは、自分で自分の可能性を閉ざすことを意味している。太宰治「お伽草子」を思わせるが、お伽話を現代ふう解釈してみるセンスは悪くない。以上二つの話が作劇上うまく一つに溶け合っている。現実と幻想の精妙な混合。最後に少女達の手紙を読み終わったタレント志望の青年は挫折を乗り越えて初志を貫こうと決心する。

演出の松本は「自分も落ち込んでいる時期があった、その時この戯曲を読んで励まされた」と語っていたが、そういう演出者の熱い思いがこもった舞台だった。小さな一つ一つ

の場面をいねいに作っている。それでいて見事なスピードで飽きさせないし、暗転や照明の変化などの呼吸もいい。欲を言えば、ウラシマと妻と女友達を合わせる場面に情感がもう一段欲しい気がする。大詰め、銀河鉄道が発車する場面では客席後部にスピーカーを埋めこみ、空気を震わせる大音響の効果が客席天井いっぱい豆電球で星空をうつし出し、幻想的とまでは言えぬにしろ、劇の締めくくりとしては大いに盛り上がった。教室の机や椅子を背後に積み上げただけの装置も気がきいていた。

スピード重視の展開だけに、出演者は登場・退場ともに身をひるがえすようにして駆け入り駆け去る。セリフもいきおい絶叫調だ。それはこの芝居の場合一つの行き方であって悪いとは言えないが、声質によっては無理な発声になっていて人が二、三耳についたし、少し単調になりがち。

演技では山川弘子。弓の弦をぎりぎりいっばいに引きしほったような演技で、その点では他の出演者も同じなのだが、セリフ・動きが一段と粒立っていた。さらに神字知薫。こちらは夫の死に疑念をふっ切れない心の陰影が演技ににじみ出た。それとヤンマの母親役・

谷広子の安定感。新人・大西みのりがキャラクターの面白さで見せた。

実はこの芝居の前後に、いわゆる小劇場演劇の舞台を連続で見ていたので、新劇系の関西芸術座が演じる小劇場演劇に多少危惧に似た気持ちも持っていたのだが、結果的には関芸のほうが面白かった。簡単には言えないことだが、小劇場演劇も役者のキャラクターの面白さだけで見せる時期はとくくの昔に終わっている。役者としての基礎的訓練や経験の積み重ねが物を言う時代になっているのではないかと、新劇系の古い劇団である関芸の、新しい舞台を見てそんな気がした。と同時に、新劇側も小劇場側も互いに心を開き、同じライオンに立って協力するなり、競争するなりすべきではないのか、という気がした。



劇評 ■ 劇団大阪公演

岡部耕大・作 『亜也子』
熊本一・演出

——平成の日本見えたか——(評のつもりで……)

栗田尚右

劇団大阪が劇団創立二〇周年企画の最後を「母の桜は散らない桜」と副題が付された作品で締めくくった。昭和の大戦争の戦中戦後をたくましく、したたかに生きた一人の女、亜也子を軸に、時代に翻弄される名も無き人々の八生Vを描いて、三時間半、興味溢れる舞台である。

パンフレットで小松徹氏が劇団大阪のこのところの舞台について、「……むらが多過ぎるように思う……。」と公演毎の舞台の出来の差は勿論、一つの舞台の中のむら、更に「同一人物の中でさえ演技のむらが生じる」と、期待するが故の苦言を提しているが、氏の思いにうなずきながらも、これがアマチュアを標榜する劇団の舞台であることに、やはり驚く、

どっしりとした旧家の床の間のある座敷。座敷をめぐる廊下。庭には時代ものの井形の釣瓶井戸。そしてこの劇を象徴する千年桜と呼ばれる巨大な桜の古木一本。実にいいねいな造りでリアルに建てこまれて、旧家の歴史を滲ませ劇の世界をかもし出している。しかも劇団員による手づくりの装置である。劇団大阪の劇へのひたむきな姿勢と力をつくづく思う。

序幕一場。トランベットの澄明で抒情的な曲の響きの中に、飛行服に身を固め、ベットの奏でる兵士が浮び上ってくる。想いも深く響く「桜のテーマ」——劇のテーマ曲である。そしてつんざく戦闘機の爆音。劇を予感させる開幕だ。

第一幕第二場、日米開戦一ヶ月後の昭和七年一月八日。肥前(長崎県)松浦の旧家、北浦家。息子清三郎の婚礼の夜。遠く軍歌が

聞え、座敷では職業軍人に嫁している長女の娘・朋子(釈迦堂祐子)が弾く琴の音が流れている。横に暗着姿で正座する初老の操(和田幸子)。羽織袴の当主・大膳(杉本進)は、まだ来ぬ嫁にそわそわと落着かない。日本軍のマニラ占領を報じるラジオ。……嫁・亜也子はまだ姿を見せない。

士族の家の出で、女子師範出の操には、郷土にすぎぬ北浦の家、無力な夫・大膳、「亜也子ちゃん、亜也子ちゃん」と桜の木に登り子供の様に待ちわびる清三郎(神津晴朗)、どれもが情けなく我慢がならない。奥からは婚礼の客達のはばかりのいなざわめきが聞えて——町会長の名代で来る極道をうそぶく萬屋の徳という男(清原正次)。自分の立場を存分に利用する役場の兵事係・桜井(福井晴成)。時世に迎合する神主・羽黒(斉藤誠)。

戦勝祝賀に湧く夜のざわめきを背景に、強かて開けつるげな自分本位に生きる人々が絡み合い、劇の世界が——北浦の家(それは日本の八家Vでもある。)が、時代、他所者を排斥する松浦の偏狭さ(これも日本だ。)、そして古い日本の女が浮きぼりにされていく。そこには「銃後」という国家の非常時をきらい事できている人間の姿は何処にも無い。

そして幕切れ近く、白無垢の亜也子(夏原幸子)が北浦の庭に音もなくスッと立つ。誰を見ることもなく立つ亜也子が眩しい。そこに亜也子の意志が見える。当然の様に座敷の上座にどっしりと座る亜也子。「……あつ、家にあがつた……」「あつ……座った……、……こりまで……か」亜也子の動きを追う操の無念さが凄まじくも可笑しい。八家Vをはきんで女の戦いは既に始まっている。そんな女の想いを他所に、婚礼の座に召集令状が清三郎に来る。

巧みな場面展開だ。一時間を超すこの場は単に劇の背景を見せる導入部としてすまされる場ではない。この場をどう板にのせるか、骨に肉をつけるか——が、その劇との勝負であった筈だ。「四谷怪談」の第一幕を思わせる場だ。二幕の髪すきの場は勿論だが、一幕によって伊右衛門の悪が立ち上る。一幕がなければ何の変哲もない仕掛と趣向だけの怪談ものでしかない。「亜也子」もそうではなからうか。亜也子は仲々登場しない。二幕一場も同様だ。だが、場を展開していく人々によって亜也子は観る者の中に実像化されていく。劇の世界が丸ごと投げ出される第一幕。あとは劇の趣向だけだ。

卑俗な言葉で男と女の交わりをあけすけに囁ききわどいやり取り。今は死語ではない、銃後、敵性語、大詔奉戴日、戦陣訓など多くの戦中の特殊な言葉。それらは単に時代や劇の風景だけのものではないだろう。こうした硬軟、入り乱れて語られる言葉の表情が、即、その人物そのものにつながらない限り、舞台はふくらんで来ないのではなからうか。

肥前言葉という台詞上の困難があるにせよ、一見、劇のモチーフとは直接関係ないと思える部分、綿密に書き込まれたディテールによってこそ、時代におもねる者、顔をそむける者、呑み込んでしまう者、様々な生き様が立ち上り、劇の世界は成り立っていく。だが、言葉が言葉だけでしかない舞台は流れていき、風景にすぎなくなっていく。例えば操の力で押すだけの在り方は一本調子で、心理のヒダの陰影が見えない。卑猥なやりとりで自分ものばかりながらハッと気付く、「……いや、どうじゃ、ぼつと顔の赤うなる……」何回も出てくる言葉が、言葉にならない。自分を取り繕ろう可笑しさが出てこそ、矛盾を内に持つ操の八美Vが見え、リアリティを持つ。まるで取ってつけた様な言葉でしかないその事が、ただの気位の高い偏狭な、きつい姑へ一般V

にしてしまう。操一人だけの問題ではない。この作品が発表されて二ヶ月後、半世紀をはるかに超えて長い昭和が終わった。それは通常の歴史時間の数百年分にも匹敵する程の激動と変化の時代だった。とりわけ昭和二〇年八月一日、有史以来初めての「敗戦」を挟んでの前後数年間は、驚愕と混乱と不安の時代だった。戯曲「亜也子」はその大東亜戦争(太平洋戦争)突入直後から、昭和二年・元日の朝に亘る四年間を追っていく。そしてこの作品を読んでまず思ったのは、商業演劇といわれる舞台、例えば東宝芸術座(劇場名)の舞台を飾る芸達者な役者の人達で上演すれば、その意にはそぐわぬとしても、人間を描いてこくのある上質の風俗劇として、魅力ある舞台になるだろうと云う思いだった。

昭和二〇年八月一日。真夏の陽が痛い真昼。戦争は大詰をむかえ、男手のない北浦の家を支えて、今日を生きたるためにあらゆる手段を使う亜也子。そして亜也子に云い寄る男達。洗濯物の亜也子の赤い腰巻に顔を埋める老いた大膳。そんな不甲斐ない夫をのしる操も亜也子の才覚にすがるしかない。……敗戦の詔勅が流れる中で、亜也子は納屋で汗にまみれて萬屋の徳と絡み合っている。

国家としての天皇に對峙する庶民の見事な批評だ。だが、事を終えた夏原幸子の亜也子は、宴のあとの気だるさをみせて美しく、ただ、女をみせるだけで終ってしまう。

「女ではなく母になると心に桜の咲くとぞ。

……誰にも観せん桜のな、母っっちゃう桜のな……

……そんな桜は散らんとよ。母の桜は散らんとよ。」我が子を抱きながらの亜也子の言葉だけが鮮やかに残っていく。

そして二〇年一月八日、木枯し吹きすさぶ冬。敗戦後の飢餓状況の中で、佐世保に占領軍兵士相手のホステスに出て家を支えている亜也子。姑・操との力関係は今や逆転している。その亜也子の前にかつて愛し合った三浦（上田啓輔）が生きて帰ってくる。忍んで来た三浦を凝視し、兩戸をビシヤリと閉める亜也子の断念と拒否。そこに「今」を厳然と生き抜く女が浮び上る。観る者をゾクッとさせる程に決まりすぎるシーンだ。だが何故、三浦を自から断ち切り、北浦の家に嫁いだのか、その亜也子が、三浦がベットを奏く一幕一場とつないでも、舞台からは解らない。

二幕二場。今は完全に家を差配している亜也子。大晦日の餅つき庭に戦死したはずの夫・清三郎が帰って来た。終幕、明けて二一

ない。「家」をあらわす筈の大膳も、飄々とした風貌で風になびくだけの能なしの男とするには、人物像が不明確だ。ベテラン杉本の自分に逆らわれない軽やかな巧みに笑いなながらも、表に書かれた面白さだけで終ったことの責は大きい。こうした脇の在り様が、役の人物への肌感覚の稀薄さ、理解と表現（役づくり）の実際とのズレ、戦中戦後への実感の無さ等がもたらした結果であるにしろ、舞台のリアリティとインパクトを弱め、表層的な舞台にしたのではなからうか。奇をてらうことのない作品だ。ディテールの重要性を改めて思い起させる舞台だ。

年元旦。昭和の天皇が人間宣言をしたその朝。清三郎を床の間を背に、中央の座に座らせる亜也子。世代は替り、北浦の家にも新しい時代が始まっていく。食指をそそる、美味しい作品だ。

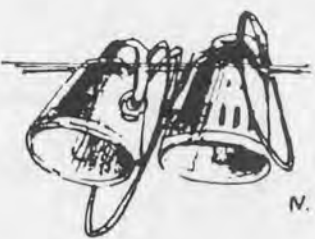
「青年座」による舞台がついに先年、一般公演ではないにしろ京阪神の労演例会にかけられて、まだ記憶に新しい作品を、敢えて平成の今、上演するには劇団としての深い思いが在ったに違いない。舞台への期待も、その上演の意味と併せて、長丁場の舞台をどう観せてくれるかそこにあつた。だが舞台は表面的で、一面的にとらえられ、戯曲の巧みに押し切られてしまった感がぬぐえない。各々の人物が結果的には、その形象化に於いてタイプとして捉えられ過ぎていたのではあるまいか。それは各人物ごとではなく、各場に於ける各人の行動と変化のあり方にも、その嫌いがあつたのではあるまいか、例えば、萬屋の徳のたたづまい。世をすねた人間の斜に構えた立ち居振舞い。傲慢さをわざとへり下り、冗談めかす様な語り口などに、やくざ映画や商業演劇に見る極道のタイプがWってくる役の立て方。時代におもねる羽黒の戦中と戦後の、劇画化されたともとれる変化の在

り方。やや大仰で軽薄な感じのもの云いなど、上滑りで逆に八実Vを欠いていく。房（小笹山光子）の自由のない貧しい小作人の妻から、戦後の成金趣味丸出しのきんぎらきんへをいよよ変貌も、ただあざとさだけが目立ってしまう。朋子の早熟さと、パングリッシュをまくし立てるケバケバしさは、大膳と共に、崩れゆく旧家の象徴的存在だとしても、五〇年前の娘の匂いが無さすぎ、現代的感觉というには滑稽すぎる。

そして姑・操にも同様の危なさを見てしまふ。確かに一幕での力だけの一本調子は、亜也子との力関係が逆転した二幕ではない。だが、亜也子におもねる卑屈さへの変化は、解り易さと併せて、操自体の存在を整合化し、説明に転化する危険性をはらんではいる。没落感と帰らぬ清三郎への思いだけに生きる操の「現実主義」が、亜也子へのへつらいであり、知恵であるはずだ。今になり亜也子を入籍し、清三郎の戦友を名のる男・大山を露骨に押しつけるそのしたたかな狭さ。そして人目の無い隙に赤ん坊に自分の乳房をふくませる操の八実V。こうした重要な肉の部分内包させての操が立って来ない。そしてへつらいは、操のへつらいではなく、へつらい一般でしか

ただらうか。亜也子の生き様に共感しながらも、その亜也子を描いて、劇に何を観せるのか。その生き様を、今、どう位置づけたいか。そのことではなからうか。

かつて、散ることをいさぎよしと強制された大和心に結びつけられた桜も、今は我々には春の花でしかない。「どう枯るか、じつと観ときましようだい」と幕をおろした亜也子は、千年桜を、日本をどんな思いで見つづけて来たのだらうか――。



92 大阪新劇フェスティバルの4劇団

今泉 おさむ

九二年「大阪新劇フェスティバル」は一七劇団がそろった。私はそれをすべて見せてもらったが、演目の多彩さに比べ、実際の舞台では面白さよりも、ただ雑多な舞台が……といった印象のほうが強かった。

コーロ「西遊記狂想曲」

在日中国の若手演出家郭小男氏による作・演出の舞台。昨年度の佳作「私が私と出合う時」から期待して観たのだが……。

何故に今「西遊記」。いや、現在を生きる△孫悟空△だからこそ。ということ、三蔵一行が天竺への途上で立ちほだかる妖怪が、実はすべて神仏一派であった。すなわち、現代は神鬼妖魔はうらおもて。そして、孫悟空は一つ妖怪を退治することに、頭に枷を増やされていく。ここまでは新解釈としていいだろう。だが、これですべては言い尽くされ、

肝心の舞台上からの発見がとぼしい。

だから、舞台表現がただの「西遊記」のエピソードの羅列から抜け出し得ていない。場が終わりに、次に進むつなぎに工夫が感じられず、ほとんど同じパターンでの暗転ブリッジである。その積み重ねのしんどさは何かと言えば、ユーモアのセンスのなさであろう。だから真面目に真面目に突き進んでいくだけで、面白みを生み出す余裕がない。新解釈なれば原本にどう味付けをしたのか。それが対比的にこなれていなければ苦しさだけが残る。

これが極めて直線的なのである。それにも増して、孫悟空(岡崎暁)と三蔵(内藤謙一)に魅力がない、沈んでいる。このキャラクターが生かされて初めて舞台上に活気が生み出されようが、そこが出来ていない。思うに、ただ役を真摯に演じて、台本の構成でどう見せればいいのか理解されていないと、舞台は無味乾燥になってしまう。これは、ほとんど演

出の分野であろうが、そこが演技者に伝わっていないのではなからうか。

その上に、会場の音響にもよるだろうが、シンセサイザーが大きいだけで耳障りになっている。とともに台詞が叫ぶだけで意味を伝えている。声は大きく出せばそれだけ演技者の技量の未熟さが露呈されてしまう。これも舞台づくりの計算にある程度入れるべきではないのか。とまで思ってしまう。

(九・五・近鉄小劇場)

人形劇団クラルテ「丹州千年狐」

潤色・演出・吉田清治。古浄瑠璃に近い、近松初期の作品とか。「日本の古典人形芝居シリーズ」も一四となって、最近は興味ある作品を見せてくれる。

武家ものというか、人間の心理の葛藤を描こうとしているのであろうが、それにしても△おもだか姫△と△呉服の中將△と△手車親王△との関連が要領を得ない。しかも、終幕がどちらともつかず、これでは何のための筋立てかが分かりにくい。

△千年狐△にしても、後の「義経千本桜」

に影響を与えるのであろうが、この舞台のままでは、妻の皮天鼓くらい自分で持ち去ることが出来るはずで、しかも、置いた寺に、守りに来た選ばれた屈強の狐たちが、多愛もなくやられてしまうとなると設定が不可解。

原作をどのように脚色したのかが分からないが、舞台の前半と後半が、△おもだか姫△をめぐる物語と、△千年狐△の天鼓の物語に主体が別れ、しかも、ラストで融合しきれていないので、何をポイントに上演したのかをもっとはつきりさせる必要がある。

舞台美術はそれぞれの場を、人形を生かすように、簡略に綺麗にまとめられて、場ごとの情景をうまく表現している。人形もいつもよりは素直な顔をしているので、観客の想像力を膨らますのに役だっている。

ただ、台詞回しなども平板で、感情を深

演出・田中実。老人問題と自衛隊海外派兵を鋭く風刺したジュームス三木氏の喜劇に挑戦した。風刺喜劇はまず、観客をどう乗せて笑いをとるかといったことが舞台の出来いかんの勝負になってくる。ここで、役者が演技を楽しむ余裕の気持ちがあって、初めて作者の意図が鮮明に浮かび上がってくる。その点を意識しているのはよく分かるのだが、まだどうしても真面目さが先だあって、固さとてらいが見える。ペリイ・スペシャル・オールド・パワーをドンと前面に出し、押し切ってしまうわいと、もたついてしまう。

まず、小坂(梨田かずお)と若林(大坪さとみ)によるプロローグによる説明で、風刺の社会に入り込ませて、直オールド・パワーグループの出現となるのだが、そこでのパワーアップが足りない。そのためには、演技の柔軟さが求められるのだが、そこにまだ演技者よってのアンバランスがある。そのため観客は現実に戻ってしまう。それでも、一幕はなんとか踏みとどまっている。

ところが何と、二幕に入ると悲劇路線に突

きづがわ「突然の明日」

小熊人志・作、潤色・演出・林田時夫。

労働者の待遇は改善されつつある。自分の家も車も手に入れ、レジャー産業は花ざかりである。という雰囲気の中で、進行しつつある労働強化。それに人手不足が輪を掛ける。昨今問題になっている、過労による突然死の

問題を取り上げて、熱のある舞台を作り上げた。これは現実私たちに身近に迫ってきている問題、そして企業側はその因果関係を容易に認めようとはしない。

現実を踏まえての真剣な舞台、それが陥りがちな、ただ叫ぶだけ訴えるだけのドラマ作りではなく、素直に表現することによって事実の重みを伝えている。突然の夫の死に一時は茫然とした愛子(和田雅子)が、次第に目覚め闘っていく姿が、じっくりとした演技でよく表現されている。娘(橋野悦子)・息子(播磨尊文)との家族がよくまとまっているので現実感がある。

それに比べ、仲間たちの描きかたが、まだどうしても典型的になっている。人物の行動が予想できてしまう。会社側となると、それにもまして描き切れていない。点景以上になっていない。こうみると、舞台構成はまだまだ推敲の余地が多いのではないか。装置は上手下手のテラスが真ん中の中心舞台を取り巻いて効果的である。

(十二・四・エルシアター)

この四作品だけでも、非常にバラエティに

富んでいる。これは、現在、それぞれの劇団の中で、これからの方向性を探る葛藤が続いているからかもしれない。とともに、「小劇場派の舞台」に見られるような、役を演じるよりも、役者の個性で受けをとるような演技がもてはやされることによる影響で、演技を簡単に思い込む傾向がやや強く感じられる。演技者が未熟ならば、舞台表現は観客に伝えようがない。という原点に一度立ちかえる必要があるのではないだろうか。

(カット絵・飯島俊一)



△新刊好著▽

板倉ミチ著『人形お七海を渡る』

岡崎演集の浅井克彦氏から贈られた。

題名とカバー表紙絵のきれいなものにひかれて頁をひらいたところ、すっかりとりこまれてしまった。

板倉さんは、昭和58年、「岡崎文化」の戯曲公募で入選。「人形お七光陰譚」として、昭和60年3月演出に八田満穂氏をむかえて、岡崎演劇集団によって上演されたという関係の人である。従ってこの本にはその戯曲もおさめられてある。

しかしばくは、それはともかくとして、板倉さんが、文楽人形のお七にとりつかれて知立市の山車人形の舞台にのせるまでの話をよんで、大変なひともあるものだと、唸ってしまった。そのお七が文楽人形として「世界人形劇フェスティバル」でイタリアに渡った紀行が本文である。浅井さんも同行している。平成四年六月である。おすすめしたい本である。興味をもたれた方は手っとり早く岡崎の演集に話を。(もも)

〒444 岡崎市元欠町三一〇一三(浅井方)

〇五六四一二一〇二六一四

劇評

劇団未来・創立30周年記念公演・No.2

和田葉子作/T・ワイルダー(「わが町」から

92年11月21〜23日 近鉄小劇場

「わが街・大阪——ひがし——」を観て

長谷川伸二

劇団未来三十周年の活動を評価せずにはいられない。又、座付作者である和田さんのこの間に創作上演された作品は約日本にも及んでいる。私にとっては、いい姉貴分といったところで作品もコンスタントに内容的にも秀れたものが多く尊敬している。公演前には台本を載せてもらっていたが、今回は上演前に読めず舞台に接するはめになってしまった。観劇後も読む機会を持てなかった。

公演後3ヶ月経過し記憶が薄れた頃になって劇評を求められ、慌てて演出の森本氏に台本の借用を依頼したところ、自身の上演台本を見せてもらはめになった。手を加えたり消し込んだものである。つまり上演に至るまで、作者や演出が悪戦苦闘された跡がにじみ

出ていた。という上になつたの感想で、どこから言っても劇評といえるものではない。

舞台は、昭和二十年八月十四日から始まる。大阪城東線(環状線)京橋、森之宮駅間に広がる砲兵工廠があり、その東側、中浜、白山、西鴨野町一帯のとある商店街。そこに住む庶民の生活を切りとってきている。大阪の大阪弁による芝居に共感を持った。薬局、書店、理髪店、寺、教師、職工一家などの生き様をたくましく平易に描き出している。作者も、パンフに述べているが「平穩な日常生活で暮らす上へたいが、いくら考えても平穩からほど遠い敗戦前後から一幕はなつてしまった。

八月十四日終戦の一日前、米国の艦上戦闘機、B29爆撃機により工廠は全滅し、京橋駅

も一屯爆弾に破壊され多数の死傷者が出た。

伊賀幸代もその一人であった。薬局の伊賀信吉の長女である。伊賀信一は長男で予科練習生として明日をも知れないなかで終戦を迎えた。信一の生き様を周辺の人達に投射させながら展開していく。

2幕は昭和二十八年に移る。隣り同士の書店、大島幹夫の長女、伸子も終戦後多感な青春時代を送っており、町内の青空の会(団)で信一と親密になる。互に愛し結婚(会費制という新しい形式)する。信一は復員後一時期虚無的になるが、叔父のメッキ工場での労働や青空の会活動を通して人間性を育んでいった。その後、菓子問屋として伸子ともども働き始めたが、伸子は二人の子供を残して過労死する。

3幕は既に死亡した縁者達との対話となつて過去、現在が写し出される。

舞台では、進行役が状況を語り展開を計っていくが、演じられる中味は過激でなく、ごく自然な日常生活を進行で時代を語るには平凡な描写に終始する。激動の社会が背景にありながら表現はごく日常的である。観客の年代に応じた反応しか認識できなかったのではないだろうか。戦争を知らない若者には昔の

物語りとして、どこまで身近に引き寄せられる必然性はないと思う。久しぶりに未来の演劇に触れた思いだった。

(3・20)

どこで、何を掘り下げ受け止めようとしたのか迷ったことではないだろうか。「わが街」が総花的にならない努力が払われていた。が、沈潜している反戦的な思い、人間愛、生命の尊厳という面からの問題意識の提議が絞りきれず多くを語ろうとした様に思えた。私も信一や伸子と全く同時代に育って来たが「わが街」の人達が稀薄な存在に思えた。青空の会の若者達の比重が少く、現在もどう生きているのだろうか不透明である。観客に何を考えさせ、どんな刺激を与えられたのか私自身不確であったが、ゆるやかに心の片隅にのこるところがあった。

30周年記念公演で32名の出演者、OBの参加出演もあり劇団の底力を見せつけられた。出演者個々人の創造や表現に触れなかったが、若い人達も委縮せずに演じていたし、学ぶことが多かっただろう。楽しめた芝居であったが、3幕死者達の場面は、2幕までの延長線とかい離し、現実を掘り下げたものでもよかったのではないかと、ワイルダーの構造にこだわ



ハカット絵・飯島俊一

劇評

東京働くものの演劇祭から

芳地隆介・作「公園物語」(ルクト舎)
山田太一・作「ジャンプ」(麦の会)

を観る

福島重雄

日本人論・社会論が飛び出してくる。

全通全電通に三〇年間、根っこを持ち続けた「ルクト舎」公演。
ピルの谷間の顔の広場、平和なたたずまいの小さな公園。昔は、ここは川であったという。

南の国からやってきた若い女性、それを追いかけるチンピラヤクザ。地球環境汚染が気になるようになっていない青年、妻に先立たれた中年男、所在なげな女性たちの四十年代三十代二十代。そんな人たちが、いつとき、この公園をよぎる、たたずむ。そして、お巡りさんが執拗に公園を巡視する。

南の国の女性をめぐるドラマは展開する。そのドタバタにかこつけて、現代の愛、友情、環境、歴史について、従って必然的に現代

輪をかけたように、舞台表現ではスタッフもアクターもゴッタ煮表出——リアリズムありシュールリアルあり自然主義あり郷愁あり感傷あり同化異化入り乱れての態で観客に飛び込んでくる。各ピースや全体の色調が統一されていないので、おもしろいしばいなのだが目移りして疲れた。

「ジャンプ」

全税関「麦の会」第七二回公演。
結婚生活一〇年目に、愛する妻は夫と別れて夫の幼なじみの親友と一緒にいる。たまりかねて、夫はホテルの一八階の部屋から飛び下り自殺をする——ここまででは、今の日本で、あり得る現実だ。だが、一八階からのこの時の飛び降りには怪我もなく、その夫は着地してしまった。もちろん、死なない、死ねなかった。……これは、奇跡か?——これもまた現実、いや、非現実?

夫をめぐる関係者たち(別れた妻、親友、親友の妻——彼女も必然的に離婚に追いやられた、夫の父親)は、みんな、彼の飛び降り自殺(ジャンプ)を彼の幻想だと思っし、ウ

ソでもそうにしたい。しかし、彼は肯じない。却って、この奇跡を認知しない連中それぞれに反発してゆく。

離婚・家庭崩壊などは、ちいぢな狭い人間関係ではどうにもならない、解決のしようがないのだ。もがけばもがくほど泥沼化し雪隠詰(せっちんづめ)みたいになってしまふ。私たちの最後っ屁に似てハジャンプVが必要なのではないのかしら? ……ハジャンプVを認めるのか、認めないのか? ……ハ不思議Vを信じるのか、信じないのか? ……今様日本人のメーレンおとき話が間違ふやとりー通俗的なく普通のせりふが妙にユーモラスに辛辣に生きている——で、展開される。

ジャンプした夫が必死に自身の奇跡を周囲に説き回ると、観客もなんとなく奇跡の实在感真実感に打たれるかと思うと、他方では、もと妻たちの自己愛を根底にした言動や子ども(夫)を思う父親の立ち居振る舞いにも観客は納得する。つまり、作為・テーマ・作品意図などに観客は強く振り回される、観客はそれがともおもしろい。作る側「麦の会」のスタッフ陣は戯曲を忠実に舞台化している、出演者六名のベテランたちの演技は個性的で

ウェルメイド。観客は安心して想像力創造力を膨らましてゆける。

唯一最大の問題点は、この芝居が終わらないうで中絶のまま放り出されて終了したことである。作者は、このテーマにあれこれ触発されて書き続けたであろうが、切り落とせずに筆を擱いたきらいがある。そして、あとは舞台創造集団に託してハ処理はお好きにどうぞVと。「麦の会」は、スタッフも演技陣も作者と同じく、いや、それ以上に未整理状態で原作そのままに形象化した。いうなれば、観客がいちばん期待する肝心の排泄を中途できりあげてしまったのではないかしら? 観客は舞台を楽しんだが創造側の迷いもそのままいただくはめになった。

実際、しばいのラストがきて幕が閉まりだしたとき、通例の拍手はひとつも起こらなかった。あれだけ、しばい経過の各所で笑いかけた。観客は、このしばいがまだ続くと思つた。それを期待して固唾を呑み、次の場面を待った。そして、再び、幕が開いた。そこには、カーテンコルー——出演者一同整列の舞台光景が出現している。「あれ? ……: そうでしたか、あれでしばいは終わったんで



(九二・十二・十三記)

すね。ごくろうさまでした。しばいおもしろかったですよ」、ここで初めて猛烈な拍手が巻き起こった。ハ「舞台をどう感じ、どのよう判断するか」は観客の問題、それは観客側に任せられるVという製作者側の一般論は、この場合通じない問題だと思う。

題名「ジャンプ」は、(飛躍)(脱皮)(解脱)など様々な意味に、観劇後、響いてきた。

劇評

『グッド・モーニング ショーン』(シアターII)

宮津泰子

(劇団新芸)

最近、家族とりわけ父を取り上げた作品が気になっている。ニール・サイモンの「映画に出たい」は、離婚した父の愛を確かめたかった娘の話だし、山崎哲の「二郎さんの犯罪」は家族や仕事に追い詰められて電動ノコギリによる殺人を犯す父の話のように思う。この「グッドモーニング・ショーン」はアメリカを舞台にして初めて書き得た物語と萩坂さんが講評されて、さすがの慧眼と敬服した。今の日本の仕事人間、会社人間のお父さんでは無理な設定なのと、ラジオになって帰って来たという点を受け入れ易い場として。

この「グッドモーニング・ショーン」の父は出張先のサンフランシスコの大地震で死んでしまい、父親を好きだった少年は荒れてゆく、そんな時、父の友人が贈ったラジオが父の変身した姿だったのである。父は息子の傍に居て傷つきやすい多感な少年期の彼の話相手になり自立できる迄いっしょにいる。こ

の事は二人だけの秘密で、期間は次のショーンの誕生日迄、それが約束である。

渋谷さんは今流行しているおもしろいものを上手に楽しんで受け入れてしまう。観客もそれに乗せられて喜んでしまう。「グッド・モーニング・ショーン」を観て「オールウェイズ」と「ゴースト・ニューヨークの幻」が浮かんだ。この二作品の共通点は死んでしまった恋人(男性)が、失意の相手を思いやつて傍にいてくれ、一番危険な時をいっしょに乗り越え救ってくれる。彼の存在を体験出来てその想いの深さを受けとめた彼女は人として自立して生きてゆけるようになる。その恋も人たちがこの作品では父と子になっている映画の楽しさと同質のおもしろさがこのショーンにはあって私は好きなのである。

父と子の台詞もウィットに富んでいる。ラジオの父に「そこ狭くないかい」「狭い」絶妙の間で真田宏一のズンと響く良い声が答え

る。山型の昭和初期のなんとも素朴な形のラジオが声を出すたびにうれしくなってしまう。強くてユーモアがあつて子の心を正面から受け止めてくれる父を、姿の見えない分よけいに深く感じさせてくれる。ショーンを演じたのは梨木奈穂美、女優とは感じさせない素直な演技、幼なじみの少女とのラブシーンもあつて成長してゆく課程を自然に観せてくれる。母の真田栄子は不思議な女優だ。彼女が出ると舞台上洋物の雰囲気が出るのである。「ブラックコメディ」の時にも思ったが、容姿や声や身のこなしが日本人らしくなくてまことに似合う、ショーンの悪い仲間の二人の少年(こちらは男性)も危険を感じさせる良いキャラクターである。

音楽の使い方も「ゴースト・ニューヨークの幻」ぐらいに良い。歌なしのビートルズの「ガール」を使っているのだが、二ヶ所に使われていて、特に初めが効果的である。これはショーンの父母が初めて踊った曲なのである。もちろんこの音を出すのはラジオから、つまり本人の意志で流すのである。沈み込んでいる母、それを抱くように父の「ガール」のメロディーが彼女を包み込むのである。しかし悪い所もどこかアメリカ映画的な

である。敵役が漫画的で迫力がなく、トラップの解決方法も甘くて説得力がなかった。

恋人のナンシーを襲った不良仲間がナンシーが立ち向かうシーン。リーダーとナンシーのウェストサイド通りのナイフの立ち廻り、ナンシー危しと思ったら、ラジオの父の声が入り、誰か大人がいると思っただけで不良たちが何もしないで去るとか、ゲーム機械のプログラマーだった父の会社の上役達が、父の創った人気ゲームの権利を父が盗んだ事にして取り上げようとして交渉に来るが失敗するシーン。敵役二人はそれぞれ憎らしそうな役を造って来るが恐くないし、交渉も説得力なく特にシンピラやくざのような退場のさせ方は気になる。ラストの山場の会社のトップ社長とナンシーの対決も盛り上りに欠けた。援護に父がラジオから流したエピソードはおもしろい。この社長は落ちこぼれと思われていた弟の作品を盗作して成功したのであり、それを知った弟は行方不明になっていた。社長と父しか知らない話であり、社長にとって恥であり心の傷であった。それを暴露された事で彼は退場するのである。社長も人間、弱い卑怯な自分を恥じ、今またそれを繰り返すのを止めて去ったと辻褃を合わせて観てたけど、

何かもの足りない。締まらない。ナンシーが生まれつき心臓が弱いという設定はどうして必要だったのだろうか。女優さんが演じることによる体格の子供っぽさのカバー、まわりが心配する必然性、外へ出なくなる理由づけ等を考えてみたが説明的で意義を感じない、父の死のショックだけで良いように思った。二人の秘密を他人に知られたら、父は天国に行けなくなるという前提はうまい。それを知ったのはセラピストのベティ。ナンシーに催眠療法をかけているうちに知ったのである。そして天国へ行けなかった父は、あの地震から一年間意識不明で眠り続けていた生存者の覚醒として表現される。確認者として登場した青年の話の中で、彼が一年後につぶやいた言葉「グッドモーニング・ナンシー」によって。ラストシーンでこれを知らされる

と涙が湧いてしまう。初演の時の本多劇場と違って今回は広過ぎた舞台のため味が薄められたような気がした。しかしシアター11らしいおもしろい作品である。ただ私の希望として「映画に出たい」で精彩あるリビエを演じた上田奈緒美や、わからない女性を演じさせてみたい類家里美のような女優が生かされて使われてないような

気がする、このあたりにも演出の目を届けてあげてほしい。前に味わった生き生きした彼女達を何度でも観たいものです。実はガリンコ演劇祭のこの作品は後半しか観る事が出来ませんでした。好きな作品なのでスウズウしくも初演と重ね合わせて書かせてもらいました。それと装置について私はアメリカのプログラマーってずいぶん大きな家に住んでるんだなあと思っただけですが、先輩諸氏のお話では必要なたとえとそうでないところをきちんとすべきと話してください。おられ、なるほどと感じたのを付記します。

△カット絵・飯島俊一▽



劇評

思えば遠くへ来たもんだ

——中部ブロック 92・11月・93・3月の上演から——

丸子礼二

(一) 私の属している名古屋演集は今年創立45周年を迎えた。全り演の他の劇団にも、30年、40年というのは幾つもある。その殆どがアマチュアで、昼間は仕事を夜集まって演劇をつくるという大変ハードな活動を、ずっと続けて来たわけである。この間、芝居をやった飯が食えるなんていうのは想像も出来ないことで、時には「劇団にいるのがバレルとクビになる」という状況さえあった。この頃、文化庁なんてのが出来て、「文化振興の為に赤字の1/2を補助する」というのを聞くのと、「散々潰すようなことをやっておいて、今更なんだい！」と嘯みつきたくなる気もするのである。業余演劇というが、その業だつてキビしいのに、更に持ち出し覚悟で、貧乏劇団を持ち堪える為に悪戦苦闘しての何十年なのだ。そして今や、名古屋などで七、八十も劇団と称するものが出来て、全り演劇団なんかカスんで、隅っこに追いやられる勢い

になって来ている。歴史とは意地悪なものだ。愛知県に何百億のカネをかけた芸術劇場が出来て、「世界劇場会議」が名古屋で開催される。「結構ですね。どうぞおやんなさい。私はもう、疲れましたので、見物に廻りますから」と演劇の古兵はソッポを向きたい。でも、「世界劇場会議」って全り演も後援団体に入っているし……。

92年11月から93年3月迄の上演は……劇団すがお 桑名市民文化祭 92演劇祭参加 第46回公演 11/2 桑名市民会館 栗木英章作 加藤武夫演出「わが街―桑名 桑名の雷どん」

劇団名芸 創立30周年記念、第38回公演 11/27・29 名芸平針小劇場 栗木英章作 片野耕治演出「夢芝居」

「わが町」 合同公演 熊谷昭吾追悼 核兵器廃絶・平和を守る名古屋舞台人の集い演劇公演 2/13・14 名演小劇場 劇団演集・劇団名古屋・劇団名芸参加 熊谷昭吾企画・構成 熊谷昭吾・栗木英章作 木崎裕次・久保田明演出 「永遠の八月」 ……上野市民劇場はこの期間、公演はなかったらしい。

でくのぼうの会という変わった名前前の演劇グループが、名古屋の南区を地区として活動を始めてから30年、今や劇団名芸として太白区に小劇場を持ち、昨年度名古屋芸術祭賞を貰うまでになった。おめでとう、ご苦労さまと心から祝いたい。座付作者の栗木英章が貧乏一座の座頭梅沢富十郎を演じ、平針小劇場は花道まで付けた芝居小屋、開演前に飛入りカラオケ大会をやって、オヒネリが飛んだ「夢芝居」である。経営困難の温泉街をレジャーランドに作り替えて一山あてようとして失敗する小屋主(柘植洋)、チンピラに追われて逃げ込んだ二座で新米役者になろうという家出娘(近藤由美)あり、万年落選の作家志望の下働き(加藤雄二)、一座の華といわれながら飛び出して他の土地で咲こうとする喜久代(坂野加納子)、富十郎の父は戦時中の慰問演芸の舞台から「死んじゃいかん。逃けてもいいから生きて帰って!」と言って逮捕された。彼自身昭和天皇崩御の時服喪しないで舞台を開けて右翼から脅迫されるという気骨の持ち主。その座頭の失明や一座の困窮を心配しながら物言わぬ自閉症の忍(古嶋香代)等々と盛り沢山過ぎるくらしい筋立て

に乗って最後の解散記念上演、栗木英章座頭の演じる国定忠治赤城山のくだりまで、名芸一座の面々はそれなりの精一杯の熱演であった。

自前の小屋を持っているという強みか、名芸の芝居は平針でやるときは、他の劇場では出ない生き生きした味があって面白い。今回も栗屋暮らしの場面ではそういう感じがあつたが、紙芝居の味はなかなかそうはいかない。踊りにしろ、小ばなしにしろ、ガマの油売りにしろ、そして最後の国定忠治にしろ、泣きが入った芝居までは、まだ、とてもとてもと、念を押しておきたいのである。

(四)

県立高校3年生相沢は、実はスナック「白と黒」の店長。学校へは殆ど来ない彼を心配してくるのは、担任の小島先生だけ。剣道の吉松先生と生活指導の佐藤先生は相沢のバイトを勧誘して夜の柳ヶ瀬探索に出る。「白と黒」での鉢合わせ。小島先生とその恋人の佐久間先生、フィリピン女マリア、表面マジメの正岡と彼女の佳江、そして佐藤と吉松! すんでのところ、暴力沙汰か退学騒ぎになりかかったが、相沢の正体がバレル前の、酔った二人の振る舞いをマスターがチクリと

突いての上手な捌きに、正岡も佳江もセーフになり、相沢の規則違反のバイトも軽い罰で済む。しかし相沢は卒業式にも祝賀パーティにも出ないで、東京へ去る。「息をひそめてやっとならからバイトにも意味があつたんや」と言い残して……。

東会議の劇作研究会迄に作者藤本昭が7回も書き直していたのを聞いているだけに「やっとならからバイトにかけて貰えたか」と半分はらはらして見ていたが、管理教育の表裏の人間の姿を描くという作者の意図はまず通っていたと思う。40年の積み重ねを持つはぐるま演技陣の有り難さか。

もう一本は「祭よ、今宵だけは哀しげに」愛知高校が全国優勝した創作脚本で、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」からの劇化である。星を眺めるのが好きなジョバンニは親友のカムパネラの銀河鉄道に乗る。奇妙な車掌たち、古い師、ゾンビ、ホテルを探す教授、しかし、カムパネラは途中で下車しなげればならないという……。彼はジョバンニを水に溺れることから救って、代わりに死んだのだ。自分の分も生きてほしいという願い、それが幻想の銀河鉄道の旅だった……。

少年の心の編歴……憧れと、驚異と、疑い

そして生きる決意……この作品を創った愛知高校生の心の世界は宮沢賢治の世界とも又違うものなのだろう。はぐるまの舞台からは、私にはそれは見えなかった。というより、私自身がトシを取りすぎたのだろうか?

(五)

そして劇団名古屋の創立35周年は芸創センターで「わが町」である。T・ワイルダーのこの名作は一九〇一年から一九一三年まで、アメリカ、ニューハンプシャー州のある町で日本での上演では、外国の昔の町をやるよりはと、岐阜とか溝ノ口とか、それぞれの町の話として作り直される事が多い。それを原作通りにやってしまうのは、演出久保田明の信念の故か。

まず、進行係の二人(谷川伸彦と箕形末央)が「ここに商店街があつて……」と紹介するのだが、大道具は基本的なものだけ、大部分無対象なので、サッパリ町は見えてこない。

話のシンとなる家族二軒、ギブス医師(深山義夫、ごとうてるよ)とウェブ編集長(矢野弘次、岸本美智子)の生活ぶりも、姿のいい馬をひいて出てくる牛乳屋(中澤仁詞)の動きもよくわからない。髪の毛も黒い日本人が日本の生活をやっている感じで、カタ

カナの名前まじりの言葉と合わないのだ。だが、ウェブの娘エミリー(高木かおり)とギブスの息子ウォーリー(津田昌一)の幼い愛情から、結婚式までのくだりは微笑ましくもあり、ついでにけた。

お産の為に若死にしたエミリーの魂が墓地にいたる先輩たちに迎えられ、自分の家の過去を眺めに行つてもう家族の世界と別れている自分に納得する結末はワイルダーの信仰による考え方で私なんかにはカッコイイつけたとしか思えないのである。やはり古典は古典として見ているより仕様がよいのだろうか。

(六)

すがおの公演は大分前に日付だけ聞いていたが、会場・時間などが直前までわからず、「あつたのかな」といつている内に本番が過ぎてしまった。岡崎の公演は私の車の故障で見に行けず、夜明けは全り演の議長団会議と重なって見られなかった。やっと定年になり、教師業に束縛されなくなったので、全国あちこちの舞台を拝見しに歩こうという矢先にこの有り様で、中部だけでもなかなか見続けるのは難しい。

所で、名古屋には「核兵器廃絶・平和を守る名古屋舞台人の集い」というのがあつて、

毎年12月8日をメドに戦争に反対する趣旨の舞台公演をやつていた。個人参加だが全り演劇団のメンバーも多数入っている。一昨年は、その演劇と舞踊の公演「砲声を聞きながらダンス」がかなりの赤字になり、今年の上演で絶対に挽回しようとして、代表世話人の熊谷昭吾氏を中心に企画を考えていたその秋に、彼は倒れてしまった。名劇協の合同公演「娘たちの声が聞こえる」名古屋空襲の記録」等、熊谷氏との関わりは、私たちが深いものがあり、追悼公演として、氏の構成執筆による「永遠の八月」を公演することにした。結果としてはかなりの盛況となり、一昨年の赤字も殆ど埋めることが出来そうである。

プロローグとエピローグのついたオムニバス形式で、メインは小品二本だった。熊谷昭吾作の「鬼おんな」(敵前逃亡)ということと遺骨箱を赤い紐でからけて返される戦死者の妻の話」と栗木英章作の「紅い花」(敗戦直後の兵隊たちの所へ現れる殺されそなた朝鮮の従軍慰安婦の話)で、後者は名芸のユニット出演だったが、演出を冒険舎の木崎裕次がやり、緊張感のある舞台となつていた……。

観劇雑感

はぐるま・文化座・演劇アンサンブル
東京芸術座銅鑼合同・埼玉

萩坂桃彦

劇団はぐるま2題

1 「祭りよ今宵だけは哀しげに」

宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』を借りた高校生演劇の作品(作・加藤純・清水洋史)、六年前、岐阜の高校演劇祭で評判になって、昨年の神奈川県でも三校が上演している。

賢治の『銀河鉄道の夜』には宇宙規模の哲学と深い教育があると思うが、その部分はそっくり外して、ジョバンニとカンパネラの仲良しの少年が、星きちがいのジョバンニの夢想から生れた『銀河鉄道』に乗って旅をつづけるというところだけを借りている。

この『銀河鉄道』が、民営化によって廃止される国鉄最後の路線と出て来たのには吹き出した。

車掌が四人(山田達哉、林陽子、加藤順子、

青井美香)が描いた薄紺色の制服姿で、半分以上歌う調子でセリフを言い、身振りの間にダンスをはさんでたのしませる。

こういうかたちでの若々しいからだは、ぼくらの時代(はぐるままでいえば創成期から、つい最近まで)では中々育ちにくいものであったが、やっと生まれてきた。

乗りこんでくる客も賢治の本とは無関係で、いかにも高校生らしい思いつきで自由奔放。ゲラゲラ笑いつづけて見ていたので、順序の記憶は不確かだが、先ず始めの登場者は女占師(大塚鏡子)だったと思う。ジョバンニ(糸水しのぶ)の手相をみて、幸福が約束されていくといい、カンパネラ(森てつや)の手相に死相があるといったり、この場面、みごとなひとり舞台。ツカちゃんも慕われて

いる大塚鏡子は劇団の古参俳優、声の使いわけ、時には意外な若さ、色気でののしませて

くれる、ぼくの好きな女優さんだ。

次にゾンビ(馬場健太郎)というのが出てきた。人体飛行の可能性を信じて疑わないインテリ風の人物で、身体の手足、胸にまで羽を着けて、高所から跳んでみるのだが悉く失敗、ずたずたに傷ついて、笑わせる。いまの若者のころにどこか通じるのであろうか、大受けである。

つづいての乗客は、小林教授(高島康貴)と水野助手(男役を辻あり)の、虫獲りのたもあみを振りまわしてあらわれる珍妙なカッブル。捕獲の目標物は「思出の採集・七色ホタル」。リアリティなどそっちのけで、この哀しい宿命にとりつかれている滅茶苦茶な姿には力負けして笑ってしまう。この役には御兩人乗ったらしく男役の辻ありなどめざましい働らきであった。

ジョバンニとカンパネラが紙ヒコキをとばしたのはこのあとであったろうか。カンパネラの死を予知させて哀しい。女占師のくれたリングを食べたため死ぬのもおもしろいと思っただけ、やはり、そこは賢治の本に戻って、溺れた子を助けるために、子どもは助かってカンパネラが死んだはずである。

それにしても少年ジョバンニ役の糸水しの

ぶのせい一杯の動きは、心のやさしさを表現しつつした。

カンパネラとジョバンニの友情は、あるいは現在、とくに若者の間での命題ともいえるテーマかもしれない。『祭りよ、今宵だけは哀しげに』という気取った題名も、やさしさをもとめる高校生の声かもしれないと思っただけだ。

これを手堅く、色づけして、キチンとした部分を添えて、見れる芝居に結論づけたのが汲田正子演出であった。

2 「息をひそめて灰スクール」

この戯曲(作・藤本昭)は、東会議の「作家会議」にくり返し提出されていたので、そのたびに読んでいて、よく知っていた。このテーマは藤本昭のとおきなのであろうか。高校教師と、教師にとってまなならぬ生徒との関係を、何とかして舞台で見たいのである。モデルの生徒はもう、現在では立派な社会人だそうである。その執念には脱帽するが、「作家会議」に出されたこれまでの改稿には、ぼくはあまり感心していない。

ところで上演をみて少からずおどろいた。承知していた本とは打って違って、場割の適確さ、たたみあげてゆくストーリーのスピード感、担当教師を追いつめられるクライマックス。数少ない登場人物も存在が鮮明である。ハテナ、このドラマツルギは十年前、十五年前の、こぼやしひろしそのものじゃないかと気づいたのは、幕が降りてからであった。こぼやしひろしにもこんな直弟子が出現したのかと、無邪気にはよろこべない何かがある。

配役では、問題の生徒優二(川崎勉)が、茫洋とした面持ちで、舌足らずのせりふ言いがおもしろかったが、最後までそれだけでは困る、結局もう一つ、よくわからない生徒でおわった。

担当の小島先生(林隆昌)が光った。作者は自分の分身のつもりで出しているが、ぼくの知っていた本とは見ちがえるほどである。十年前だった三島幸司の役であるが、その三島幸司が演出をしているから、のりうつたようにそっくりだ。「ひしめきあう不毛の季節から」で三島幸司をスターにしたのは、こぼやしひろしである。小島先生のタイプは、劇団はぐるまのヒューマニズムの象徴である。

しかし、それもいまの若い観客に通じなくなっている感じもある。

教頭職への昇格を目の前にしている佐藤先生(浦田ひさし)、風規係で剣道の教師吉松先生(片岡隆司)が、凡庸に終わった。本の書きこみが足りなかったためである。とくに浦田ひさしのどこか所在のなさはこの人らしくらぬし、片岡も類型に終っている。

小島先生と連れ役の佐久間先生(高谷日和)は過不足なく仕どころを抑えていた。

暗い側面の生徒を見せる正岡浩一(川口一彦)も設定がどなるばかりの役で気の毒であった。このあたりは、本の問題である。内藤佳江(藤田優子)は無難。

戯曲の中味にふれそねたが、登校してこない相沢優二という生徒をめぐっての、学校側の対応、何とか立直らせようとつとめる、いわば正義派の小島先生と協力者の佐久間先生、真反対に処罰を言い張る体制派の佐藤先生、吉松先生、その衝突を、優二が働く柳ヶ瀬のスナックバーを舞台にしてみせるという趣向である。

作者は初稿からこの設定をはなれず、改稿という、そこで働らく外国人のホステスの国籍を変えて見せるのであったが、今回のマ

リア（鹿島ゆう子）はフィリピン女性で、じつにうまい。

この作品の要めは、高校教師と生徒の、真実の愛とはなにかの追求である。このテーマは、『書けない黒板』『ひしめきあう不毛の季節から』で劇団にとっては学習済みのものであった。藤本昭は、こういう型でそれを超える問題提起として出したのであろうが、新しくない。

（92年12月6日 岐阜・御浪町ホール）

「土」（文化座）

長塚節の小説「土」は二回読んでいる。二回目は地域のアマチュア劇団で、伊藤貞助脚色のものを演出上演したときのこと、舞台で表現しにくい、自然の四季もごももの哀感を味わいたためであった。大胆に長塚節の小説の原文を劇の中のセリフにまでとりいれて勸次、おつき、卯平などにおとらず、「土」で主張したいのは、長塚節の文章そのものであるかもしれないという思いが、ぼくにはあった。文化座の新しい、秋浜悟史の「土」でその思いがなかった。

プロレタリア演劇を基盤にした伊藤貞助の脚色も、勸次の妻お品にダイナミックな照明あてた大垣肇の脚色も、上演のモチーフは勸次一家に注いだヒューマニズムであった。現在、貧農のどん底生活を描くことで階級意識を盛り上げるなどということも、そう単純に行かなくなった。

秋浜悟史は、「土」の書かれた明治四十年に遡って、「歴史」として見せる手法を用いたようである。勸次の背負っている貧しさはどこでも見かけた姿であり、特殊ではなかった。

そこにその名の村があり、在郷があり、黍畑やにわとりといっしょに人間も生きていくという描き方。登場する役に、「めんどり」「おんどり」というのがあり、それが交合してポトンと落とす「卵」が、勸次一家の生計のキポイントになるという描き方。

いろいろな感心を重ねて見ているうちに胸がふさがる思いになった。

貧しさにおける勸次の全体的な苦しみ、そして若いからだで精一杯生きていくおつぎのけなげさ、あの現実を、どんなたたかい方で救えたであろうかという、無力感である。お内儀さんを頂点とする地主・小作の村の構造

が、勸次一家を虫けらにしているのだ。生れながら生きるしかないという虫けらの様な人たちが沢山いたのだ。

その図柄を新しい文化座の「土」は示したのかもしれない。

客席の後方では多くの視力では配役の顔と名前がかさならなかったが、セリフはよくとおり、勸次（津田二郎）、おつき（桐山京）、卯平（青木和宣）はよくはたらいいたと思う。おつぎの声の音色がどこか佐々木愛と聞き紛うのもおもしろかった。

勸次に宿った宿命感を、女給屋がうたう「ままよ、ままよでままならぬ」の戯れ唄に託したのは秋浜悟史の思想というより、情感であろう。搏ってくるものは弱い、この役の大井川象子の泳がせ方がきいていて、全篇、やわらかな無情感でくぐることになる。念仏堂に集まる年寄りたちの「ナンマイダー」のコーラスも哀感にとみ、手ぶらでしか仲ま入り出来なかった卯平が、寄り合った老人たちの友情で、酒をふるまわれるシーンが秀逸だ。

お内儀は、風格を持ち、支配者にふさわしい温情をちらつかせながら、内には冷たさを宿す姿として描かれる。従来この役は鈴木光枝で、土間で土下座しているおつきが佐々木

愛であったが、今回は愛がお内儀の役である。それはかすかなめまいを覚えさせる変化であった。そこに文化座の歴史を感じたのである。

（93年1月27日 本多劇場）

「ぼくの鳥あげる」

（東京演劇アンサンブル）

アンサンブルの「プレヒト小屋」には初めていうのも恥しい話である。つき合いが何故か生まれぬというのもよくあることだ。その初めてが「ぼくの鳥あげる」であった。それはこの本を書いたのがいづみ凜で、その案内によってである。

劇団はぐるま出身で、修羅場ともいえる東京での初仕事は、この目でたしかめたい。

いただいたパンフレットの中で、「幸運な年のはじめ」といういづみ凜の文章が読めたが、魅力的な原作（佐野洋子）にあえた幸せ、とても素敵な音楽（筒美京平）を創っていたいた興奮、驚いてしまう豪華なキャスト（入江洋佑、大川川敬一をはじめとするアンサンブルのフルメンバー）と広渡さんの確かな演出ですばらしい人たちと一緒に創った舞台の一員にな

れたことに、心から感謝している、と素直な告白であった。

実は観終った感想も全くこれとかさなって、寒い夜、暖かい燗酒にありついた心地良さであった。

劇のストーリーを紹介すべきだが、とても書けない。難解なのではなく、数えきれないほどのエピソードを、ここでリライトは無理である。

青少年向けに書かれたらしいが、むしろアイロニーのふくらんだ、堂々たるおとな社会にも通じるメッセージだ。

冒頭は出産のシーンである。おでこに、美しい小鳥の絵の柄の切手をつけた男の子が生まれる。「ぼくの切手」の発端である、医者（入江洋佑）がまずその切手を手にいれる。

次に医者の子の手へ、それが胸摸の手にわたって、次に図書館員にわたっていく。この図書館員下宿代が払えず、部屋代の質に下宿屋の女主人の手にうつる。というように、この珍しい切手の遍歴は次々とあって、船乗りが群れる酒場の港町、その下働きの女にわたったかと思つと、戦争だ。仲を割かれる恋人たち、そしてひと組みの姉と弟。肉まんじゅう

屋夫婦、大工と女房。前線で、生きて、お互い女房のもとに帰ろうよとはげまし合う肉まんじゅう屋（浅井純彦）と大工（長畑豊）のやりとり、瞬時、ぼくは感動した。四十八年前の南方戦地での体験がよぎったのだ。

この不思議な切手は、こうして手にしてゆくことになる民衆の生活を、たくさんのエピソードで綴ってゆく。それは哀しく、そしてやさしく、たのしい。いづみ凜のヒューマニズムの躍動である。これをつつみこんで客席を酔わせるのが筒美京平の音楽。

ストーリーの結末も多分にとりちがえてるので書かぬ方がいいのだが、あの、おでこに「鳥の切手」をつけて生まれた男の子が、鳥の絵しか書かない青年画家となり、切手の最後の所有者となった大工の娘と結ばれることになったと思うが自信がない。

ともかくいづみ凜さん、おめでと。

（1月28日 武蔵関・プレヒト小屋）

「橙色の嘘」

（東京芸術座・銅鑼）

この戯曲は平成三年度文化庁の創作奨励特

別賞の入選作で、そのときの審査に立合った一人の岩波剛氏のおもしろい文章が上演パンフで読めた。応募に必要な書類の中の項目に「芸術上の略歴」というのがあって、そこに「特になし」と書いた平石耕一は、天才か盗作かと疑ってかかったというのである。

「ま、いいけど」を「演劇会議」七二号にのせたのがぼくの彼との出会いの初まりだが、そのセリフのスピード感や軽さにはおどろいた。当時、年間四、五本は書いていたらしく、批評が追いつかなくなった。知らぬ間に、文化学にまでゴール・インしていたのである。ところでこの「橙色の嘘」は、いかにも才気が使われていて屈託がない。なにかと人を喰っているの、劇評も後手にまわりそうである。平石耕一論というより、猫だましを喰ったような感想である。

ストーリーを、パンフレットから借りるところなる。

東京郊外の星川眼科医院の院長賢一（鈴木瑞穂）は、閉院を決意した。そして、彼の病院に三十年以上勤め上げ賢一の娘恵美（川口圭子）の母親代りをもつとめた看護婦の岡田陽子（たかべしげこ）に、薬科のコテージをプレゼントし、勇退を決意する。

これで一件落着となるところだが、陽子の絶ってのねがい「先生、私嘘をついていたんです。ここはどうしても先生に辻褃を合わせたいだかない」とほとんど泣かんばかり。賢一はその嘘にノルことになって初冬の薬科へ。

このさきはこちらの文章で書く。つまり陽子の「嘘」というのは、看護婦学校時代からの仲良しの村岡久子（相生千恵子）と栗原朝子（藤原裕子）のふたりに、実は星川院長とは夫婦の關係にあると言っている。この二人を薬科に招待して、証拠を見せたいというのである。

後半の薬科のコテージの場面は、娘の恵美も加わって擬装夫婦を必死の遊びで見せ、祝宴の酒でボルテージのあがった久子や朝子の応援で、さながら本物の夫婦に仕上がる光景になる。

ところで、最後の仕掛けである。陽子の古いふたりの友達は、陽子の嘘を知っていて、その嘘のお祭りに協力したのである。そして陽子とともに薬科を去っていく。

陽子への愛が本ものになりかけていた賢一は茫然自失。

「お父さん、これでいいの」と、恵美が

叫ぶ。高原に雪が舞ってきた。

たしかに達者な作劇であるが、かりに高校演劇クラスなどでの上演を考えると、笑いは生じて感動まではむつかしいのではないか。こういういわば大人のつくり話で泣かせるのは役者のちからである。鈴木瑞穂の機微のふかさと情感の大きさ、それにたいするたかべしげこの受けのたしかさがそれである。

父への愛憎を緋いませた恵美（川口圭子）のキャリア・ウーマンぶりもリアリティを見せていた。第一幕での患者二人（槐柳二・中村享）の登場の助走場面も生きた。

久しぶりにリリシズムをたのしんでいる演出の早川昭二のうれしさがつたわってきた。（2月3日 新宿シアター・サンモール）

「花」（劇団埼玉）

はじめにやはり終始感銘のふかかった舞台であったことを告白しておく。

原作の、田宮虎彦の小説「花」は読んでいたが、主人公の枝原ハマの生きている姿、そのつよさとふかいやさしさに、うたれた。

農村の、ひとりのお母ちゃんが、国をあげての戦争のまちがいに、こんなかたちで踏んばってたたかっている姿は常識をこえる。

モデルになっている千葉県安房郡一帯は、大正十二年頃には巨大な生花の生産地であったのに、支那事変、大東亜戦争がこれを大きく変える。食糧増産の国策が花づくりを押しつぶす。花をつくるものは非国民、国賊であった。ハマは全身でこれに耐える。

脚色はここでも平石耕一であった。大正十三年から昭和二十年までを年代誌風に、多場（三幕十六場六景）でたみこんでゆく。だから演出（由布木一平）はどうみせるかよりもどこを切りするかが仕事になった。音楽や効果音、それに民謡などをいれて暗転をつなぐのであるが大へんである。昨年十一月一回だけの埼玉会館の初演は成功しにくかつたろうと思う。

枝原ハマの一家は、母親サキ（荒木雅子）、息子の当主五十次（沢田照夫）、妻ハマ（武井千恵子）、長男勇一（金子明・鹿嶋きよしとひきつぐ）、次男作次（沼田肇）である。サキとハマは花が好きなことはひとつなのはそのイキのかよったところを荒木雅子と武井千恵子がうまく見せる。武井は適役である。

冒頭の大正十三年、花づくり盛んな頃の情景で、親方の庄作夫婦（森本拓治郎・はづきゆうこ）が思いっきり明るく出す。森本がちょっと固い表現で郷土風に見せたのは故意か。この劇で何かと仕掛けをつくってゆくのが実行組合長の源吉である。

サキの亡夫善兵衛とは仲好しで、五十次とハマの仲をとり持ったのも源吉で、この家への出入りは家人同様である。源吉はハマが可愛いとてならない。その源吉が、ハマに花づくりをやめてくれと言にくる。劇のはじまりである。

源吉の渋沢洋俊は立場のつらさを工夫してみせるが、このひと癖の、ひとり芝居が時々出る。相手のぶんまでとりこんで芝居をするのである。国家総動員法、食糧管理法などをタテにハマを追いつめるクライマックスはさすがに重厚だ。

数多い場景の中で光ったのは、ハマの次男作次が学校で、非国民家族の子としていじめぬかれて帰ってくるシーン。

もうひとつは、昔、花づくりの仲間だったジュー（岡田律子）、イシ（川沼智恵子）などに責められて、ハマは決意する。花の柄のついた皿を叩き割りながら、花をあきらめる



（93年2月5日 俳優座劇場）

神男 おとこ

— 儼儀請負人 —

東川宗彦 うのかわむねひこ

人物

△人物はすべて一人二役とする。▽

神男 山川明人 四十一才

石之日売命 岩野照子 三十一才

天女 吉野由理 二十一才

声の出演

神官

警察官

(一) 音楽は 鼓 竹笛 琵琶
琴 尺八 葉笛の使うパート。
シンセサイザーの使うパート。

他の自由な楽器のパート
からなるが混成しても良い。

(二) 装置は 能楽堂の要領をとり入れて
実に象徴的、簡潔とする。

(三) 上演の場所は一切とわない。

(四) 参考文献 古事記 神宮館蔵版昭和
六十二年福寿曆 神拝詞 国府宮由
来記等々。

舞台上手から下手へ巾八十種位の紅白の
布がピンとはってある。
紅は上、白は下である、
チョン!!

と拍子木が入ると神男(裸の禪男)が竹
の根のムチで 上手から下手へ 紅白の
布を真二つに引き裂いて走る。

チョンノ チョンノ チョンノ チョン
ノと拍子木が入って……

ワッショイノワッショイノ ワッショイ
ノワッショイ…………… 低く 高く
ゆるく 激しく 裸祭りのノイズ。

(一) 神社参道

吉野と岩野がやって来る。

それぞれ、片手に紅白の厄除け布(四十
種位)一本づつ二本を持ち、岩野はもう
一方の片手にビデオ・カメラを持ち、吉
野はアイスクリームを持っている。

岩野 あなた 冷たくないの?

吉野 いいえ!!

この男衆の裸祭りの熱中に すっかり
酔ってしまって……………体中が ほてって
しびれて……………喉がカラカラですノ(アイス
クリームをべろべろなめる)

岩野 山川さんに この布 破ってもらえる
かしら……………

吉野 すごい すごい すごい人出ですか
らねえ。

岩野 私は 九紫大星の厄年なの…………… 運気
一変して 何事にも十分な注意と警戒心が
要るらしいの…………… 人間関係もこれまで
以上に煩雑になって難問が多くなり 時間
も不足して 体調の乱れ 心因性疾患……………
ひいては心臓病も併発の厄年……………
是非 是非 厄払いをしておかないとあぶ

ないのよ 私!!

厄をね あいつに ぎゅっーと おしつけ
るとすると 私は助かるの!!

吉野 私の方は 身辺は明るく展開して 弾
力性に富み 運氣活発 意欲旺盛 積極的
な行動力の年なんです。

熱性疾患 循環器 目の病気には要注意
だそうです……………

二人 通りすぎる。

祭りのノイズ。

笛につられてのワッショイ ワッシ
ヨイ。

背広 ネクタイ姿の裸男 もまれ も
まれ もみくちャの感じで登場。

ネクタイがひっぱられる感じ……………と
られないように ついて行くが ちぎ
れてしまう。

もまれ もまれての感じ……………

背広の袖がひっぱられる。

後ろから 引きむしられる感じで背広
がなくなる。
ワイシャツもピリッと破けて なくな
る。

靴も 脱がされる感じ。

警察官のマイク 警察官の指示に従って
ください。参道には 続々と参拝者がお詣り
に来ております。どうか 立ちどまったり
押しあったり、割りこんだりしないでくだ
さい。
順序よく お進み下さい
順序よく お進み下さい!!

神男のスボンが引き裂かれる感じ。

禪姿になってしまって もまれ も

まれの様を演じる。

もう もはや 失神状態に近い。

神男 ほんまに もう!!

なんで こんな 神男に選ばれる羽目になつたのや。

初めは いらん いらん

お断わりだす お断わり いうておつたのや……。

……。

せやのに 会社の希望や……会社の命令やいうて……俺の個人の意志を變更させられてしもうたのや。

管理職寸前で お断り出来ないようにハ

メこまれたんや。

個人と集団は そういうところがある

個人と組織は そういうところがある

それにしてもや!!

もつと 自分が 頑固に!! 自分の意志を通したらよかつたのや!!

……。

そうしていたら 今頃 風呂からあがって

冷えたビール飲んで ナイターみておれた

んや。

そうか パチンコでヒーバーとって 立ち呑みしておれたのや。

もまれ もまれの状態。

神男 競争会社の中で 会社の中で生き残る

ためやいうて……。

……。

会社のマークつけて マラソンやっている世界的レベルの選手もいるって……

あれで 売り上げがグングン伸びているそ

うな。

……。

我が夕陽ヶ丘生命保険会社の営業に大いに

役立つと……(泣く) 役員会命令やぞうな

……。

岩野照子 あいつが 計りやがったのや。

ワッショイ ワッショイ ワッショイ

痛い!! 痛い!! ひっかくな!!

さわるだけにせえ!! なぐるな!! たたく

な!! さわるだけにせえ!!

……。

手が抜けるうう!!

腰にだきつくな!!

足にしがみつきよる!!

顔に顔をこすりつけよる!! 男同志やのに

!! くら!! くら!!

……。

……。

ワッショイ ワッショイ……

……。

ほんまに 日本には えらい祭りがあるも

んやなあ

……。

厄年の男に……皆んなの厄を……

たった一人に……何千人 何万人の厄を

背負わして……

……。

俺に さわつた者の厄がとれて 厄除けに

なって 俺に 皆 くつつくやなんて……

……。

ここで もみあうてる男衆だけで七千人も

八千人もおりまっせえ

……。

真中は四、五百人や!!

この七、八千人の男衆が女達の厄除け布を

引き裂いては 又 俺にさわって 厄を俺

になすりつける

……。

……。

俺みたくに 頼りない男に……

……。

……。

そんな ぎょうさんな厄 背負いきれるも

んやない……。

俺は 大体 俺一人の厄で もう へと

へとなんや

……アホカ ……ホンマ アホ!!

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

これは もう 神さまの職場放棄やない

か

ワッショイ ワッショイ ワッショイ

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

(二) 夕陽ヶ丘生命保険会社オフィス

課長の机と椅子 形象的なもの。

吉野と岩野 忙しく立ちはたらい

ている感じ……。

コンピューターの音 しきりにな

って……。

山川明人 やって来て 電話をと

る(仕草のみ 電話器はない)

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……二十年の分……はい……もう十二年も おかけになっておりますねえ。コッコツと はい そうですとも……

岩野 さっさと 解約をしてあげて 新規をとって……相手は助かる あなたは儲かる 会社の成績はあがる。

山川 生命保険は なるべく解約をしない させない これが 私のセールズ哲学です 解約をさせて 大きいのをとる 又 解約をさせて 大きいのをとる 利潤追求のみでは会社も顧客も亡びます。

新規に入るとなると 年令的にも 保険料が…… 保険料が！ 保険で首が……

山川 生活を自衛する最後の最後の砦です 生命保険は。

山川 一応 そうです。

……健康チェックにひつかかると 保険に加入出来ませんよ

岩野 お客様の良きコンサルタントでなければ。 お客様はお金が必要な の お金で救われるの。

岩野 数字 上がらないわよ 何事も 数字 勝負でしょう？

お困りは よーく わかります。 サラ金の貸付けは……おありですか？

山川 だから 貸し付けを。 岩野 利子がかかりますよ。

山川 一応 そうです。

がまんしている？

山川 補償がなくなります 人間社会の海で 溺れてしまいます。

岩野 どういう道なの？

良いことです……金利で…… 首が……ですよ……

岩野 ……溺れる人も浮ぶ人もあるの こんな 激烈な競争社会では。

岩野 どういう道なの？

……ご主人が単身赴任 お子さんが登校拒否 お年寄りの介護 うーん

山川 お客様の側に立って 物事を考える

岩野 どういう道なの？

それでも…… それでも…… 貸し付けをお推めします。

山川 お客様のお役に立つ保険のセールズ

岩野 どういう道なの？

株下がってねえ……なけなしの……

山川 お客様の側で 信用の基本です。

岩野 どういう道なの？

岩野が隣の椅子で仕事をしているが チラリ チラリと山川をみる。

岩野 ころんです お客様が経済地獄から助けを求めているのです。

岩野 どういう道なの？

……

山川 お客様の側で 信用の基本です。

岩野 どういう道なの？

いかが？
山川 浮気位なんですか やろうと思えば 誰だって いっだって 出来ますよ。

岩野 あら？
ほんと？
……じゃ……今夜……つきあってえ

あれ？
……あれ？
……血が……あち こち から 流れている。

……私 おいしいわよ……
山川 冗談……を……大学教授で 二人のお子さんといらっしゃるのに。

ワッショイ ワッショイ ワッショイの 声。
直径十センチの竹、三、四本を紅白の布でぐるりぐるりとまきつけたものを かっいでまわり 押したて 若者が一人 その竹に よじ登りの感じ 歓声があがる。

……せやのに ひとつも いとうない……
……ワッショイ ワッショイ
……たたかれても ひっかかれても
……ちよつと 物に さわった位の感覚や

山川 (完全にうろたえる) 事務所で…… (衝立てのむこうを気にする感じ)……そういうことを……

ワッショイ ワッショイ
坐り込んでいた神男 又 立ちあがって もまれ もまれの感じ……

……なーんか
……夢 うつつの …… ええ 気持ちにな
……って来た……

岩野 裏切られても 持ちこたえられるように 免疫になっておくのも人生訓よ。

神男 うわッ ひやこいなァ
頭から 直接 水をぶっかけるんやから

……私さんになったような ええ 気分や……
……穏やかな ええ 気分や ……始めてやな
……ァ 儂の人生で こんな 落着いた 穏やかな気分は

山川 書類どこかな？ ……吉野君！
…… (ぼんぼん書類をたたいて) 計算 又

ワッショイ ワッショイ

……いやいや 儂は神男なんや 仏さんやない

のや

神仏混淆 になったのかなア

せやけど ここは お宮さんやしなア……

神男や

排仏毀釈で …… 神さまかなア

日本には よーけな 神々やら

よーけな 仏々やら

いたはって……

たのしい 土俗信仰も よーけ あって

まア昔から 宗教では 世界一 民主主義

やなア

弾圧もひどいものがあつたなア

現実の世の中は 専制主義や あいかわら

ず……

せやのに 憲法を改正して 軍隊を公然

のものにしようとする

太平洋戦争 そうかんたんに ぬぐい去

ることは 出来まへんわ……

どつと 反抗せな 反抗せんことには

……

しかし たゝかれても たゝかれても 腹

がたたん。

たゝかれても たゝかれても おゝきに

おゝきに ありがとうございます。

けられても おゝきに おゝきに

踏みつけられても 踏みつけられても

おゝきに おゝきに

……

だまされても ありがとうございます

……

家をとられても 嫁はんとられても

感謝しております

銭とられても 税金 とられ とられ と

られても

土地 家 追い立てられても

過労死で生命とられても ツメ腹切らされ

ても……

人間 あきらめがかんじん 忘れてしまえ

る

……

……

こら やつぱり ぼちぼち 神男の境地に

なつてきたな……。

……

ワッショイ ワッショイ

……

男 男 男に もみくちや もみくち

や ……これは みそぎか？

……

清い水で 自分の罪や汚れを洗い流すのや

ない…… おかしな おかしな気分や。

この仕事は こんな こんな きょーさん

なお人の厄を どんどん 背負い込むんや

から みそぎの逆や……さかさまや。

……

あ こりア こりア こりア こりア

持ってこい 持ってこい 厄病 災難 悩

みに 貧乏……。

……

あ こりア こりア

持っておいなはれやア!! お引受けしまっ

せえ!!

ご家族のぬきさしならん もめごと

円安ドル高 ドル安 円高 貿易摩擦

財政赤字に 株安 物価高

持ってこい 持ってこい 皆 引受けた

……

ワッショイ ワッショイ ワッショイ

大気汚染 酸性雨 赤潮 タンカーからの

石油流失 地震に 津波に洪水も 雪崩に遭

難 持っておいなはれやア……ドンドン 持っ

ておいなはれやア

……

運がないから 運つくように……うん、く
れて……。

その運は……

涙 流してまで……

これは 祈り 只の祭り ……遊び……

遊び……

これは 嘘……ただの嘘……。

……

そんな けつたいな うんを……

……

(神男 逃げまわる……)

……

それでも くれて……

……

よっぼど あんさん この世では 運がな

かったでんなア……

……

えい!! やりまひよ!!

なんぼでも やりまっせえ!!

……

はい はい はい はい なんでも はい

小 中 高 大 院の生徒さん 勉強あん

まり しなはん

女難 男難 三角難 四角難 引受けまっ
せえ。

幸せ いらん 銭 いらん 出世 いらん

マイホーム いらん ビル、マンション

に船舶も ドック タンカー 山も畑も田

地も みーんな いらん

こりア こりア こりア こりア

ワッショイ ワッショイ ワッショイ

お困りでっか?!

農にさわりなはれ こっちえ もらいまひ

よ。

……

ワッショイ ワッショイ ワッショイ

……

あ こりア こりア こりア こりア

よいこらしよ

……

あ そのの 外国人のお方

さわってみなはれ さわってみなはれ

日本には 変わったお祭りありますやろ

……

災難 厄介事 ただで お引き取りします

ね

フランスのお方

ドイツのお方

ソ連のお方

スペインのお方

アフリカのお方

アメリカのお方も

……

おいでやす おいでやす

チェルノブイリーの放射能汚染も

スリーマイル島の放射能汚染も

クエートの油井の汚染も

こっちへ もらいまひよ

その他の ノウ モア ヒロシマ

ノウ モア ナガサキ

ノウ モア フクリューマル

……

嘘やと思われたら さわってみなはれ

どんな 難儀でも みーんな 引受けまっ

せえ

ありア ありア こりア こりア

……

何処でも さわりなはれ

天下御免の裸祭りだす

……

そこ かなんなア

……無料だす……ほんま……

遊びなはれ 遊ばな物事 わかりまへん
勉強位 いつでも どこでも どないして
でも 出来まっせえ。

遊びなはれ 体 丈夫にしときなはれ 心
丈夫にしときなはれ

汗 かいて 働ける体が一番だす。

心の病 多すぎまんナ
病は気からいますやろ？

汗や!! 汗かかな
汗のかける ええ体や!!
そしたら 人間 生活して行けま
幸せに なれまっせえ!!

汗 ただで おわけします
汗 どうぞ
ほーら ほーら 汗 よーけ
ありまっせえ

押すな 押すな 満員電車やあるまいし
そっいえば 毎朝 毎朝 毎夕 毎夕 こ

あかん……
ワッショイ ワッショイ

出もの はれもの ところ きらわすて
神のお告げ……

ほんまでっか……?
神さん 神さん

神はお前やて…… よう いわんわ 儂は
神さんとちがいまんね
サギに ひっかかったようなもんで 神男
になりまして えっ!! それでも 神さん
やて!!

うわーッ!! もう 水かけてくれえ!!
さいや こゝ!!
こゝに 水ぎょうさん かけとくなはれ
……
行きまっせえ……

んなことやってまんナ
……
押すな 押しなはれ
押すな 押しなはれ

下手の方へ よろよろする。
押してんか

上手の方へ よろよろする。
神男の声 もんでんかア

神男 体をくにかくにやにさせる。
さわってんかア

体をくすぐられる感じ……
けりなはれ

けられて ころぶ感じ……
ふみなはれ

手で前をかかす……むこうむき
おー おー ほんま ……ほんま
えゝ気持ちや 水 水!!
暫く そのあたり さわるの中止。

すつきりしたなア……
ワッショイ ワッショイ
男と男と男の情熱って すごいなア……
戦争なんかするより 裸で こんなことし
て発散できたなら 人類の幸せやなア

うわーん うわーん うわーん
何千人もの男の うなり声や……
入墨をした その筋の男も 三、四十人
禪男になっているが 実に チッポケな姿
や……

ふみつけられる感じ……
なぐってんかア

なぐられて よろける感じ……
あー いたア!! ……痛いのええ気持ち
やなア……

ちよっと ちよっと
ワッショイ ワッショイ

えらいとこで しょうべん したった
……
やっぱり 儂 こんなとこで しょうべん
しとなるというのは……神男失格や
準備のとき 大と小 しっかり やったの
に……

三、四の 赤い手袋をはいた男達
桶で 水をまく感じ……
直ぐに 乾いてしまふ
儂達の頭の上に 次から次へ 水をぶっか
けているが 直ぐに 蒸発してしまふ。

上空で、ヘリコプターの音。
新聞社のヘリコプターや
おーい おーい
うっしてくれえ……
儂が 儂が 今年の神男やでえ!!

神男 失神をして うづくまる
ワッショイ ワッショイ

……

声 神男はどこじゃ
神男はどこじゃ

………
さわらせろ さわらせろ さわらせてく
れエ!!

(四) 儼追殿及び廊下

神官の声 一宮おなりーノ

一宮が木靴をはいてやって来る感じ。

神官の声 二宮おなりーノ

二宮が革靴をはいてやって来る感じ。

神官の声 三宮おなりーノ

ハイヒールをはいた三宮が来る感じ。

神官の声 四宮おなりーノ

タップダンスで四宮来る感じ。

神官の声 五宮おなりーノ

軍靴でやって来る感じ。

神官の声 六宮おなりーノ

下駄をはいてやって来る感じ。

神官の声(日常生活の感じで)神々さま
ーと みなさん お揃いになっております
かな?

欠席 遅刻は ありませんか?
では 只今より(改めて)国家安穩 五
穀豊稔を祈願する祭典をとり行なわせてい
ただきます。

神官の声(神呼びのうなり)うおー ーッ
うおー ーッ ーッ

掛けまくも畏き 筑紫の日向の橘の小戸
の阿波岐原に 御襖被へ給ひし時に生り坐
せる被戸の大神達 諸々の禍事 罪 穢有
らむをば被へ給ひ 清め給へと曰す事を聞
し食せと 恐み 恐み曰す。

神官の四拍

只今 儼追行事の最中であつたか

せい。

政治の力で出来ないから
経済の力で出来ないから
科学の力で出来ないから
こういうことやる これは 気休め。

………
ずっと ずっと 大昔からあるそうやが、
……飛鳥時代も 戦国時代も 徳川幕府時
代もやって来て まだ………
日本のペレストロイカ どのようになってるの
かいな?

近頃は、日本人の顔から人間の表情が だ
んだん 消えていつている。
生命保険がそうや 生命に 人権と民主主
義を付価値するのやなしに 馬券まがい
に銭をはる。

みんな困ったとき助けあえる世の中なら
生命保険なんかいらんのや。

貯蓄になります 資産になります まさか
の時大きな補償になりますやなんて まさ
かの時 ないようにせえいうのや。
人間同志 共食いするのやなしに 助けあ
いせえいうのや。

神官の声 神男 大鏡餅を神前へ はこびま

神官の声 神男ノ 神男ノ
儼追殿から できませい……

間

神官の声 おいノ くらノ 神男ノ
神男 うるさいわいノ 只今 昼寝の最中じ
やノ
神官の声 な な なんじゃとうー
いやしくも 神々の御前であるぞ……

神男 禪に 丁度 さがりのかわりに
紅白の布をたらししている。
太い竹筒にぐるりぐるりと紅白の布を
まきつけ 又 紅白の布で神男はぐるり
ぐるりとまきつけられている。
大きな あくびをする。

神男 あー よう ねむった ねむった
さアーて 今日会社へ行つて がんばる
かノ
あれえ?

直径一米二十糎、厚さ二十五糎もある
大鏡餅を神男ひっぱる。

神男 この大鏡餅に 一切の疫病やというわ
けで泥を塗りたくり これを 儼に背負わ
せて つぶてを儼に投げつけて 神聖な神
域から追出すのやて……
………なんちゅう いじめの神々や こん
な事で 世のなかの矛盾 解決するもんか
バカ。

こんな事で 生物学上の厄や病氣 解決
するか。
儼の大事なあそこ どうも おかしい
………ゆるんだ 生ゴムみたいで まア
おしよすいは チョロチョロ 出るか
………もう 役にたたへんのとちがうか。
………その代り 今まで 役にたたへんかっ
た奴のが………
あんまり ぎょうさん 厄 請負いすぎ
たなア。

大鈴が鳴る。
大太鼓が鳴る。

刀 槍 弓をもった数人の黒衣装が舞う、
刀の先 槍の先 矢の先を 神男の顔に近づける、

神男 運びます 運ばせて戴きます
私は奴隷です これを 神男やんて ならちゅうごまかしや。

黒衣装の数人 大鏡餅に泥をぬる。

その大鏡餅に紙人形を立て ローソクを立て 火をとます。

桃の枝と柳の枝を一寸ほどに切って紙にくるんで つぶてをつくる。

そのつぶてを一勢に神男にぶつける

大鈴 大太鼓 激しく鳴る。

大歓声がわきおこる、

神男 四つん這いになったり ころんだり 坐ったり ひっくりかえされたりする。

声 ばんざーい!! ばんざーい!! ばんざーい!!

神男 必死に逃げる。つかまって、神男にこんどは大鏡餅を背負わせる

追いたて つぶてを投げる

神男 よろよろしながら 大鏡餅を背負って 必死に逃げる 逃げる

逃げる 逃げる。

遠くで 神社の鈴 太鼓

神男 息も絶え絶え。

大鏡餅をふりほどいて よろよろと去る。

数人の黒衣装 餅を土中に埋める。

(五) 柿の木の枝の下の神男

神男の声 僕は 全く 廃人になってしまおう

たなア……。

あれも お役に たたん。

嫁はんは あいそつかして 親元へ帰ってしまよった。

離婚してくれといよる……。

会社は会社で無届け欠勤で首やといよるし

……僕の人生 むちゃくちゃになってしまつた……。 あーあー。

後は 首 くるるしか 手エないなア。

……

神社に損害賠償 もとめる 裁判 おこしたるか……。

近頃の裁判所 あんまり 信用 ならんしなア……。

毎年 毎年 ある行事で お前のミスやという判決で 高い裁判費用 損になるだけの事か。

賢臓 心臓 肝臓 脳味噌もおかしいなア……。

昔は犠牲者が この祭りでは 出たというが 僕も そうか。

僕の人生も これで おしまいか……。

この上は、生体臓器移植に利用されないかなア……

今の医者 は なにしよるかわからん。死にとうはないけど ここは もう 死ぬしか 手エはないか。

泣きながら 柿の木の枝に縄をかけようとするが なかなか かけられない。 やっと かける。

神男の声 しかし こんな バジヤマ姿で ぶらさがってはいは 不恰好や。

そうや もう 好きなゴルフにも行けんし……

神男 ゴルフの派手な上着にズボン 帽子 靴。

あーあ あーあ 世間のお人は楽しそうに遊んだり 旅行したり 生きているのに僕は 死んでいかんならん。地獄に落ちました 完全に地獄に落ちました。

職業柄 生命保険には加入してあるし 二年は経過してあるから 死に至る病の判定で 保険金は出るし 退職金も わずか

ばかりある 厚生年金も少しはおりる。

逃げた女房と子供二人は 生活 なんとか やっていけるやろ。

……

ライバルだった岩野照子はニクニクしながら僕の保険の事務をするやろな

腹が立つなア

腹が立つなア

しかし、意外と好意 もっていたふしもあった。

こう ウィンクして……

誘惑してえ……なんて 色仕掛けの毘だっ たかもしれんなア。

もう どうでも ええわ あかん

夕焼け雲の中の神男。

この おかきをアテにして 缶ビールを のんで ひとおもいにいきまひよかい。

神男 おかきをかみ 缶ビールのを のんで……

縄に 首を つっこむが…… 縄 切れてしまふ。

あかんア僕はなにをやっても…… 会社の仕事も よう ミスしたけど 死ぬときもやなア。

大鈴が鳴る。

上から神の葉 無数に落ちる。

神の声 (岩野日売命) 神男 よく 聞け そちは 死ぬことに失敗したのではない もう 立派に死んでいるのじゃ。

神男 えノ そんな……

僕 まだ 死にとない 死ぬ覚悟したけど 迷っているだけや。

神の声 ビールは飲め。

神男 はい ほな 戴きます(飲む)

この喉を通るときはうまさ こんなんまだ死んでおりまへんで。

神の声 だめノ もう 死んでおる…… 神男 取り消しノ

神の声 死んでしまっているのに 取り消しは効かないノ

神男 そんな殺生なノ

そんならまア そないしときまひよ
(するめをかじる) 齒 こない 丈夫でっ
せ ええするめの味 しよるなア……
もう 死んだやなんて……
生きてる時 不足 ばっかり いうていた
けど……いざ 死んでみると……
生きていたときが なつかしいなア……
あの パチンコの音……立ち呑み屋のお
い 満員電車 上司にしかられたこと ポ
ーナス袋……税金のとくそく(するめ
をかじる) (泣きながらビールを飲む)
僕 まだまだ 死にとうない。

(六) 古代式の警座にかこまれて神男

しめ縄が張られ 火があかあかと
炎えている

神男 やっぱし 僕は もう しんでいるの
かな。

神官の声 (やや低く 呪文的に)
此の神床に座す 掛けまくも畏き居士の大
神等の大前を拜み奉りて 恐み恐みも曰す

天女 あれは 大后 石之日売命 嫉妬し多
かこと ほ、ほ、ほ、ほ、

神男 うやうやしく 花を献上する

天女 うい男じゃ ちこうに坐れ

神男 ひゃー……あの 行列はなんでっ
か

どこかの運動会の仮装行列でんね?

天女 葛城の曾都比古が女 石之日売命大后
じゃ。

天女 大雀命が難波の高津宮に坐して 天下
治めたもつておる。仁徳天皇さまじゃ。

神男 僕 やっぱ もう しんでおる。
なさけなや なさけなや……

……
せやけど あんた ほんま うちの会社の
吉野君とちがう? 吉野由理君とちがう?
同じ人物やと思うけどなア
その につ……て笑うとこや
上唇の魅力的な薄くて品があつて形のよい
ところ。

耳たぶのふっくらとして さくらんぼ色
をしているところ なかなかのお色気や。
天女 馬鹿 馬鹿 申すな。

大神等の広き厚き御恵を辱み奉り 高ち
て誠の道に違ふことなく 負い持つ業に励
ましめ給ひ 家門高く 身健に 世のため
人のために尽さしめ給へと 恐み恐みも曰
す。

天女がやって来る。

神男に こちらへ こちらへと手招
きをする。

神男 ふらふらとついて行く。

神男 僕は やっぱ おかしな おかしな国
へ来てしもうた。

天女はんノ

あれ? あれ? あっ お前は いつも
会社で キイをミスばかりしていた由理じ
やないかノ

天女 ドン百姓: 奴隷ノ

神男 ドン百姓? 奴隷ノ

天女 れんげの花をとってまいれ。

神男 しぶしが れんげをとってき
て 天女に渡す。

ひざまづいて うやうやしく き
し上げるように指図する。

神男 従う。

天女 あの崖の上に よじのぼつて すみれ
の花をとってきやれ。

神男 あのノ (指で自分をさす)

天女 コンパニオン会社に転職したんですか

?

天女 汝はあが奴婢じゃ

神男 奴婢?

天女 奴婢ともいう。

神男 えらい地獄に落ちたもんやなア。

あんさん なんともしえん ええお化粧の
香りしまんな 花から しぼるんでつか?

天女 天女にむこうて なにをぬかすか?

時には 下賤な言葉も おもしろい
とってまいれ。

神男 崖に登る感じ

神男 天女はん おいくつでつか?

天女 天女に歳はない 永遠の美女じゃ。

神男 さよか。

天女 舞を舞う
むこうをみて

税金づけです。

人民のこと おゝみだから……うまいこと
言うてくれまんナア。

何回 選挙やっても 聖首相というの出て
きまへんな。

天女 今

天皇 吉備の海部直が女 名は黒日売
其の容姿 端正し 聞こし看上げて使ひた
まひき。

神男 その看上げて候ひたまひき……

召し上げて 自分の女にしたということど
つか?

天女 おゝむね。

神男 僕はそなたを め上げて使いたい。

天女 そなたの あれは 用が足せるのか?

神男 ありア……

困ったなア……

……
実は……健負人になりまして……さわら
れ ひっぱられ 引き抜かれそうになりま
して それからというもの。

天女 静かに 聞きやれ。

神男 ヘェ、

天女 然るに 其の大后の嫉みたまふを畏み
て 本国逃げ下りき。天皇高台に坐まして

其の黒白売が船出でて海に浮べるを望み
て歌曰ひたましく

沖へには 小船連らねて
まさづ子我妹国へ下らす

太后 是の御歌を聞かして 太く怒り人
を大浦に遣はしたまひて 船より追ひ下し
て 歩より追いきりたまひき。
「淡道嶋を見まく欲う」と曰りたまひて幸
行し時に

おしへるや 難波の崎よ 出で立ちて
我が国見れば 淡島 濃能基呂島嶺
嶺の島も見ゆ 離けつ島見ゆ

とうたひたまひき。

大御羹を煮むと 松菜を採める処に到り
て

山県に 蒔ける松菜も 吉備人と 共
にし菜採めば 楽しくもあるか

天皇上り幸す時に 黒日売 御歌を献り

て曰ひしく

倭方に 西風吹き上げて 雲離れ 退
き居りとも 我れ忘れめや

倭方に 行くは誰が夫 隠り処の 下
よ延へつつ 行くは誰が夫

天女 うやうやしく ひれ伏す。

太后 しづしづとやって来る。

太后 黒日売を船より下せし使ひ やりたる
に そのまま 戻りもせぬに いかにか 油
をうりたるか。

神男 うちの会社の岩野さんでんな?

今日 保険の契約 なんぼ とれました
? ギネス ブックに又のりまん?

太后 なに 空ごとを申しおるか。

太后 ちで 神男を打つ仕草。

神男 もうノ 儼儀 災難は終わったはずや
のに。

あー いた おー いたー。

天女 あやまれノ

神男 ぶいと横をむく。

天女 神男を足払いで投げ 頭を 地
面に ぐりぐり すりつける。

天女 おねがいだからあやまって頂戴ノ

神男 謝れ 謝れて なんで謝る事があるね
これだけ 無理難題 災難 せおいこま
されて 謝ってほしいのは こっちじゃノ
太后 首ノ 使用人は首じゃノ
その上に 死刑を申しわたすノ

太后 去る

神男 紅白の紐で 体をぐるぐるにま
かれ 立ち木を切つて幹を割り その
間に くさびをさしこみ くさびの上
に神男を置く。
くさびを引き抜くと 神男は つぶ
れてしまう古代の死刑。

天女 ……

謝れと申したに…

(七) 夕陽ヶ丘生命保険会社

岩野女史、吉野嬢が キビキビした
態度で たちはたらいている。
コンピューターの音。

岩野 吉野さん。

吉野 はい。

岩野 女性保険が良くのびているでしょう?

吉野 …… ニーズが高いわねえ。

吉野 そうです。

岩野 貯蓄性の高いものとか、年間とセット
したものとか… 次の部課長会議に提出す
る資料お願いしますね。

吉野 はい わかりました。

係長 失礼しました。課長 山川さん

ほんとに 首ですか?

岩野 あたり前ですよノ

三日間の休暇のあと 十日間も無断欠勤
十一日目に出勤してきて支社長に怒鳴りと
ばされると 会社の玄関前で裸おどりました
でしょう?

完全に 精神におかしいわよノ

吉野 え、もうノ、あれには…

お昼時で 他所の会社のOL達も びっく

…
ただ ひとこと すみませんと
どうも どうも すみませんと 軽く
…
死刑は まぬがれたに…
…
そのつなを ひっぱると
そなたは そなたは…
神男 蛙がつぶれるように 儂が木の間に
ぐちゃ…

大鈴 大太鼓が鳴る。

岩野の声 よーしノ綱をひけいノ

天女 懐から短刃をとり 綱を切り
紅白の布を切つて 神男を救う

二人 逃げる。

二人 走る 走る 走る

天女 倒れるのを抱き起こし 走る。

天女 動けない 逃げろと手振りする
が 又 二人 立ちあがり 逃げる

覆い茂った草のあいだに逃げる。

天女 お怪我は なかったか?

神男 あっち こっち 怪我だらけじゃ、

天女 おお かわいそうに

我が隠れ屋にまいれ のう?

かわゆいお人じゃ さ さ…

天女 神男の腕をとり もたれる
甘え 肩に頭をのせる

天女 くちづけをたもれ。

神男 ありゃ?

これは又?

夢じゃ うつつじゃ うつつじゃ 夢じゃ

う? え? う?

しっかり…して来たノ
あれ? これは まことか!

りして 黒山の人ざかり。

岩野 破廉恥行為ですもの

吉野 二十年も 会社に勤務したんでしょ
う？ 退職金 年金 どうなるのですか？

岩野 あなたが心配してあげることないわよ

.....
依頼免職にでもなれば 奥さまに 支払う
そうよ、

吉野 でも 奥様 逃げてしまったって。

岩野 奥さん キャリアウーマンだし 見切
りつけたんでしょ。

吉野 家の権利書も持って出たそうです。そ
こまでしなくても。

吉野 あなた 同情しているの？

吉野 いゝえ ただ お気の毒で。

岩野 もっと クールノ 激しい競争の時代
ですから もっと クールにノ 直ぐ 落
ちこぼれてしまいますよ、

女のやさしさも 逆手にとる位でない

吉野 あっノ

山川 背広を きちんと着て いつも
の朝のように 出勤してくる。

山川 おはようございます
おはようございます

山川 なにげなく 坐ろうとするが
机も椅子もない。
他所の椅子をひっぱって来て坐る。

山川 しばらく お休みを戴いております
吉野 おはようございます。

吉野 お茶を出そうとして岩野をみる
吉野 首をふるが、お茶を出す草。

山川 その節は 大変 お世話になりました
吉野 その節？

山川 いや 恐縮です.....全く.....恐縮
.....難波の都の節は。

吉野 ?

岩野 あなたは もう 依頼免職ですよ。

山川 どうして？

.....いつから 課長に？

岩野 あなたが十日間も無断欠勤なさって
る間にです。

山川 私.....十日間も 無断欠勤いたして

おりません。

岩野 夢でも みていらしたの？ それとも
ノイローゼ？

山川 きようは 十日？ ですか？

岩野 きようは二十日です。

山川

人間 二十年も働いていると十日位 病
気をすることもあるじゃありませんか。

岩野 病気？
お上手ねえ？

.....
必要です。
山川

岩野 おかしいのは あなたの行動です。
あなたという人間です、

山川でも..... 会社の命令で神男の
候補者になれといわれて... そして... 選ば
れて 神男になって.....

岩野 だから 三日間は出勤扱いとしました
その後の十日間です。

アリバイがありますか？

山川 アリバイ？

私は犯罪をおかしたのですか？

吉野 そのようなものです。

山川 私は 人を殺した事ありません。

人をだました事ありません。

人を陥れた事ありません

人の悪口をあまり言いません

交通事故をおこさないように

大氣中にバラまかないように 地球環境を

守るために 車も免許はとりません。

平凡な 平凡な 係長です。

少々 パチンコが好きで

少々立ちのみが好きで

少々ゴルフをやりますが 大抵は打ちっぱ

なしで千円で五十個 打つ程度です。

ただ 難点というは ゆとりが好きで、だ

から のろまで..... やさしすぎて...成績

は芳くない。

岩野 そのとおりです。それは 現在の企業
では 生残りをかけている企業では美德で
はなく悪徳なんです。

だって これだけ 悪人ばかりで社会は構
成されているのですから。

あなた是企业にとって邪魔者なの。

山川 馬鹿にしないで下さい。

今の日本は女性の天国です。活発で 利発
で 健康で 自由で 生き生きとしており
ます。

若い女性から中年の女性までビールは飲
む、チューハイは飲む、ブランドーは飲む
タバコは飲む、男はどんどのりかえる。

離婚しても所得税額がうんと安い。

岩野 この場におよんで男の泣き言ですか？

山川 支社長！ 支社長！

山川 走って行くが.....

岩野 支社長外出中です。

山川 支社長！

岩野 支社長外出中です。

山川 私にも人権があります。労働組合に頼
みますよ

.....最後の皆は労働組合だからな

日本は なんととっても 労働組合があり
ますからな。

吉野 その労働組合の支部長は岩野さんです
よ。

山川 ええっ！ いつから!!

吉野 一週間前から.....

岩野

.....わかりましたか？

.....おみぐるしいわよ.....男らしく

.....さア.....お立ちなさい。

.....

山川 出て行きかける。

.....首にする 首にする.....

.....首にする 首にする.....

.....

.....古代社会でもあるまいし... 武士社会でも

.....あるまいし.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

これは おかしい 過労死になるか首になるか……

これはおかしい……
もっと 人間は大切なものなんだ!!
いったい ぜんたい 人間をなんとして
えているかノ

ワイシャツ ネクタイを自分でひき
さいて行く。

ワッショイ ワッショイ ワッショイ

あ こりア こりア こりア

上手から下手へ 下手から上手へ
表裏 紅白の扇子を両手にもって

ワッショイ ワッショイ ワッショイ

厄除け祭りじゃ 厄除け祭りじゃ

勤労者の厄除け祭りじゃ 一般市民の厄除
け祭りじゃ
ワッショイ ワッショイ

天井から 無数の紅白の雪が降る。

神男 客席にむかって 紅白の雪をまく

—幕—

〈おわびとおねがい〉

文中ルビ振りに不十分なところ
があります。上演の際は必ず、
作者のご教示をもらって下さい。

(はぎ)

〈作者住所〉

東川宗彦

581 八尾市服部川二二一八

〇七二九一四一一〇五五四

八三号後記

◇編集プランが立たず、何やらお仕着せの原稿の羅列になってしまっ
た。それぞれが連絡がなく一本立ちしている。この傾向は今後もつ
づきそうだ。危険でなくもない。もちろん言うまでもなく桜井郁子
さんの「モスクワ・レポート」などは別格。

◇こばやしさんの、劇団はぐるま「地域に根づく」論はまたまたの
PRではなく、これは七月、名古屋で開催される『世界劇場会議』
のシンポジウムへ提出されるレポートとして、全り演東会議議長
団の要請であたらしく書かれたもの。内容の重点として、地域劇団
のアート・マネージャーが力説されている。

◇再度、八月三重での「演劇フェスティバル」を誌面で盛り上げた
かったが、執筆者の予定がたまたま、表紙裏の広告記事にとどまっ
てしまった。しかし出場劇団の顔ぶれ、演目がわかっただけで胸がお
どる。何やら東・西対決の相がある。

◇昨年十一月、紋別の「ガリンコ演劇祭」の劇評に劇団新芸の宮津
泰子さんが一役買って下さり、出来工合も上乘で、何処かに誰か
が居ることを実感した。酔っ払って眠ってしまった老劇評家何某
くたばれノ

◇「東京動くものの演劇祭」の劇評の福島重雄さんは、日本共産党
創立七十周年記念・文芸作品戯曲部門に「わたしは原発、わたしは
蒸気発生器」で佳作に入選されたひと。第一席入選は「列車が空か
ら降ってきた」、作者はよく知られている岡山の乾一雄さん。
◇戯曲の話にうつれば、「演劇会議」の周辺でも波立っている。出

来ることなら特集号でも編みたいところだが、さしあたって出来な
い。劇団四日市の森健郎氏の「花かげ」、劇団名芸の栗木英章氏の
「紅い花」、劇団やませの榎谷伸夫氏の「出立つ日」、仙台小劇場
の石垣政裕氏の「ゴヤ、最後の肖像画」(訳本)、かたおかしろう
氏の「浪浪家定九郎遺聞」、こばやしひろし氏の「ブッダ」、そし
て本号所載の東川宗彦氏の「神男」。

巻頭の大橋喜一さんの論文を合わせ鏡にするとすこし元気がわい
てくる。

◇さいごに前号での大きな校正ミスをおわびします。演劇サークル
トラムの金本利雄氏の劇評を表紙目次で逸しました。原稿がおくれ
てとどいたためですが言訳にはなりません。お許しを。

(もも)

演劇会議 八三号

一九九三年五月二〇日発行

編集委員

定価 五〇〇円(送料二四〇円)
萩坂桃彦・こばやしひろし
丸子礼二・仲 武司・梶 武史
栗原省一

発行所

演劇会議発行所

〒210 川崎市川崎区渡田四一―一三
はぎ書房内

誌代振込は

郵便振替 横浜〇・一七二二七
演劇会議発行所